2024年度

講義要覧

— SYLLABUS —

社会医療法人 明和会

中通高等看護学院

シラバス（SYLLABUS）とは、授業のねらいや内容、開講期間中の進度、学習方法、使用テキスト等を記した授業計画のことです。授業担当者が何を目的として授業しているのか、何を皆さんに期待しているのかといった内容がギッシリつまっています。じっくり読んでください。授業をうけるにあたって、これらを予め知ることは、授業への興味・関心を高める上で重要なことと考えます。

シラバスを効果的に活用し、学習が深まることを期待しています。

●教育理念●

対象のその人らしい暮らしを支えるため、「自ら学び続ける力」「考える力」「行動する力」「センシング力（現実から情報を獲得する力）」をあわせもち、看護を創造できる能力を養う。地域と明和会の保健医療を担い社会貢献できる看護実践者を育成することを理念とする

●教育目的●

人間を尊重し、心のこもった看護ができる実践者として地域社会に貢献する人材を育成する

●教育目標●

1．看護を創造するために対象の価値観を尊重し、健康でその人らしい暮らしを理解できる

2．対象の状況をつかみ必要な看護を考え判断し実践できる

3．看護師としての責務を自覚し、誠実で、倫理に基づいた責任ある行動がとれる

4．対象や暮らしの多様化に対応し保健医療チームの一員として多職種と協働できる

5．ビジョンを描き、学び続けることができる

●カリキュラムポリシー●

中通高等看護学院は、少子化及び高齢化の進む秋田県において、地域と明和会の保健医療の担い手として活躍できる、看護実践者を育成するために次のようなカリキュラムを編成し、実施する。

1．秋田における今後の医療動向を見据え、少子高齢化、多様化、地域医療のニーズへの対応が求められる。そのために、4つの力「自ら学び続ける力」「考える力」「行動する力」「センシング力（現実から情報を獲得する力）」を発展させながら看護実践能力を育成するカリキュラムとし、「基礎分野」「専門基礎分野」「専門分野」で構成する。

2．基礎分野・専門基礎分野は、対象のその人らしさや暮らしを理解するために、「人間理解」「人間の暮らし」「人間の健康」の3領域で科目を構成する。

3．専門分野は、看護について深く学ぶ。看護は、「対象がその人らしく暮らせるように医療の側面から支えることであり、支えるとは、対象の想いや願いを尊重し、意思決定に関わったり、対象にとって最適な援助を見出し、実践できること」である。人間・暮らし・健康を基盤として学びを深め、4つの力を発展させる。

4．地域包括ケアシステムで活躍できる人材育成に向けて、1年早期から積み上げ式に、地域と暮らしの理解、暮らしを支える看護など地域における看護を学ぶ科目を配当する。1 年次から、地域へ出向き、フィールドワークを通じて人々の暮らしの理解を深める。

5．臨地実習では、4つの力と地域で暮らす生活者としての対象を軸とし、各看護学の科目を設定する。

6．実践の場に即した臨床判断能力の育成のために、シミュレーション教育やアクティブラーニングを活用する。電子テキストを導入し、ICT の活用を行う。また、意志ある学びができるようにプロジェクト学習も取り入れる。看護専門職として自己のあり方を省察する能力を身につけるために「看護リフレクション」の科目を設定する。

7．学習目標の達成度を総合的に評価するために、科目に応じた多様な評価方法を取り入れる。

●ディプロマポリシー●（卒業認定についての方針）

Ⅰ．自ら学び続ける力

1．よりよい看護をしたいという思いを持ち学び続けることができる
2．自己の課題に気づき解決に向けた努力ができる
3．自分の良さを生かし、自分の描いた未来に向かって成長することができる専門職業人として成長することができる

Ⅱ．考える力

1．情報と知識を照らし合わせ、判断することができる
2．その人らしい暮らしを支えるために必要な看護援助を根拠に基づき考えることができる
3．実践した看護を振り返り、よりよい看護を考えることができる

Ⅲ．行動する力

1. 自分も他人も大切にし、よりよい関係を築くことができる
2. 対象の持てる力を活かし、安全で安楽な看護が実践できる
3. チーム医療の中で看護の視点から情報を発信し、協働できる
4. 倫理に基づいた責任ある行動がとれる

Ⅳ.「センシング力」(現実から情報を獲得する力)

1．対象の願いや思いを大切にし、個人として受け止め尊重できる
2．場面・状況から事実を掴み、必要な情報を獲得できる

発展させたい4つの力

自ら学び続ける姿勢	学習習慣を身につけ、よりよい看護をしたいという思いと関心を持って学ぶ姿勢。これからのキャリアビジョンを描き、自分に必要な力や課題を発見し、何のために何をやり遂げたいのか明確にする力。目的を持って、自律して学ぶ力。気づいた課題について解決しようと努力する力。 看護実践を通して、対象にあった看護の質を向上させること。看護の質について、実践した看護を振り返る姿勢。 育てたい力は専門職としての責任や自律性、誠実に看護師として学び続ける姿勢、リフレクションを通して経験を価値化する力。
考える力	情報の意味を分析し、これまでの経験や知識と照らし合わせて思考する力。対象に最適な援助になるように判断できる力。援助の根拠を吟味できる力。考える力には情報獲得収集、思考、推察、解釈、分析などが含まれる。 育てたい力は、省察力、批判的思考力、創造力。
行動する力	自分も他者も大切にし、関係性を築く力。考え、解釈、分析した根拠を明確にして対象にとって最適な方法で看護実践する。対象のその人らしさを追求し、安全・安楽な看護実践ができる力。 育てたい力は、人間関係形成力、看護過程展開力、根拠ある看護実践力、チーム医療のなかでの多職種との協働力および調整力、指導、教育力。倫理に基づいた行動力。
センシング力	対象への関心と人間理解を基盤とし、願いや想い・反応を受け止める力。反応とは、心身の状況、痛みや辛さ悲しみや喜びなどの心の動き、大切にしているものであり、それらに気づき、感じ取り、看護に反映する。センシング力とは、状況や事実を捉える力・情報獲得力であり、獲得した情報を俯瞰し、客観的な視点から看護に反映させる。 育てたい力は、感性、倫理観、人間理解、多様性の理解、洞察力、俯瞰力、情報獲得力、想像力。

教育課程の構造図

臨地実習　看護の統合と実践実習

専門分野

看護の統合と実践	看護研究方法論　看護管理と医療安全　国際看護　災害看護　看護技術の統合 多職種連携
小児看護学	小児看護学概論　小児疾患の病態と診療　小児看護援助論Ⅰ　小児看護援助論Ⅱ
母性看護学	母性看護学概論　周産期の診療　妊産婦の援助論　母と子の援助論
精神看護学	精神看護学概論　精神疾患の病態と診療　精神看護援助論Ⅰ　精神看護援助論Ⅱ
老年看護学	老年看護学概論　老年看護援助論Ⅰ　老年看護援助論Ⅱ　老年看護援助論Ⅲ 認知症看護
成人看護学	成人看護学概論　周手術期援助論　成人看護援助論Ⅰ　成人看護援助論Ⅱ 成人看護援助論Ⅲ　臨床推論
地域・在宅看護論	地域の理解　在宅ケアシステム　地域・在宅看護の対象理解　地域・在宅看護概論 在宅看護技術　対象に応じた在宅看護
基礎看護学	基礎看護学概論　看護リフレクションⅠ・Ⅱ・Ⅲ　共通技術論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ 日常生活援助論Ⅰ・Ⅱ　診療・検査時の援助論　治療・処置時の援助論 臨床看護総論　臨床判断

臨地実習
小児看護学実習
母性看護学実習
精神看護学実習
地域・在宅看護論実習
成人・老年看護学実習Ⅲ
成人・老年看護学実習Ⅱ
成人・老年看護学実習Ⅰ
基礎看護学実習Ⅲ
基礎看護学実習Ⅱ
基礎看護学実習Ⅰ

専門基礎分野

人体の構造
人体の機能
栄養学　生化学
生命現象のしくみ
運動生理学

社会福祉
関係法規
ナースがみる人体

病理学　検査と治療法概説Ⅰ・Ⅱ
病態と診療Ⅰ～Ⅳ
薬理学　微生物学　公衆衛生学
総合保健医療論　臨床心理学
リハビリテーション論

基礎分野

人間理解
論理学　心理学
自己の探求　人間関係論
ヒューマンケアリング
キャリア教育論Ⅰ
キャリア教育論Ⅱ

人間の暮らし
情報科学　倫理学
法学　家族論
社会学　英語
コミュニケーション論

人間の健康
生活と健康

プロジェクト学習

みなさんは、どんな学びをしたいと思い、この講義要覧(SYLLABUS)を手にしていますか？また、どんな看護師になりたいと考えていますか？

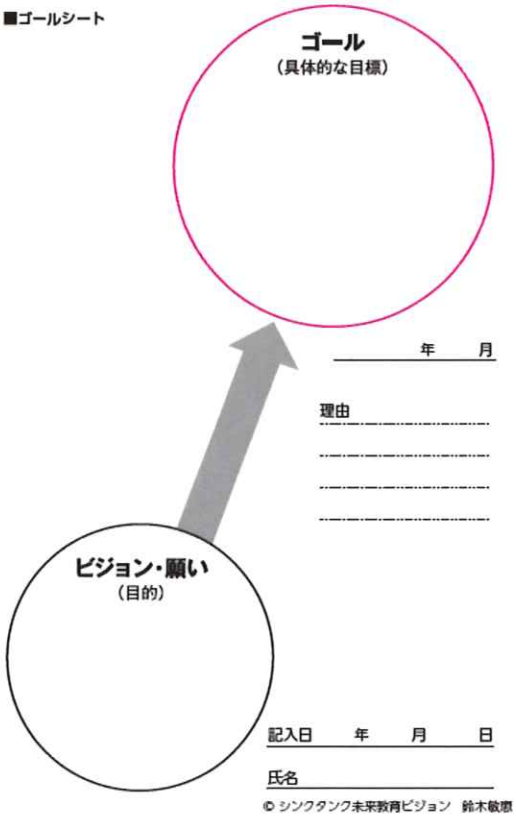
その“なりたい”という願いが、学ぶ原動力です。

みなさんが“こうなりたい”と描く未来に向かい成長し、意志ある学びをするために、2020年度からプロジェクト学習を取り入れた科目を設定しました。

プロジェクト学習とは、「何のために」「何をやり遂げたいのか」、ビジョン（目的）とゴール（目標）を明確にし、ありたい未来を描き、ゴールへ向かうプロセスで課題解決力を身につける学習手法です。ゴールに向かう過程で、看護師に求められる課題発見力・目標設定力・計画する力・状況を見極める力・表現する力・コミュニケーション力などが身につきます。

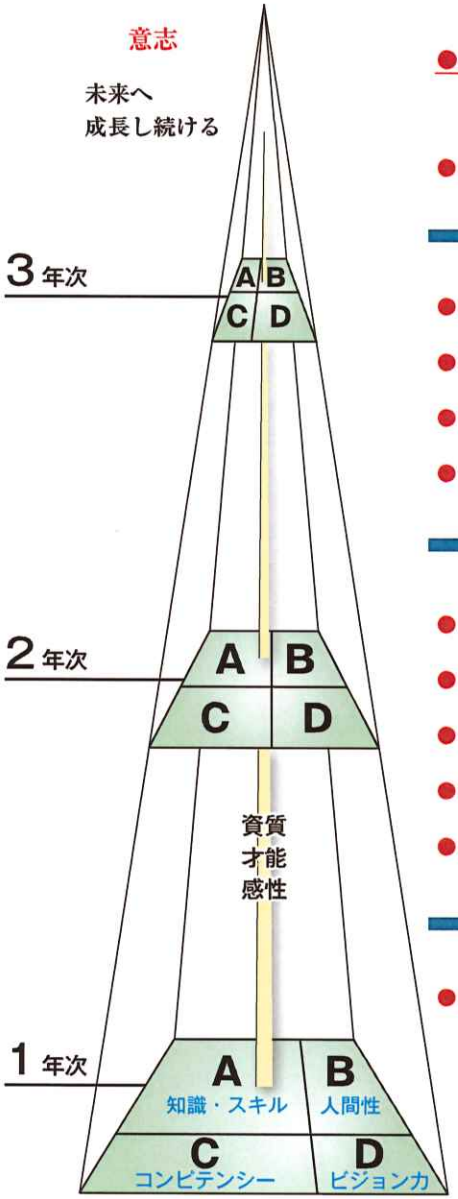
講義要覧(SYLLABUS)には「プロジェクト学習」と記載されている授業科目があります。そこには、プロジェクト学習・シラバスが掲載されています。

さぁ！一緒に“意志ある学び”を叶えていきましょう！！



意志ある学び　―　次世代教育(プロジェクト学習・ポートフォリオ・対話)を主体とする　3年間のカリキュラムマネージメント　　中通高等看護学院

設計・指導：鈴木敏恵



● **Ability**：能力・性能・手腕

● 多様な生き方・働き方

● 未来をイメージする力

● 課題発見力・課題解決力

● 地域創造

● 人間と社会との関り

● 人間の尊厳・倫理

● 論理的思考力

● 知識を現実に活用する力

● 提案型プレゼンテーション力

● 他者を看て護る人になる自覚

● 自律：セルフマネージメント力

■ **Concept**：人間を中心とするプロジェクト学習

■ **未来**

マイキャリアストーリープロジェクト(※キャリア教育論Ⅱ)

描いたキャリアビジョンに向けて行動する。
領域別実習終了後、全体をリフレクションして、自分がどこにむいているのかレポートし、キャリアビジョンを共有する。

■ **統合**

「臨床から的確に情報獲得でき、優先順位を決定・行動できる」
ー多重課題・複雑性ー(看護技術の統合)

■ **キャリア**

マイキャリアストーリープロジェクト(キャリア教育論Ⅱ)
「自分の資質や夢と目指す専門性を重ね、キャリアビジョンを描こう！」

自分が持っているもの、求められているものを知り、キャリアプラットフォームを活用し目指す看護師像に近づく。
リフレクションとリフレーミング、4つのキャリアシーンについて理解し、セルフコーチングする。

■ **社会**

「私たちの秋田県少子化対策を考えよう！」(母性看護学概論)
他　科目プロジェクト

■ **生き方**

マイキャリアストーリープロジェクト(キャリア教育論Ⅰ)
「"自分の存在"や"看護師の仕事"の価値について考え、キャリアビジョンを描こう！」

"ありがとう"と言ってもらえた経験や、看護師に向いている自分の特徴や資質に気づき、なりたい看護師像を描く
キャリアポートフォリオの作成スタート

■ **家族**

ナイチンゲールプロジェクト(成人看護学概論)
「身近な"成人期"にある大切な人の健康を守る提案集をつくる！」

身近な人の健康課題から、日常生活に則した具体的な生活改善の提案をする。
看護の目で人の健康を観察できる力、教科書とリアルを常に一致させる知的習慣を身につける。

■ **健康・身体**

生活改善プロジェクト(キャリア教育論Ⅰ)
「1年生に役立つ、健康生活を叶える生活提案集をつくる！」

自らをより健康にするためのプロジェクト学習
自分の生活や健康を客観的に見て意識する。
生活シートや身体シートを記しライフポートフォリオを作成
プロジェクト学習手法を身につける。また、メタ認知力を育成

キャリア ポートフォリオ

就職／大学等

・方向性
・専門性
・スキル
・資質
・能力

キャリア ポートフォリオ
↑
パーソナル ポートフォリオ

パーソナルポートフォリオをキャリアポートフォリオに発展、継続させ
どんな看護師になりたいのか、看護師としてどう生きたいのかなどキャリアビジョンを描く。

パーソナル ポートフォリオ

・資質
・能力
・個性
・動機
・背景

□ 自己理解
□ 資質・関心
□ 自己肯定感
□ 自尊感情

パーソナルポートフォリオを作成し、自分が力を入れて取組んだこと経験したことなどを顕在化することで、自己肯定感を向上させる

Copyright © 2021 シンクタンク未来教育ビジョン　鈴木敏恵　All Rights Reserved

3年間の学びを通した長期的ルーブリック

卒業時までに到達する内容を示しています。日々の講義・演習・実習等で身につく力を意識し、自信をもって卒業できることを期待します。

各年度の前期・中期・後期の最終日に、自己評価し、出来ていると思う項目の□には、レ点を書きましょう。

教育目標 (卒業時の到達)	1. 看護を創造するために、対象の価値観を尊重し、健康でその人らしい暮らしを理解できる	2. 対象の状況をつかみ必要な看護を考え判断し実践できる	3. 看護師としての責務を自覚し、誠実で、倫理に基づいた責任ある行動がとれる	4. 対象や暮らしの多様化に対応し、保健医療チームの一員として多職種と協働できる	5. ビジョンを描き、学び続けることができる
発展させたい力	・センシング力 ・考える力	・センシング力 ・考える力 ・行動する力	・行動する力	・行動する力	・自ら学び続ける力
ディプロマポリシーとの関連	□対象の願いや思いを大切にし、個人として受け止め尊重できる □その人らしい暮らしを支えるために必要な看護援助を、根拠に基づき考えることができる	□場面・状況から事実を掴み、必要な情報を獲得できる □情報と知識を照らし合わせ、判断することができる □その人らしい暮らしを支えるために必要な看護援助を、根拠に基づき考えることができる □実践した看護を振り返り、よりよい看護を考えることができる □対象の持てる力を活かし、安全で安楽な看護が実践できる	□自分も他人も大切にし、よりよい関係を築くことができる □対象の持てる力を活かし、安全で安楽な看護が実践できる □倫理に基づいた責任ある行動ができる	□チーム医療の中で看護の視点から情報を発信し、協働できる □倫理に基づいた責任ある行動がとれる	□よりよい看護をしたいという思いを持ち学び続けることができる □自己の課題に気づき解決に向けた努力ができる □自分の良さを生かし、未来に向かい、専門職業人として成長することができる
3. 卒業時に期待されるレベル	□対象の身体的・精神的・社会的・文化的側面から情報を得て、一人の人間、生活者として理解することができる □対象の思いや願いを大切にし、健康でその人らしい暮らしを理解できる	□対象の健康レベルに応じて、看護上の問題に対する的確な看護の方法がわかる □対象の状態と状況に応じた観察ができる □情報の意味づけをし、それまでに身につけた知見と経験を活かし、その場に応じた看護を考え実践できる □対象との信頼関係を築き、その人らしい暮らしを支えるために必要な看護援助を追求しようとする姿勢がある □自己の看護場面について振り返り、リフレクティブな思考を深めることができる	□人間としての尊厳及びその人らしさを尊重して行動できる □成人、老年、母性、小児、精神、地域・在宅看護における様々な倫理的課題に気付き、アドボケーターとして行動できる	□複雑な疾病、クリティカルな状況、様々な保健医療従事者や福祉・介護職、行政などとの連携が必要な状況にある対象の看護判断と看護を、チームメンバーと共同して考えることができる （チームメンバーと共同しながらタイムリーにできる）	□未来をよくするために必要な課題を発見し、課題解決に向けてビジョンを描き、形にできる □よりよい看護実践のために、自らの成長を願い、目の前の事象や経験に価値や意味を見出し、一生懸命学ぼうとする □看護への関心を高め、自分の資質を活かし、自分を成長させる姿勢がある
2. 2年次終了時で期待されるレベル	□看護師としてのコミュニケーションがわかり、必要な情報を得ることができる □対象を身体的・精神的・社会的側面から理解することができる	□対象に合った看護計画を立案できる □様々な症状の機序と生活への影響、健康レベルに応じた看護の理解のもと、必要な看護を考え実践することができる □臨床判断のプロセスを理解し、その日の対象の状態や状況に応じた看護を考え実践することができる □臨地実習の場面を通じて、自己の看護場面を客観的に振り返ることができる	□看護の法的根拠と看護師の倫理綱領に基づいて、自立に向けた日常生活援助を、説明と同意を得て実施できる □常に自分の傾向を振り返り、対象・対象の家族と良い関係が形成できるよう、教員、臨地実習指導者、病棟スタッフの指導、助言を得て適切に行動できる □授業や演習、学外活動の中で、看護師として、また下級生に対しては先輩として模範となる行動ができる	□対象・対象の家族を生活者として捉え、退院支援におけるニーズに気づくことができる □多職種が協働してチームアプローチする重要性と、多職種の中での看護の役割がわかる	□主体的・自律的に学習に取り組み、教科書だけでなく、様々な信頼できる文献、研究論文、情報をポートフォリオに入れ、活用できる □コーチングにより、目の前の状況から必要な課題を発見できる □実習や授業を通して、看護への関心を高め、将来のキャリアビジョンを描くことができる
1. 1年次終了時に期待されるレベル	□日常生活の中で相手が送るメッセージとその意味を受け止めたフィードバックができる □対象の思いや願いを聴き、共感的態度で接することができる □自分の暮らし、身近な人の暮らし、地域の人々の暮らしについてわかる	□対象の基本的ニードを掴み、それに応じた援助ができる □看護過程の意義と展開の仕方を理解できる □看護リフレクションの意義を理解し、演習後のリフレクションができる	□ICN倫理綱領、日本看護協会倫理規定など、倫理的判断に必要な知識がある □原理原則を踏まえて安全に行うことができる □実習を通して、学校と施設が定める規則を遵守できる ・個人情報の取り扱い ・SNSの適切な活用、iPad内のデータの扱い、他規則、心得の内容 □学内外において、基本的なマナー（挨拶、言葉遣い等）を守り、看護専門職者としての振る舞いを意識して生活できる	□多様な価値観、特性、能力をもったクラスメイトを知り、協力し課題に取り組むことができる □臨床で働く職種と役割がわかる □看護チームにおける各職種の役割と責任の違いがわかる	□授業・演習のねらいを理解し、学んだ知識を活用して、課題に取り組むことができる □看護への関心を高め、自分の資質に気づく □物事を俯瞰し、目の前の状況から課題を発見するまで時間がかかるが、コーチングにより、気づくことができる

2024年度教育課程（3年間）

区分	教育内容	科目	単位数	時間数
基礎分野	科学的思考の基盤	情報科学	1	30
		論理学	1	15
		倫理学	1	15
		法学	1	15
		キャリア教育論Ⅰ	1	30
		キャリア教育論Ⅱ	1	15
	人間と生活、社会の理解	心理学	1	30
		人間関係論	1	15
		社会学	1	30
		英語	1	30
		コミュニケーション論	1	15
		家族論	1	15
		生活と健康	1	15
		自己の探求	1	15
		ヒューマンケアリング	1	15
	小計		15	300
専門基礎分野	人体の構造と機能	人体の構造	1	30
		人体の機能	1	30
		生化学	1	30
		栄養学	1	15
		生命現象のしくみ	1	15
		運動生理学	1	15
		ナースがみる人体	1	30
	疾病の成り立ちと回復の促進	病理学	1	30
		検査と治療法概説Ⅰ	1	30
		検査と治療法概説Ⅱ	1	30
		病態と診療Ⅰ	1	30
		病態と診療Ⅱ	1	30
		病態と診療Ⅲ	1	30
		病態と診療Ⅳ	1	30
		薬理学	1	30
		微生物学	1	30
	健康支援と社会保障制度	公衆衛生学	1	30
		社会福祉	1	30

区分	教育内容	科目	単位数	時間数
専門基礎分野	健康支援と社会保障制度	関係法規	1	30
		総合保健医療論	1	15
		臨床心理学	1	15
		リハビリテーション論	1	30
	小計		22	585
専門分野	基礎看護学	基礎看護学概論	1	30
		看護リフレクションⅠ	1	30
		看護リフレクションⅡ	1	30
		看護リフレクションⅢ	1	30
		共通技術論Ⅰ	1	30
		共通技術論Ⅱ	1	30
		共通技術論Ⅲ	1	30
		日常生活援助論Ⅰ	1	30
		日常生活援助論Ⅱ	1	30
		診療・検査時の援助論	1	30
		治療・処置時の援助論	1	30
		臨床看護総論	1	30
		臨床判断	1	15
	地域・在宅看護論	地域の理解	1	30
		在宅ケアシステム	1	30
		地域・在宅看護の対象理解	1	15
		地域・在宅看護概論	1	30
		在宅看護技術	1	30
		対象に応じた在宅看護	1	30
	成人看護学	成人看護学概論	1	30
		周手術期援助論	1	15
		成人看護援助論Ⅰ	1	30
		成人看護援助論Ⅱ	1	30
		成人看護援助論Ⅲ	1	30
		臨床推論	1	30
	老年看護学	老年看護学概論	1	30
		老年看護援助論Ⅰ	1	30
		老年看護援助論Ⅱ	1	30
		老年看護援助論Ⅲ	1	15
		認知症看護	1	15

区分	教育内容	科目	単位数	時間数
専門分野	小児看護学	小児看護学概論	1	30
		小児疾患の病態と診療	1	15
		小児看護援助論Ⅰ	1	30
		小児看護援助論Ⅱ	1	30
	母性看護学	母性看護学概論	1	30
		周産期の診療	1	15
		妊産婦の援助論	1	30
		母と子の援助論	1	30
	精神看護学	精神看護学概論	1	30
		精神疾患の病態と診療	1	30
		精神看護援助論Ⅰ	1	30
		精神看護援助論Ⅱ	1	15
	看護の統合と実践	看護研究方法論	1	30
		看護管理と医療安全	1	30
		国際看護	1	15
		災害看護	1	15
		看護技術の統合	1	30
		多職種連携	1	15
	臨地実習	基礎看護学実習Ⅰ	1	40
		基礎看護学実習Ⅱ	2	80
		基礎看護学実習Ⅲ	2	80
		成人・老年看護学実習Ⅰ	2	80
		成人・老年看護学実習Ⅱ	2	80
		成人・老年看護学実習Ⅲ	3	120
		地域・在宅看護論実習	2	80
		小児看護学実習	2	80
		母性看護学実習	2	80
		精神看護学実習	2	80
		看護の統合と実践	3	120
	小計		71	2195
合計			108	3080

実務経験のある教員による授業一覧

科目	単位数	時間数	担当者	所属先
キャリア教育論Ⅰ	1	30	菅原晴美	中通高等看護学院
			中川郁子	中通高等看護学院
キャリア教育論Ⅱ	1	15	日野由樹子	中通高等看護学院
			渡部暢子	中通高等看護学院
心理学	1	30	半田温子	秋田大学　臨床心理相談室
人間関係論	1	15	菅原美紀	中通総合病院　心理療法室
家族論	1	15	大塚紀子	中通高等看護学院
生活と健康	1	15	三浦真澄	中通健康クリニック
自己の探求	1	15	堀　裕美	
ヒューマンケアリング	1	15	堀　裕美	
人体の構造	1	30	板東良雄	秋田大学大学院医学系研究科 医学部 形態解析･器官構造学講座
人体の機能	1	30	板東良雄	秋田大学大学院医学系研究科 医学部 形態解析･器官構造学講座
栄養学	1	15	佐藤美樹	中通総合病院　栄養課
ナースがみる人体	1	30	渡部絵美	中通高等看護学院
病理学	1	30	畠山 遥	秋田大学大学院医学系研究科　分子病態学 腫瘍病態学講座　医員
検査と治療法概説Ⅰ	1	30	引地　悠	秋田大学大学院医学系研究科 総合診療・検査診断学講座
			池田英樹	中通総合病院　放射線課
			加藤勇人	中通総合病院　放射線課
検査と治療法概説Ⅱ	1	30	伊藤文恵	中通総合病院
			進藤吉明	中通総合病院　医局
病態と診療Ⅰ	1	30	柴田敬一	中通総合病院　医局
			鈴木哲哉	中通総合病院　医局
			佐々木香奈	中通総合病院　医局
			利部徳子	中通総合病院　医局
			清澤美乃	中通総合病院　医局
病態と診療Ⅱ	1	30	五十嵐知規	中通総合病院　医局
			三船大樹	中通総合病院　医局
			藤原崇史	中通総合病院　医局
病態と診療Ⅲ	1	30	進藤吉明	中通総合病院　医局
			松田大輔	中通総合病院　医局
			奥山　慎	中通総合病院　医局
			藤原崇史	中通総合病院　医局
病態と診療Ⅳ	1	30	東海林克	大曲中通歯科診療所
			野口奈津子　他	秋田大学大学院医学系研究科　医学部 皮膚科学・形成外科学
			羽渕由起子	中通総合病院　医局
			川嵜洋平	秋田大学大学院医学系研究科　医学部 耳鼻咽喉科頭頸部外科学
薬理学	1	30	佐々木修	中通総合病院　薬剤部
微生物学	1	30	引地　悠	秋田大学大学院医学系研究科 総合診療・検査診断学講座
公衆衛生学	1	30	南園佐知子	NTT東日本健康管理センター
			ロザリン・ヨン	秋田大学大学院医学系研究科 衛生学・公衆衛生学講座
臨床心理学	1	15	半田温子	秋田大学　臨床心理相談室
総合保健医療論	1	15	小貫　渉	中通リハビリテーション病院　医局
リハビリテーション論	1	30	小貫　渉	中通リハビリテーション病院　医局
			米谷和真	中通リハビリテーション病院　作業療法部
			佐藤孝憲	中通リハビリテーション病院　理学療法部
			大竹伸行	中通リハビリテーション病院　言語療法部
社会福祉	1	30	塩谷行浩　他	中通総合病院　医療相談室
基礎看護学概論	1	30	近江　薫	中通高等看護学院

科目	単位数	時間数	担当者	所属先
看護リフレクションⅠ	1	30	大塚紀子　他	中通高等看護学院
看護リフレクションⅡ	1	30	菅原晴美	中通高等看護学院
			大塚紀子	中通高等看護学院
看護リフレクションⅢ	1	30	渡部暢子	中通高等看護学院
共通技術論Ⅰ	1	30	小田嶋暢子	中通高等看護学院
共通技術論Ⅱ	1	30	齊藤豊子	中通高等看護学院
			齊藤由美子	中通総合病院
共通技術論Ⅲ	1	30	中川郁子	中通高等看護学院
日常生活援助論Ⅰ	1	30	工藤洋平	中通高等看護学院
日常生活援助論Ⅱ	1	30	渡部絵美	中通高等看護学院
診療・検査時の援助論	1	30	清水有香	中通高等看護学院
			西方展子	中通総合病院
治療・処置時の援助論	1	30	秋山祥子	中通高等看護学院
臨床看護総論	1	30	渡部暢子	中通高等看護学院
			北林奈美子	中通総合病院　相談支援センター
			嵯峨千春	中通総合病院　化学療法室
臨床判断	1	15	工藤洋平	中通高等看護学院
地域の理解	1	30	森合真由美	秋田県看護協会
			清水有香	中通高等看護学院
在宅ケアシステム	1	30	佐々木宏幸	
地域・在宅看護の対象理解	1	15	鈴木淳子	
地域・在宅看護概論	1	30	堀井喜世子	中通高等看護学院
			髙橋令子	中通総合病院
在宅看護技術	1	30	鈴木淳子	
			八代美千子	多機能型重症者デイサービスにのに
			西方展子	中通総合病院
対象に応じた在宅看護	1	30	堀井喜世子	中通高等看護学院
成人看護学概論	1	30	菅原晴美	中通高等看護学院
周手術期援助論	1	15	佐藤尚樹	中通総合病院
成人看護援助論Ⅰ	1	30	佐藤美幸	中通総合病院
			堀井喜世子	中通高等看護学院
成人看護援助論Ⅱ	1	30	清水有香	中通高等看護学院
			佐々木正吾	秋田県立医療療育センター
			音成絵美	中通総合病院
成人看護援助論Ⅲ	1	30	工藤洋平	中通高等看護学院
			武田直美	中通総合病院
			小田嶋暢子	中通高等看護学院
臨床推論	1	30	日野由樹子	中通高等看護学院
老年看護学概論	1	30	日野由樹子	中通高等看護学院
老年看護援助論Ⅰ	1	30	田安　和	中通高等看護学院
老年看護援助論Ⅱ	1	30	田安　和	中通高等看護学院
老年看護援助論Ⅲ	1	15	小田嶋暢子	中通高等看護学院
認知症看護	1	15	仲野谷美貴子	中通総合病院
小児看護学概論	1	30	秋山祥子	中通高等看護学院
小児疾患の病態と診療	1	15	平山雅士	中通総合病院　医局
小児看護援助論Ⅰ	1	30	近江　薫	中通高等看護学院
			佐々木正吾	秋田県立医療療育センター
			佐々木直子	秋田県立医療療育センター
			佐藤夏美	秋田県立医療療育センター
小児看護援助論Ⅱ	1	30	秋山祥子	中通高等看護学院
母性看護学概論	1	30	大塚紀子	中通高等看護学院
周産期の診療	1	15	小西祥朝	中通総合病院　医局
			三浦康子	中通総合病院　医局
妊産婦の援助論	1	30	中川郁子	中通高等看護学院
母と子の援助論	1	30	齊藤豊子	中通高等看護学院
精神看護学概論	1	30	渡部暢子	中通高等看護学院
			伊藤智幸	秋田県立リハビリテーション精神医療センター
精神疾患の病態と診療	1	30	沓澤 理	中通総合病院　医局
			菅原美紀	中通総合病院　心理療法室

科目	単位数	時間数	担当者	所属先
精神看護援助論Ⅰ	1	30	藤原美加子	医療法人回生会　秋田回生会病院
			高階康子	医療法人回生会　秋田回生会病院
精神看護援助論Ⅱ	1	15	渡部暢子	中通高等看護学院
看護研究方法論	1	30	菅原晴美	中通高等看護学院
看護管理と医療安全	1	30	松岡淳子	中通総合病院
			佐藤　稔	中通総合病院
			村上裕子	中通総合病院
			齊藤由美子	中通総合病院
国際看護	1	15	夏原和美	東邦大学看護学部　国際保健看護研究室
災害看護	1	15	佐藤玲希	中通総合病院
看護技術の統合	1	30	田安　和	中通高等看護学院
多職種連携	1	15	渡部暢子	中通高等看護学院
基礎看護学実習Ⅰ	1	40	清水有香	中通高等看護学院
基礎看護学実習Ⅱ	2	80	工藤洋平	中通高等看護学院
基礎看護学実習Ⅲ	2	80	日野由樹子	中通高等看護学院
成人・老年看護学実習Ⅰ	2	80	渡部絵美	中通高等看護学院
成人・老年看護学実習Ⅱ	2	80	中川郁子	中通高等看護学院
成人・老年看護学実習Ⅲ	3	120	田安　和	中通高等看護学院
地域・在宅看護論実習	2	80	堀井喜世子	中通高等看護学院
小児看護学実習	2	80	秋山祥子	中通高等看護学院
母性看護学実習	2	80	齊藤豊子	中通高等看護学院
精神看護学実習	2	80	渡部暢子	中通高等看護学院
看護の統合と実践実習	3	120	中川郁子	中通高等看護学院

1学年

2024年度 教育課程（1学年）

区分	教育内容	科目	単位	時間数	備考	掲載ページ
基礎分野	科学的思考の基盤	情報科学	1	30		18
		論理学	1	15	試験時間含む	19
		キャリア教育論Ⅰ	1	30		20～27
	人間と生活、社会の理解	心理学	1	30		28
		人間関係論	1	15	試験時間含む	29
		社会学	1	30		30
		コミュニケーション論	1	15		31
		家族論	1	15	試験時間含む	32
		生活と健康	1	15	試験時間含む	33
		ヒューマンケアリング	1	15		34
	小計		10	210		
専門基礎分野	人体の構造と機能	人体の構造	1	30		35
		人体の機能	1	30		36
		生化学	1	30		37
		栄養学	1	15	試験時間含む	38
		生命現象のしくみ	1	15		39
		ナースがみる人体	1	30		40
	疾病の成り立ちと回復の促進	病理学	1	30		41
		検査と治療法概説Ⅰ	1	30		42～44
		検査と治療法概説Ⅱ	1	30		45～47
		病態と診療Ⅰ	1	30		48～51
		病態と診療Ⅱ	1	30		52～54
		病態と診療Ⅲ	1	30		55～57
		薬理学	1	30		58
		微生物学	1	30		59
	小計		14	390		
専門分野	基礎看護学	基礎看護学概論	1	30		60
		看護リフレクションⅠ	1	30		61
		共通技術論Ⅰ	1	30		62
		共通技術論Ⅱ	1	30		63
		共通技術論Ⅲ	1	30		64
		日常生活援助論Ⅰ	1	30		65
		日常生活援助論Ⅱ	1	30		66
		診療・検査時の援助論	1	30		67
		治療・処置時の援助論	1	30		68
		臨床看護総論	1	30		69～71
		臨床判断	1	15		72
	地域・在宅看護論	地域の理解	1	30		73
		在宅ケアシステム	1	30		74
		地域・在宅看護の対象理解	1	15		75
	成人看護学	成人看護学概論	1	30		76～79
		周手術期援助論	1	15	試験時間含む	80
		成人看護援助論Ⅰ	1	30		81～83
		成人看護援助論Ⅱ	1	30		84～86
		成人看護援助論Ⅲ	1	30		87～89
	老年看護学	老年看護学概論	1	30		90
	臨地実習	基礎看護学実習Ⅰ	1	40		91
		小計	21	595		
		総合計	45	1195		

授業科目	区分	基礎分野	
情報科学	教育内容	科学的思考の基盤	
	領域	人間の暮らし	
授業担当者	開講時期	単位	時間数
上田 晴彦	前期～中期	1 単位	30 時間

授業の目的

情報科学の入門的な講義・演習であり、情報社会に参画するための態度の育成、および看護・医療における情報活用能力を高めることを、授業の目的とする。

授業の目標

以下の 3 点を、具体的な目標とする。

1. 情報社会に参画するための知識・態度を習得する。
2. 看護・医療におけるコンピューターシステムの活用、および情報セキュリティについて知る。
3. Windows 用アプリケーションソフト（ワード・エクセル・パワーポイント）の基本操作を習得するだけでなく、統計処理の基礎的計算ができるようになる。

授業概要

近年の社会の情報化の進展に伴い、医療関連機器の情報化も急激に進行している。そのため情報の科学的理解だけでなく、情報社会へ積極的に参画する態度の育成、看護分野での情報処理に関する技術の習得、および統計処理の基礎を重視した授業を展開する。

授業計画(進め方)

情報科学の基礎を理解

第 1 回：情報社会への参画（講義）　第 2 回：情報とは何か（講義）
第 3 回：情報の表現（講義）　第 4 回：コンピュータの構造（講義）

実践的な情報処理能力の育成

第 5 回：ワード(基本操作)（演習）　第 6 回：ワード（レポートの書式）（演習）
第 7 回：エクセル（表作成）（演習）　第 8 回：エクセル（グラフ作成）（演習）
第 9 回：エクセル（データベース）（演習）　第 10 回：データ分析（平均）（演習）
第 11 回：データ分析（標準偏差）（演習）　第 12 回：パワーポイント入門（演習）

情報科学の看護分野への応用

第 13 回：医療と情報システム（講義）　第 14 回：看護・情報における倫理（講義）
第 15 回：情報セキュリティ（講義）

テキスト

講義資料を配布する

参考書・指定図書

適宜指定する

成績評価の方法

最後に試験を実施し、その成績により評価をおこなう。

授業科目	区分	基礎分野	
論理学	教育内容	科学的思考の基盤	
	領域	人間理解	
授業担当者	開講時期	単位	時間数
佐藤 雅彦	前期	1 単位	15 時間

授業の目的

1. クリティカル思考とはどのようなものかを概観する。
2. 論理的な文章の構成について学習する。

授業の目標

1. ものごとを批判的な視点から考えることに慣れる。
2. 論理的構成を用いて文章が書けるようになる。

授業概要

1. クリティカル思考について学ぶこと
2. 論理的な文章の作成に必要ないくつかの要素について理解を深めること
3. 上の二つを用いた最終課題に取り組むこと

授業計画(進め方)

1 回目 ガイダンス、クリティカル思考 1 、小論文の特徴・書き方を知ろう
2 回目 クリティカル思考 2、論理的な文章の書き方 1 3 回目 クリティカル思考 3、論理的な文章の書き方 2
4 回目 クリティカル思考 4、論理的な文章の書き方 3 5 回目 クリティカル思考 5、論理的な文章の書き方 4
6 回目 論理的な文章の書き方 5、小論文を書こう 1
7 回目 小論文を書こう 2
8 回目 期末試験

テキスト

テキストなどの資料はプリントして配布します。
プリント類はファイル(クリアブック、ポケットファイルなど)に入れ、毎回持ってくること。

参考書・指定図書

評価の方法

評価点は以下の 4 つです。

1. 小テスト(計 25%) : クリティカル思考および文章構成に関する知識など。
2. 期末テスト(25%) : 小テストの問題などからなる。
3. 小論文作成(計 40%) : 内訳は以下のとおり。
   (論理的文章の構成要素の活用 15%、批判的視点の活用 15%、文章のわかりやすさ 10%)
4. 授業への参加度(10%) : 課題を提出したか、積極的に学習活動を行ったかなど。

授業科目	区分	基礎分野	
キャリア教育論Ⅰ	教育内容	科学的思考の基盤	
	領域	人間理解	
授業担当者	開講時期	単位	時間数
菅原　晴美　　中川　郁子	前期～後期	1 単位	30 時間

授業の目的

プロジェクト学習とポートフォリオの基本を学び、生活改善プロジェクトを通し、基本フェーズを経験することで、意志ある学びを実現する。

授業の目標

1. プロジェクト学習とポートフォリオの基本がわかり、各ポートフォリオが作成できる。
2. 基本フェーズに従って、プロジェクト学習を実践し、知の共有ができる。
3. 自分の良さを知り、目指す看護師像を描くことができる。

授業概要

成長するためには、自らの意思が必要です。キャリア教育論Ⅰでは、意志ある学びを叶えるために、プロジェクト学習とポートフォリオの基本を学び、実践します。看護について学び、成長した自分を俯瞰することで、目指す看護師像を明確にできることを期待します。

授業計画(進め方)

1～2 回目　キャリア教育論とは
　　プロジェクト学習とポートフォリオの基本
　　ポートフォリオを使っての自己紹介
3～11 回目　生活改善プロジェクト
　3 回目　ライフポートフォリオ共有・チームづくり
　4 回目　多面的・多角的なインタビューの取り方
　　Google 凝縮ポートフォリオ作成方法（講義）
　5 回目　制作のフェーズ　チームテーマ決定・工程表の作成（各チーム　ワーク）
　6 回目　工程表の確認　凝縮ポートフォリオ作成
7～8 回目　凝縮ポートフォリオ作成（各チーム　ワーク）
　9 回目　プレゼンテーション　リハーサル
10～11 回目　プレゼンテーション
12～13 回目　未来へキャリアストーリーを描こう
　　- 自分の意志で未来を描こう - プロジェクト
14～15 回目　「自分の意志で未来を描こう！」プロジェクト　－成長報告－

テキスト

鈴木敏恵著　キャリアストーリーをポートフォリオで実現する　日本看護協会出版会

参考書・指定図書

鈴木敏恵著　ポートフォリオとプロジェクト学習　医学書院

評価の方法

アクションシート・凝縮ポートフォリオ等知の成果物（70 点）、ピア評価（20 点）、
自己評価（10 点）

プロジェクト学習・シラバス

科目名(副題)	「プロジェクト学習・ポートフォリオの基本を理解しよう！パーソナルポートフォリオを使って自己紹介」プロジェクト	
講師/ファシリテータ・協力者ほか	(スーパーアドバイザー：鈴木 敏恵 先生) 菅原 晴美・中川 郁子　他	
単位・時間・受講対象	4月上旬：2コマ (4時間)　　中通高等看護学院　1年生　50人	
事前連絡	パーソナルポートフォリオを作成し、ポートフォリオを用いて自己紹介できるように練習しておく	
学習概要	＜概要＞ 今後の学習の道標となるプロジェクト学習についての理解を深めるために、プロジェクト学習とポートフォリオに基本について講義する。その後、各自で作成してきたパーソナルポートフォリオを使って、自己紹介を行う。マスクを着用した状態で社会的距離を取りつつのコミュニケーションとなるため、発声や表情を意識し、自身について伝えあう。これから共に学院生活を互いに過ごす仲間を知る機会とする。 □ ビジョン：プロジェクト学習とポートフォリオの基本を理解し、ポートフォリオを活用した自己紹介することで互いに認め合いクラスメイトとの関係作りの第一歩とする。 □ ゴール：プロジェクト学習とポートフォリオの基本をつかむ！クラスメイトのこと（魅力）を知る。	
キーワード	プロジェクト学習　　コミュニケーションスキル　　ポートフォリオ	
身につく力	専門知 □仕草や表情を交え、相手にわかりやすく伝える力 □発声に留意しつつ相手に伝える力、短時間で自分の思いを書く力 □相手の状態・気持ちを意識した簡潔な表現力	普遍知 □説明力 □端的にプレゼンテーションする力 □聞き取る力 □事実を具体的につかむ力
評価方法	キャリア教育論Ⅰ　10点／100点　アクションシート	
展開内容 (内容・活動)	1. 出席確認・ガイダンス 2. プロジェクト学習とポートフォリオの基本について講義 3. 「パーソナルポートフォリオ活用ワークショップ（自己紹介）」 4. プレゼンテーション（共有） 5. リフレクション （ライフポートフォリオ：生活改善プロジェクトについてガイダンス＜導入＞）	
テキスト・参考図書	キャリアストーリーをポートフォリオで実現する　日本看護協会出版会	
受講生へのメッセージ	プロジェクト学習は、プロジェクトの考え方やセオリーを学習に取り入れた教育手法です。プロジェクトを成し遂げるためには、必要な”知”を手に入れ、課題を解決する必要があります。また、ゴールを見据え「何のために（目的）、何をやり遂げたいのか（目標）」を常に意識していることが必要です。学習の軌跡を一元化するものとしてポートフォリオがあり、日々のプロセスや成果に至る軌跡が見えます。ポートフォリオ通して俯瞰する姿勢や思考の可視化ができ、自ら気づき、自ら学び成長するのを助けてくれます。看護学生として意志ある学びのスタートを切り、自らの目指す看護師像を明確にして、夢の実現のために行動してほしい。	
プロジェクト学習 e-ラーニング	検索　“未来教育オンライン講座” http://www.-miraikyouiku-onlinecourse.com/	

©2016 シンクタンク未来教育ビジョン 鈴木敏恵 All Rights Reserved.
一切の無断転載・翻訳等を禁ず。教育機関で使用される場合は、必ず出典『AI 時代の教育と評価　アクティブラーニングからアクティブシンキングへ』を明記してください。

プロジェクト学習・シラバス

科目名(副題)	生活改善プロジェクト	
講師／ファシリテータ・協力者ほか	（スーパーアドバイザー：鈴木敏恵先生） 菅原晴美・中川郁子	
単位・時間・受講対象(人数)	4月～7月 中通高等看護学院 1年生 50人	
学習概要 (社会的意義)	＜概要＞ 学生自身の生活シートを 2 週間記入する。生活シートを書くことは、自分の生活や健康を客観的に見て意識することに繋がる。その生活シートを挟んだライフポートフォリオを他の学生と共有し、「生活・健康」への発想や考えを広げる。その上で、自分と対話しながら生活改善・自己対話シートを書き、改善したい課題を具体的にし、改善後にどうなればいいのかを表現する。 同じ課題をもつ学生でチームを作り、チームゴールに向かって、健康生活を叶える提案集をつくる。 自分の生活や健康を客観的に見て意識することができるようになれば、看護実践の場で、患者さんの生活や健康をみる力がつく。 ＊ビジョン：看護学生として、自分の健康を自分で守れるようになりたい。 ＊ゴール：1年生に役立つ健康生活をかなえる提案集をつくる！	
キーワード	生活改善 健康維持 メタ認知 飲食 活動 休息 時間管理	
身につく力	専門知 □「生活」を観察する力 □食事、睡眠、活動に関する基本知識 □メタ認知能力	普遍知 □課題発見力 □根拠を基に提案する力 □チームワーク力（他者と共に考えだす力） □情報収集力 □セルフコーチング力 □他者の意見を聞き役立てようとする力
学習の成果物	健康生活を叶える提案集	
評価方法	キャリア教育論Ⅰ 70点/100点 ポートフォリオ評価 （そのうち20点分はピア評価）	
実施月日 4月～7月	4月中旬　5月　6月　7月上旬 準備　ビジョン・ゴール　計画　情報・解決策　制作　プレゼン　再構築	
講義室・場所	中通高等看護学院 図書室・教室1	

月日	時間	内容・活動
4月中旬～		2週間生活シートをつける
5月	1コマ	ライフポートフォリオ共有 生活改善・自己対話シートに書く チーム決定 チームテーマ話し合い

©2016 シンクタンク未来教育ビジョン 鈴木敏恵 All Rights Reserved.
一切の無断転載・翻訳等を禁ず。教育機関で使用される場合は、必ず出典『AI時代の教育と評価 アクティブラーニングからアクティブシンキングへ』を明記してください。

展開内容	5月	1コマ	講義 ・「多面的・多角的」 ・「知の再構築-5つの条件」「知の再構築-6要素」 ・情報獲得1「問う技法」-インタビュー・アンケート ・情報獲得2「問う技法」-アンケートの作り方 ・グーグルクラスルーム ・凝縮ポートフォリオの作り方
	5月	1コマ	チームテーマ決定　工程表記載 工程表提出、アドバイス
	6月	1コマ	問題解決のための情報リサーチ ・どんな情報を手に入れたいか考える - 役割分担 ・基本情報を調べる ・調べたことを体験してみる⇒観察・記録
	6月	2コマ	チームで集めた情報を共有して、凝縮ポートフォリオを作成
	7月上旬	1コマ	プレゼンテーションリハーサル
	7月上旬	2コマ	知の共有/プレゼンテーション
テキスト・参考書	系統看護学講座　専門基礎　栄養学　医学書院 系統看護学講座　専門基礎　解剖生理学　医学書院 看護形態機能学 日本看護協会出版会 アクティブラーニングこえた看護教育を実現する 医学書院 AI時代の教育と評価 教育出版		
履修要件			
他講義との関連	生活と健康 基礎看護学概論 成人看護学概論 日常生活援助論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ 共通技術論Ⅰ 人体の構造 人体の機能 運動生理学 ナースがみる人体		
受講生へのメッセージ	皆さんは、普段の生活の中で健康を意識することはありますか？看護学生として、自分の健康を守るため、自分の身体の声に耳を傾け対話してみましょう。今、自分の身体や生活はどんな感じか、意識することで今まで気づかなかったことに気づけるはずです。そして、より健康になるためにできることを考えてみましょう。この経験は、患者さんの生活や健康をみる力になっていきます。		
ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ学習 e ﾗｰﾆﾝｸﾞ	検索 未来教育オンライン講座 http://www.mm-miraikyouiku-onlinecourse.com/		

©2016 シンクタンク未来教育ビジョン 鈴木敏恵 All Rights Reserved.
一切の無断転載・翻訳等を禁ず。教育機関で使用される場合は、必ず出典『AI時代の教育と評価 アクティブラーニングからアクティブシンキングへ』を明記してください。

プロジェクト学習　シラバス

<table>
<tr><td>科目名(副題)</td><td colspan="3">―　未来へキャリアストーリーを描こう！　―　（1年次　誓いの式に向けて）
「自分の意志で未来へ向かおう！」　プロジェクト</td></tr>
<tr><td>主講師
(ファシリテータ・協力者)</td><td colspan="3">（スーパーアドバイザー：鈴木 敏恵 先生）
菅原晴美・中川郁子</td></tr>
<tr><td>単位・時間・受講対象</td><td colspan="3">9月中旬～下旬：　2コマ（4時間）1年生50名</td></tr>
<tr><td>学習概要
(社会的意義)</td><td colspan="3"><概要>
1年生は、9月に基礎看護学実習Ⅰを行なっている。基礎看護学実習Ⅰでは、臨床看護師のシャドーイングを通し、看護師の役割や機能について学んでいる。また、ロールモデルの後ろを影のようについて同行することで、実際の現場における経験から憧れロールモデルの獲得につながっていると考えられる。看護師の仕事を近くで見ることで、モチベーションが高まり看護への興味・関心や、学習する必要性が高まっている状況である。
この講座では、実習での経験を踏まえ看護師の仕事の幅や多様性を理解し、必要な力を知ることで看護師という職業の価値や魅力を再認識する。ハピネスシートに、未来イメージ（自分が選んだ看護師という仕事の価値・将来“どんな人“をハピネスにしたいか）と、ハピネスシーン（誰かの役に立ったシーン）を自分の言葉で書くことで自尊感情や自己肯定感を高め、自分の意志で未来へ向かう思いを強化する。
未来に思いを馳せキャリアビジョンシートを記載する。キャリアビジョンや自己のキャリアストーリーを描き、自ら学ぶために学生自身が目指す看護師像を明確にする。
10 月には看護師になるという意志を明確にし、宣言する「誓いの式」を執り行う。誓いの式では、この講座で考えたキャリアビジョンを一人一人が宣言し、互いの夢を応援し合う式とする。

□ ビジョン：自ら学んでいくために、なりたい看護師像を明確にしたい
□ ゴール：看護師の仕事の価値について考え、キャリアビジョンを描く</td></tr>
<tr><td>キーワード</td><td colspan="3">キャリアビジョン　　キャリアストーリー　　ハピネスシーン　　自尊感情
自己肯定感</td></tr>
<tr><td>身につく力</td><td colspan="2">専門知
□ 看護師の仕事の価値
□ なりたい看護師像をイメージする力</td><td>普遍知
□ 情報獲得力
□ 自尊感情・自己肯定感
□ 成長しようとする意欲
□　プレゼンテーション力
□　他者への関心</td></tr>
<tr><td>評価方法</td><td colspan="3">キャリア教育論Ⅰ　10点／100点　アクションシート</td></tr>
<tr><td rowspan="3">展開内容</td><td>月日</td><td>時間</td><td>内容・活動</td></tr>
<tr><td>9月中旬</td><td>1コマ</td><td>ハピネスシート記載</td></tr>
<tr><td>9月下旬</td><td>1コマ</td><td>1. 本日の流れの説明（俯瞰シート）
2. ハピネスシートの交流
3. キャリアビジョンシートの記載（個人ワーク）・代表者プレゼン
4. リフレクション</td></tr>
<tr><td>テキスト・参考図書</td><td colspan="3">・キャリアストーリーをポートフォリオで実現する　日本看護協会出版会
・ポートフォリオとプロジェクト学習　医学書院</td></tr>
</table>

©2016 シンクタンク未来教育ビジョン 鈴木敏恵 All Rights Reserved.
一切の無断転載・翻訳等を禁ず。教育機関で使用される場合は、必ず出典『AI 時代の教育と評価　アクティブラーニングからアクティブシンキングへ』を明記してください。

受講生へのメッセージ	看護学を学び始め、実際の現場における経験から看護への興味・関心が高まっていることでしょう。「看護師を志した思いやきっかけは何か」、「どのような看護師になりたいのか」、「看護師として大切にしたいことや目指したいことは何か」を明確にして、その実現のためのビジョンを描くことがモチベーションを高くし、日々の学習に取り組む基盤となります。 看護師という職業の価値や魅力について再認識し、現時点での自身が目指す看護師像を自由に描いてみましょう。 みなさんの可能性は無限大です。自身が望む未来の実現のために、自身の力で将来を作り上げていきましょう！
プロジェクト学習 e-ラーニング	検索　“未来教育オンライン講座” http://www.-miraikyouiku-onlinecourse.com/

©2016 シンクタンク未来教育ビジョン 鈴木敏恵 All Rights Reserved.
一切の無断転載・翻訳等を禁ず。教育機関で使用される場合は、必ず出典『AI 時代の教育と評価　アクティブラーニングからアクティブシンキングへ』を明記してください。

プロジェクト学習・シラバス

科目名(副題)	―未来へキャリアストーリーを描こう！ (2) ― 「自分の意志で未来を描こう！」プロジェクト　―成長報告―	
講師／ファシリテータ・協力者ほか	菅原晴美・中川郁子　他	
単位・時間・受講対象(人数)	3月上旬　2コマ（4時間）　1年生50人	
学習概要 (社会的意義)	＜概要＞ 入学して1年。いよいよ進級を迎える。 看護師になるために、1年間重ねた学習を通して知識と技術を身につけ、臨地実習では、看護師の仕事を見て学び、患者との接し方やニードについて考え、成長してきた。 今回は、自分自身の成長を可視化するために、成長エントリーシートにポートフォリオを俯瞰し、成長したこと、考え方や視点などを記載し、その中から成長best 3を成長報告書に記載する。成長報告をプレゼンテーションすることで、1人ひとりの価値ある経験を共有する。また、2年生の成長報告を聴くことで、未来の自分をイメージすることができる。長期的ルーブリックで自分を振り返るとともに1年後の姿をイメージさせる。今後、どんな学習を積み重ねて看護師を目指すのか、2年生の姿と自分の成長を重ね、一人ひとりが自分の資質や、看護という仕事の価値に気づき、モチベーションを高め、意志ある学びを確認する機会とする。	
キーワード	経験の価値化　暗黙知の顕在化　記憶の可視化　資質　成長　キャリアビジョン　キャリアストーリー	
身につく力	専門知 □メタ認知能力 □経験の価値化 □暗黙知の顕在化 □自分の意志で目標へ向かう力	普遍知 □俯瞰力 □自尊感情、自己肯定感 □プレゼンテーション力 □ビジョンを描く力 □より成長しようとする意欲
学習の成果物	「成長報告書」と「私の履修カルテ」	
評価方法	アクションシート　10点／100点	
実施計画／関連予定	9月中旬～下旬―未来へキャリアストーリーを描こう (1) ―「自分の意志で未来へ描こう！」 プロジェクト 実施計画 2月下旬　ガイダンス　「成長エントリーシート」「成長報告書」配布 3 月上旬　1.「成長エントリーシート」の交流　2.共有したことから「感じたこと・考えたこと」記載し、共有　3. 長期的ルーブリックの記載　4. キャリアビジョンシートの記載および交流	

©2016 シンクタンク未来教育ビジョン 鈴木敏恵 All Rights Reserved.
一切の無断転載・翻訳等を禁ず。教育機関で使用される場合は、必ず出典『AI 時代の教育と評価　アクティブラーニングからアクティブシンキングへ』を明記してください。

講義室・場所	中通高等看護学院　教室１・２
展開内容	目的（ビジョン）：この１年間の自己の成長を自覚し、１年後の自分の姿をイメージできるようになる！ 目標（ゴール）：この１年の成長（価値ある学び）を共有し、キャリアビジョンを描くことができる。 1. 今日の流れの説明（俯瞰シート） 2.「成長エントリーシート」の交流 3. 共有したことから「感じたこと・考えたこと」記載し、共有 4. 長期的ルーブリックの記載 5. キャリアビジョンシートの記載および交流 6. リフレクション
テキスト・参考図書	キャリアストーリーをポートフォリオで実現する　　日本看護協会出版会 ポートフォリオとプロジェクト学習　　医学書院
他講義との関連	キャリア教育論Ⅱ
受講生へのメッセージ	この１年間、講義・実習を通して看護の基礎となる基礎知識や専門知識を学んできました。実習では、患者さんとの出会いがあり、その関りから得たものは計り知れないものです。誓いの式では、自分の看護師としてのビジョンを描き公言しました。経験を通して人は成長します。この１年をポートフォリオをめくり、俯瞰し、シートに書くことで自分の成長を確認しましょう。そして価値ある経験を共有しましょう。 そして、先輩たちの成長報告を聴くことで、4 月から、2 年生になる自分をイメージし、学習を重ね、キャリアビジョンを描いて、自分の望む未来に向かって自分で成長していきましょう！　未来は皆さんのものです！
ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ学習 e ﾗｰﾆﾝｸﾞ	http://www.mm-miraikyouiku-onlinecourse.com/

©2016 シンクタンク未来教育ビジョン 鈴木敏恵 All Rights Reserved.
一切の無断転載・翻訳等を禁ず。教育機関で使用される場合は、必ず出典『AI 時代の教育と評価　アクティブラーニングからアクティブシンキングへ』を明記してください。

授業科目	区分	基礎分野	
心理学	教育内容	人間と生活・社会の理解	
	領域	人間理解	
授業担当者	開講時期	単位	時間数
半田　温子	前期～中期	1 単位	30 時間

授業の目的

心理学の基本的概念を学習し、日常生活でみられる行動や現象を心理学的観点から理解する。

授業の目標

1. 学習のプロセスや記憶のメカニズムについて理解する。
2. 動機づけ、欲求、ストレスについて理解する。
3. 人間の各発達段階とその特徴を、発達課題に関連づけて理解する。
4. カウンセリングの基本的な考え方について学ぶ。

授業概要

心理学は、「人のこころとは何かを問い、こころの働きを明らかにする」学問領域とされる。本講義では、心理学の各分野における基本的概念について学習する中で、私たちの身のまわりでみられる現象や行動について、心理学的観点から改めて考え、学びを深めながら展開していきたい。

授業計画(進め方)

1 回目：心理学とは　知覚
2 回目：学習
3 回目：記憶
4 回目：動機づけ
5 回目：感情
6 回目：パーソナリティ
7 回目：知能
8 回目：思考
9・10 回目：発達
11 回目：人間関係
12 回目：集団
13 回目：精神的健康
14 回目：カウンセリング
15 回目：心理学の応用分野

テキスト

二宮克美 編　ベーシック心理学　医歯薬出版

参考書・指定図書

評価の方法

出席・参加状況、筆記試験により総合的に評価する

授業科目	区分	基礎分野	
人間関係論	教育内容	人間と生活・社会の理解	
	領域	人間理解	
授業担当者	開講時期	単位	時間数
菅原 美紀	中期	1 単位	15 時間

授業の目的

人間としての「個人」やその「関係性」に関心を持ち、コミュニケーションの成り立ちや応用の仕方について学ぶ。

授業の目標

対人関係におけるコミュニケーションについて、理論および実体験を通して、その多様性を学び、自らの日常生活に役立てることができる。

授業概要

1. コミュニケーションの基本概念について学ぶ。
2. 実体験を通して、自己及び他者理解を深める。
3. 医療における対人関係、チーム医療のあり方について学ぶ。
4. ソーシャルサポートについて学ぶ。

授業計画(進め方)

1 回目 自己理解と対人関係の維持・崩壊について
2 回目 対人行動と集団のメカニズムについて
3 回目 コミュニケーションの定義や機能について
4 回目 カウンセリング・心理療法の理論とスキル
5 回目 チーム医療の人間関係及び患者やその家族と看護師のかかわり
6 回目 ソーシャルサポートをめぐる人間関係
7 回目 ノーマライゼーションをはぐくむ人間関係
8 回目 試験

テキスト

系統看護学講座 基礎 人間関係論 医学書院

参考書・指定図書

必要時に紹介する。

評価の方法

出席、筆記試験による。

授業科目	区分	基礎分野	
社会学	教育内容	人間と生活・社会の理解	
	領域	人間の暮らし	
授業担当者	開講時期	単位	時間数
石沢 真貴	中期～後期	1単位	30時間

授業の目的

社会学の基礎概念を学ぶことで、医療・看護の課題に応用できる知識を理解できるようにする。

社会学的視角を学ぶことで、社会的事象を多角的に捉えて考察できるようにする。

授業の目標

行為、社会関係、集団・組織、制度を理解し医療・看護の現場での課題に対応できるようになる。

コミュニティや家族の問題等を通して、現代社会を多角的に捉えて考察できるようになる。

授業概要

社会学の基礎概念の説明と医療・看護の現場における応用について説明する。

現代社会における様々な社会現象とその諸課題・問題を取り上げ、多角的に考察する。

授業計画（進め方）

1回目　社会学とは何か
2回目　Ⅰ　社会学の基礎概念　1　自己と他者
3回目　2　行為と規範
4回目　3　集団・組織・ネットワーク・制度
5回目　4　医療・福祉と社会学
6回目　Ⅱ　現代社会の諸課題　1　少子化・高齢化・人口減少
7回目　2　家族の変容
8回目　3　家族とジェンダー
9回目　4　変容するコミュニティー　（1）農山村
10回目　変容するコミュニティー　（2）中心市街地
11回目　変容するコミュニティー　（3）住民自治と地域再生の課題
12回目　5　グローバル化と多文化社会
13回目　6　現代の貧困問題
14回目　7　労働と人権問題
15回目　まとめ　これからの社会にむけて

テキスト

使用しない。必要に応じて資料等を配布する。

参考書・指定図書

系統看護学講座　基礎分野　社会学　医学書院

評価の方法

記述試験を行う。場合によりレポート課題を課す。

授業科目	区分	基礎分野	
コミュニケーション論	教育内容	人間と生活・社会の理解	
	領域	人間の暮らし	
授業担当者	開講時期	単位	時間数
庄司　信　　髙橋　静子 齋藤　祐佳子	前期	1単位	15時間

授業の目的

1. 異なる立場や年代の人々とのコミュニケーションのあり方や方法について学ぶ。
2. 看護職として求められる多様な人々の生活や人権を尊重したコミュニケーション能力を身につける。

授業の目標

1. コミュニケーションの意義を理解し、看護師において必要となる実践的なコミュニケーション技術を習得できる。
2. 自分も相手も尊重しながら自分の気持ちを伝えるアサーティブコミュニケーションを理解し、看護師において必要となる実践的なコミュニケーション技能を習得する。

授業概要

1. コミュニケーションの意義を理解した上で、ロールプレイなど演習を通して看護師に必要となる実践的なコミュニケーション技術を習得する。異なる立場や年代の人々とのコミュニケーションのあり方や方法を考える機会としたい。
看護におけるコミュニケーションの基礎と実際については、この科目の後（ほぼ同時期）に、共通技術論Ⅰの科目の中で4回（講義2回、演習2回）学習する。
この後の臨地実習の場において、患者とのコミュニケーション、学生間や医療チームにおけるコミュニケーションにいかせるようにしたい。
2. 価値観が多様化した社会の中で生き抜くため、専門知識と技能の習得のみではなく、人間的な基礎力を習得し、アサーティブな自己表現（知識・ロープレ）を学ぶことで、表現力を高め、より良い人間関係を構築する事が営めるようになることが期待される。

授業計画(進め方)

1回～3回目：庄司　信先生　（講義）
1回目　人格の形成・維持・変容とコミュニケーション
2回目　社会システムの生成・維持・変容とコミュニケーション
3回目　看護師という仕事とコミュニケーション

4回～7回目：髙橋静子先生　（講義・グループワーク・毎回ミニロループレイ実施）
4回目　アサーティブについて
　1)講義の目的を説明　2)アサーティブの歴史・権利　3)傾聴・デスク法
5回目　コミュニケーションのタイプ・感情について
　1)3つの自己表現　2)4つの感情　3)自分のタイプを知る
6回目　自分の傾向・思い込み
　1)エリスのABC理論　2)ベックの認知の歪み　3)自己肯定感
7回目　アサーティブコミュニケーションの実践
　1)事例によるロールプレイ・意見、感想を話す　2)今後の学び・課題

8回目：齋藤祐佳子先生　（講義・演習）
・ビジネスマナー基本原則　身だしなみ　態度

テキスト

参考書・指定図書

評価の方法

筆記試験・レポート・授業への出席および程度により総合的に評価する。
庄司先生40点　髙橋先生45点　齋藤先生15点

授業科目	区分	基礎分野	
家族論	教育内容	人間の暮らし	
	領域	人間の生活・社会の理解	
授業担当者	開講時期	単位	時間数
大塚　紀子	中期～後期	1 単位	15 時間

授業の目的

家族とは何か、現代社会の家族問題や心理について学び、看護の対象としての家族を支援する基盤となる能力を養う。

授業の目標

1. 家族という集団が持つ特徴について、家族システム、家族発達、家族セルフケアなど家族のとらえかたがわかる
2. 現代家族の問題がわかる
3. 家族の心理構造・心理過程・家族問題の心理がわかる
4. 家族と援助関係を形成する方法および看護アプローチがわかる

授業概要

現代の家族は、核家族・多世代同居の家族は減少し、日本の世帯全体の 3 分の 1 は単身世帯という現状である。そのため、親族の相互扶助の絆は細く、もろくなっている。現代家族の特徴を踏まえ、個人を家族や社会から切り離すことなく、家族システム・社会システムの一員とみなし、システム内の関係を重視しつつ、エンパワーメントを支える基盤を学ぶ。健康問題を有する家族員を含めた家族全体をケアの対象として位置づけ、家族の主体性を尊重しながら、看護を展開するための基本的な知識や援助方法について学んでほしい。

授業計画(進め方)

1 回目　家族とは・家族のとらえかた
2 回目　現代家族の問題
3 回目　家族の心理構造と心理過程
4 回目　家族関係の心理
5 回目　家族と援助関係
6・7 回目　家族へのアプローチ
8 回目　試験

テキスト

家族看護学　家族のエンパワーメントを支えるケア　メディカ出版

参考書・指定図書

岡堂哲雄編　家族心理学入門　補訂版　培風館
下夷美幸著　家族問題と家族支援　放送大学教育振興会

評価の方法

筆記試験 45 点　課題シート 35 点　各講義の学習シート 25 点　合算して 6 割以上を単位修得とする

授業科目	区分	基礎分野	
生活と健康	教育内容	人間と生活・社会の理解	
	領域	人間の健康	
授業担当者 三浦 真澄	開講時期	単位	時間数
	前期	1 単位	15 時間

授業の目的

健康に関わる様々な要素を理解し、人々の健康問題を考える能力を養う。

授業の目標

1. 個人、家族、集団、組織・地域社会へと発展する情勢と健康の関わりについて理解できる。
2. 日常生活、ライフサイクルと健康の関わりについて理解できる。
3. 健康に関する施策・法律を理解できる。
4. 生活習慣から生じる健康問題を理解しアプローチ方法を学ぶ。

授業概要

本科目学習の最終目標は、健康を地域社会生活と関連させて理解を深め、健康的な生活支援をすることにある。その達成のために、1）健康とは何か、2）日常生活と健康、3）ライフサイクルと健康、4）生活習慣と健康、5）健康問題とアプローチ方法について学ぶ。

授業計画(進め方)

1 回目 看護が対象とする人々の生活を理解する（個人の視点から）
2 回目 看護が対象とする人々の生活を理解する（家族の視点から）
3 回目 看護が対象とする人々の生活を理解する（集団・組織、地域社会、グローバリゼーションの視点から）
4 回目 性のありかたと健康
5 回目 健康とは何かを理解する
6 回目 健康行動・健康課題を理解する（理論やモデルを用いて）
7 回目 健康問題に対するアプローチ方法を理解する
8 回目 筆記試験

テキスト

系統看護学講座　専門基礎　公衆衛生　医学書院
ナーシンググラフィカ　健康と社会・生活　メディカ出版
公衆衛生がみえる 2024－2025　第 6 版　メディックメディア

参考書・指定図書

基礎看護学「健康科学概論」 ヌーヴェルヒロカワ

評価の方法

レポート課題 30%、筆記試験 50%、出席およびグループワーク等の参加姿勢 20%

授業科目	区分	基礎分野	
ヒューマンケアリング	教育内容	人間と生活・社会の理解	
	領域	人間理解	
授業担当者	開講時期	単位	時間数
堀 裕美	前期～中期	1 単位	15 時間

授業の目的

人をケアすることの意味を問い、ケアの核となるケアリングについて理解を深める。

授業の目標

1. ケアリングの概念について理解できる。
2. 看護師として人をケアすることについて自分の考えを述べることができる。
3. 実習における自己の実践内容や態度をヒューマンケアリングの視点から考察できる。

授業概要

ケアリングは看護実践の中核となる概念であり、看護者と対象との関係のあり様を示す重要な概念である。ケアリングの理論について学び、看護の対象を全人的に理解できる豊かな感性を培う。また、臨地実習での自己の実践内容や態度をヒューマンケアリングの視点から振り返り、看護実践におけるケアリングについて考察する。

授業計画(進め方)

1 回目　ケアとケアリング、ケアの相互作用
2 回目　ミルトン・メイヤロフのケアリング論
3 回目　ジーン・ワトソンのケアリング論
4 回目　トランスパーソナルケアリング　～事例で考える～
5・6 回目　実習体験からのケアリングの学び（グループ交流、プレゼンテーション）
7・8 回目　ケアリングにおけるケア提供者の資質、対象者との関係のあり方
（グループワーク、プレゼンテーション）

テキスト

ジーン・ワトソン著 稲岡文昭他訳 ワトソン看護論 ヒューマンケアリングの科学 第 2 版　医学書院

参考書・指定図書

ミルトン・メイヤロフ著 田村真他訳 ケアの本質 生きることの意味 ゆみる出版

評価の方法

授業中の課題、授業への参加状況（グループワーク、プレゼンテーション）

授業科目	区分	専門基礎分野	
人体の構造	教育内容	人体の構造と機能	
	領域	人間理解	
授業担当者	開講時期	単位	時間数
板東 良雄	前期～中期	1 単位	30 時間

授業の目的

人体を構成する細胞・臓器・器官の名称・構造・機能について、基本的な事項を理解する。

授業の目標

正常人体の構造(解剖)と機能(生理)を関連づけて理解し、主要器官・組織の正常機能とそのしくみの概要を説明できる。また、各器官がどのように統合的に活動しているのか、様々な疾患はそれらの正常機能が破綻することによって成り立っていることを理解する。試験に合格することが目標ではなく、臨床で実際に使える知識を身につける。

授業概要

教科書に沿って講義を展開するが、主に解剖学の内容を概説する。必要に応じて、板書とスライドを用いて講義を行う。各器官系を構成している主な細胞を列挙し、臓器や器官の基本的な構造や機能について説明できるようになることを各講義における到達目標とする。ここで学習することのすべてが専門科目を学ぶための基礎知識として必須となる。講義スピードがかなり速いので、予習・復習を十分に行うことが望まれる。

授業計画(進め方)

1 回目 第 1 章 看護の土台となる解剖生理学：解剖学的用語を正しく使うことができる。
2 回目 第 2 章 細胞と組織：細胞と組織の基本的構造を説明できる。
3 回目 第 11 章 骨格系：骨組織を構成する細胞と骨および関節の基本的構造を説明できる。全身の主な骨と関節を列挙し、その特徴を概説できる。
4・5 回目 第 12 章 筋肉系：筋組織を構成する細胞と全身の主な筋を列挙することができる。
6 回目 第 5 章 循環器系：心臓および全身の脈管系(血管およびリンパ)の基本的構造を概説できる。
7 回目 第 6 章 呼吸器系：気道および肺の基本構造を概説できる。
8 回目 第 7 章 消化器系：消化器を構成する臓器・器官を列挙し、それらの基本構造を概説できる。
9 回目 第 8 章 泌尿器系：腎臓および泌尿器を構成する基本構造について概説できる。
10 回目 第 10 章 生殖器系：構造の違いについて性差やその機能を概説できる。
11 回目 第 9 章 内分泌系：全身の内分泌器官の構造を概説できる。
12・13 回目 第 13 章 神経系(1)：中枢神経の基本構造を概説できる。
14 回目 第 13 章 神経系(2)：末梢神経(自律神経系と脳神経系)の基本構造を概説できる。
15 回目 第 13, 14 章 感覚器系：皮膚、視覚器、聴覚器の構造を概説できる。

テキスト

系統看護学講座 専門基礎 解剖生理学 医学書院

参考書・指定図書

ナーシンググラフィカ 人体の構造と機能① 解剖生理学 メディカ出版
からだがみえる 人体の構造と機能 (medic media)、トートラ人体の構造と機能 (丸善)、人体の解剖生理学 (金芳堂)、解剖生理学 (南山堂)、レベル別看護 100 問学校 (宣広社) など。
概して高価なので、自分に合ったものを選べばよい。

評価の方法

試験の成績に加え、出席状況を加味し、総合的に評価する。

授業科目	区分	専門基礎分野	
人体の機能	教育内容	人体の構造と機能	
	領域	人間理解	
授業担当者	開講時期	単位	時間数
板東 良雄	前期～中期	1 単位	30 時間

授業の目的

人体を構成する細胞・臓器・器官の名称・構造・機能について、基本的な事項を理解する。

授業の目標

正常人体の構造（解剖）と機能（生理）を関連づけて理解し、主要器官・組織の正常機能とその仕組みの概要を説明できる。また、各器官がどのように統合的に活動しているのか、様々な疾患はそれらの正常機能が破綻することによって成り立っていることを理解する。試験に合格することが目的ではなく、臨床で実際に使える知識を身につける。

授業概要

教科書に沿って講義を展開するが、主に解剖学の内容を概説する。必要に応じて、板書とスライドを用いて講義を行う。各器官系を構成している主な細胞を列挙し、臓器や器官の基本的な構造や機能について説明できるようになることを各講義における到達目標とする。ここで学習することのすべてが専門科目を学ぶための基礎知識として必須となる。講義スピードがかなり速いので、予習・復習を十分に行うことが望まれる。

授業計画(進め方)

1 回目 第 2 章 細胞と組織：細胞と組織の基本構造を説明できる。
2 回目 第 11 章 骨格系：骨組織を構成する細胞と骨および関節の基本的機能を理解できる。全身の主な骨と関節を列挙し、その機能を概説できる。
3・4 回目 第 12 章 筋肉系：筋組織を構成する細胞と全身の主な筋を列挙し、その機能を説明できる。
4・5 回目 第 4 章 血液：血液の構成と機能について概説できる。
6 回目 第 5 章 循環器系：心臓および全身の脈管系（血管およびリンパ）の基本的機能を概説できる。
7 回目 第 6 章 呼吸器系：気道および肺の基本機能を概説できる。
8 回目 第 7 章 消化器系：消化器を構成する臓器・器官を列挙し、それらの基本機能を概説できる。
9 回目 第 8 章 泌尿器系：腎臓および泌尿器を構成する基本機能について概説できる。
10 回目 第 10 章 生殖器系：構造の違いについて性差やその機能を概説できる。
11 回目 第 9 章 内分泌系：全身の内分泌器官の機能を概説できる。
12・13 回目 第 13 章 神経系（1）：中枢神経の基本機能を概説できる。
14 回目 第 13 章 神経系（2）：末梢神経（自律神経と脳神経系）の基本機能を概説できる。
15 回目 第 3、14 章 感覚器系：皮膚、視覚器、聴覚器の基本機能を概説できる。

テキスト

系統看護学講座　専門基礎　解剖生理学　医学書院

参考書・指定図書

ナーシンググラフィカ 人体の構造と機能① 解剖生理学　メディカ出版
からだがみえる 人体の構造と機能（medic media）トートラ人体の構造と機能（丸善）、人体の解剖生理学（金芳堂）、解剖生理学（南山堂）、レベル別看護 100 問学校（宣広社）など。
概して高価なので、自分に合ったものを選べばよい。

評価の方法

試験の成績に加え、出席状況を加味し、総合的に評価する。

授業科目	区分	専門基礎分野	
生化学	教育内容	人体の構造と機能	
	領域	人間理解	
授業担当者	開講時期	単位	時間数
小泉 幸央	前期～中期	1 単位	30 時間

授業の目的

人体の構成成分である糖質、脂質、タンパク質、核酸の構造と性質について学び、生体内でどのように代謝されているかを学ぶ。

授業の目標

生命体の構造単位である細胞の構成成分が示す化学反応と代謝機序を分子レベルで理解する。

授業概要

生化学は生命現象を分子の挙動として解明することを目的とした学問であり、近年めざましい発展を遂げ、生命現象の最も重要な基礎となっている。本講義では、人体の構成成分である糖質、脂質、タンパク質、核酸についてその構造と性質を学び、またそれらの生体内における生合成や分解といった代謝についても学ぶ。人体を支える基本メカニズムへの理解を深めることにより、将来の看護の実践のための一助になると考える。また、他の科目で得た授業内容との相互理解が大変重要になってくるので、常に生化学的な視点から考える習慣を身につけてほしい。

授業計画(進め方)

1 回目 生化学の基礎知識
2 回目 水と無機質
3 回目 細胞の構造と機能
4 回目 タンパク質の構造と機能
5 回目 糖質の構造と機能
6 回目 脂質の構造と機能
7 回目 核酸の構造と機能
8 回目 代謝の基礎と酵素
9 回目 ビタミンと補酵素
10 回目 シグナル伝達とホルモン
11 回目 糖質代謝Ⅰ
12 回目 糖質代謝Ⅱ
13 回目 脂質代謝
14 回目 タンパク質代謝
15 回目 遺伝情報

テキスト

系統看護学講座 専門基礎 生化学 医学書院

参考書・指定図書

特になし

評価の方法

出席、筆記試験による総合評価

授業科目	区分	専門基礎分野	
栄養学	教育内容	人体の構造と機能	
	領域	人間理解	
授業担当者	開講時期	単位	時間数
佐藤 美樹	中期	1 単位	15 時間

授業の目的

人間にとっての栄養の意義を理解する

授業の目標

栄養素の必要量を理解し、食物・食品での摂取法を理解する

授業概要

栄養の意義、栄養素の働き、必要量を理解し食事、治療食の必要性と重要性を学ぶ

授業計画(進め方)

1 回目　人間栄養学と看護、栄養素の種類とはたらき

2 回目　食物の消化と栄養素の吸収・代謝、エネルギー代謝

3 回目　食事と食品

4 回目　栄養ケア・マネジメント、栄養状態の評価・判定

5 回目　ライフステージと栄養

6 回目　臨床栄養①

7 回目　臨床栄養②、健康づくりと食生活

8 回目　試験

テキスト

系統看護学講座　専門基礎　栄養学　医学書院

参考書・指定図書

ナーシンググラフィカ 疾病の成り立ち④ 臨床栄養学 メディカ出版

評価の方法

出席・受講態度・筆記試験

授業科目	区分	専門基礎分野	
生命現象のしくみ	教育内容	人体の構造と機能	
	領域	人間理解	
授業担当者	開講時期	単位	時間数
石井 照久	前期	1 単位	15 時間

授業の目的

生命現象の基本単位である細胞の構造と機能を学び、専門分野の基礎を築く。また、生命科学技術の現状を学び、将来医療者としてどのように生命科学技術に向き合えばよいのかを考察する能力を身につける。

授業の目標

1. 2 種類の細胞（原核細胞と真核細胞）を説明できる。
2. 非細胞性の病原体（ウイルスとプリオン）を説明できる。
3. セントラルドグマ（遺伝のしくみ）を説明できる。
4. 生命科学技術の現状（ES 細胞、iPS 細胞、新型出生前診断、遺伝子検査技術）を説明でき、これらの技術との向き合い方を考察できる。

授業概要

生命現象の基本単位は細胞である。この授業では、まず細胞について学ぶ。さらに全生物共通の生きるシステムである遺伝のしくみ（＝セントラルドグマ）について概説する。細胞でない病原体についても説明する。さらには日々進歩している生命科学技術のうち、ES 細胞、iPS 細胞、新型出生前診断、遺伝子検査技術を扱い、これらの技術との向き合い方を考察する。

授業計画(進め方)

各授業のはじめに、可能な限り最新のニュースを紹介します。
関連する回でタバコの害に強く触れます。

1 回目 細胞としての成立要件（細胞は何をしているか）
2 回目 原核細胞、真核細胞
3 回目 すべての生命現象で共通のセントラルドグマ（遺伝のしくみ）とは何か
4 回目 ウイルスは何なのか、病気との関係はどうなのか
5 回目 プリオンは何なのか、病気との関係はどうなのか
6 回目 セントラルドグマと病気の関係
7 回目 ES 細胞と iPS 細胞は、何が同じで何が違うのか
8 回目 新型出生前診断と遺伝子検査技術とは何か

テキスト

系統看護学講座　専門基礎　生化学　医学書院

参考書・指定図書

「図説 生物の世界」三訂版 裳華房
「“生きている”ってどういうこと？生命のしくみを探る生物学」培風館
「図解雑学 細胞のしくみ」「図解雑学 生物学」「図解雑学 遺伝子のしくみ」以上ナツメ社
「遺伝子時代の基礎知識」「絵でわかる細胞の世界」「好きになる人間生物学」以上講談社
「生物学超入門」日本実業出版社　「いのちをいただく」西日本新聞社

評価の方法

授業中の課題と筆記試験

授業科目	区分	専門基礎分野	
ナースがみる人体	教育内容	人体の構造と機能	
	領域	人間の暮らし	
授業担当者	開講時期	単位	時間数
渡部 絵美	中期～後期	1 単位	30 時間

授業の目的

普段意識せずに行っている「食べる」「トイレに行く」「眠る」などの日常生活行動は、人間の生命活動につながる営みであり、すべて人体の構造と機能の上に成り立っている。既習の「人体の構造」「人体の機能」「生化学」などの知識を人間の生活行動に当てはめ、からだがどのように生活行動を成し遂げているのかを学ぶ。そうすることで、人間を生活者として捉え、生活行動に焦点を当てて人体をみるという看護の視点を養う。

授業の目標

1. 「恒常性維持」のための物質の流通と調節の仕組みについて説明できる。
2. 酸素をからだに取り込むための生活行動である「息をする」仕組みについて説明できる。
3. 栄養素をからだに取り込むための生活行動である「食べる」仕組みについて説明できる。
4. 生活行動に必要なからだを支える骨格と、それを動かす神経・筋肉の仕組みについて説明できる。
5. 不要なものをからだから破棄するための生活行動である「トイレに行く（排尿・排便する）」仕組みについて説明できる。
6. 生活行動に必要な言語による会話や外界の情報をとらえるための「見る・聞く・話す」仕組みについて説明できる。
7. からだをきれいに保つ・温まるための生活行動である「お風呂に入る」仕組みについて説明できる。
8. からだを休息させ、記憶を整理するための生活行動である「眠る」仕組みについて説明できる。

授業概要

からだのつくりとはたらきのイメージ化（からだの地図帳作成、模型作成、からだに触れる、体験する、測定するなど）や、学び合い学習（生活行動がどのようなからだのつくりとはたらきによって成し遂げられているかグループ学習し、学生が講師となり授業を行う）の手法をとる。

授業計画（進め方）

1～6 回目　グループワーク
7 回目　「恒常性維持」（血液による物質の流通、神経性調節、液性調節　など）
8 回目　「息をする」（息を吸う・吐く、ガス交換　など）
9 回目　「動く」（立つ、歩く、座る、つかむ、つまむ　など）
10 回目　「食べる」（食欲、食行動、咀嚼・嚥下、消化・吸収　など）
11 回目　「トイレに行く」（排尿：尿の生成、尿意、排尿）（排便：便の生成、便意、排便など）
12 回目　「見る・聞く・話す」（視覚、聴覚、発声、言葉　など）
13 回目　「お風呂に入る」（垢を落とす、温熱作用、静水圧作用、浮力作用　など）
14 回目　「眠る」（サーカディアンリズム、睡眠中のからだ、記憶　など）
15 回目　まとめ

からだの地図帳作成
小テスト

＊各単元名・内容は、学生の意向によって変更する場合がある

テキスト

系統看護学講座　専門基礎　解剖生理学　医学書院
系統看護学講座　専門　基礎看護技術Ⅱ　医学書院
看護がみえる vol.3　フィジカルアセスメント　第1版　メディックメディア

参考書・指定図書

菱沼典子著　看護 形態機能学　生活行動からみるからだ　日本看護協会出版会

評価の方法

各回の小テスト、からだの地図帳、学生授業の内容、グループワークへの参加状況

授業科目	区分	専門基礎分野	
病理学	教育内容	疾病の成り立ちと回復の促進	
	領域	人間の健康	
授業担当者	開講時期	単位	時間数
畠山 遥	前期	1 単位	30 時間

授業の目的

なぜ身体に不調が起こるのか、その不調はどのように経過し、人体にどんな機能的・形態的変化を与えるのかを理解し、実際の医療現場で看護的処置を行う際、「なぜそうするのか」を考えられるようになる。

授業の目標

病気の原因やその成り立ちを科学的に理解するための基礎知識を身につける。

授業概要

病理学とは、病気の“しくみ(成り立ち、経過など)”や“分類・見分け方”について学び、病気の本質を理解するための学問です。

一般的に、病理学は総論と各論に大別されます。この講義では総論を中心に授業を進めます。いろいろな臓器の疾患を「炎症」「免疫」「循環」「代謝」などの大きなカテゴリーに分けて学習し、患者さんの病態全体を把握するための基本的な考え方を身につけましょう。各論の内容も必要に応じて解説していきます。

授業計画(進め方)

1 回目 病理学と病理診断
2 回目 細胞の傷害と適応
3 回目 炎症と修復 (1)
4 回目 炎症と修復 (2)
5 回目 循環と止血 (1)
6 回目 循環と止血 (2)
7 回目 体液の異常
8 回目 免疫応答の異常 (1)
9 回目 免疫応答の異常 (2)
10 回目 感染症
11 回目 代謝の異常
12 回目 遺伝と先天異常
13 回目 腫瘍 (1)
14 回目 腫瘍 (2)
15 回目 問題演習と解説

※講義の進行状況によっては、内容が前後する、または変更される可能性があります。

テキスト

系統看護学講座 専門基礎 病理学 医学書院
系統看護学講座 専門基礎 病態生理学 医学書院

参考書・指定図書

評価の方法

筆記試験

授業科目	区分	専門基礎分野	
検査と治療法概説Ⅰ (1) 臨床検査	教育内容	疾病の成り立ちと回復の促進	
	領域	人間の健康	
授業担当者	開講時期	単位	時間数
引地 悠	中期	1単位	30時間 (臨床検査14時間)

授業の目的

様々な検査の目的と結果解釈の知識を蓄え、臨床に役立てるため。

授業の目標

基本的な検査と、代表的な疾患とを結びつけながら学習する。

授業概要

検査といえば、膨大な種類、馴染みにくい単語、そして数値。この三重苦を乗り越えつつ、効果的に学ぶために、グループワークや、国家試験の演習を活用しようと、計画しています。試行錯誤しながら、共にステップアップしていきましょう。

授業計画(進め方)

1回目 尿検査

2回目 血液検査、凝固検査

3回目 血液生化学

4回目 輸血検査、ホルモン検査

5回目 スパイログラム 超音波診断法

6回目 脳波 神経伝導速度

7回目 心電図検査

テキスト

系統看護学講座 別巻 臨床検査 医学書院

参考書・指定図書

ナースのための図解検査の話 学習研究社

評価の方法筆記試験

検査と治療法概説Ⅰ100点満点中の50点

授業科目	区分	専門基礎分野	
検査と治療法概説Ⅰ (2) 放射線検査	教育内容	疾病の成り立ちと回復の促進	
	領域	人間の健康	
授業担当者	開講時期	単位	時間数
池田 英樹	中期	1 単位	30 時間 (放射線検査 8 時間)

授業の目的

放射線検査についての基礎的知識を習得する。

授業の目標

放射線及び放射線検査の特徴を理解する。

授業概要

医療において画像診断の必要性、重要性は益々高まっている。しかし、患者さんは放射線やその検査について少なからず不安を抱いている。それは放射線被ばくという問題や、検査の安全性に対する疑問などが患者さんの中で納得できないからである。

看護者が、放射線に対する正しい知識をもって過度な放射線不安を克服することは、同じように不安を抱く患者さんへの正しい説明と、より良い看護の提供に繋がる。場合によってはあなた自身が放射線診療従事者の一員となる場合もあることから、検査や治療の特徴をよく理解する。

いつも患者さんの傍にいて患者さんのことを良く知る看護者は患者さんにとって、とても安心できる存在となる。授業で習った知識がその一助となることを期待する。

授業計画(進め方)

1) テキスト「放射線診療と看護」に沿ってスライドを用いながら授業を進める。

2) 臨床の検査を見学し、同時に被ばく防護についての演習を行う。

1 回目 X線診断と看護 (一般撮影、CT)

2 回目 血管撮影、IVRと看護

3 回目 MRI・核医学・超音波と看護

4 回目 放射線検査の見学と被ばく防護 3 原則の演習

テキスト

系統看護学講座 別巻 臨床放射線医学 医学書院

参考書・指定図書

評価の方法

筆記試験 検査と治療法概説Ⅰ 100 点満点中の 25 点

授業科目	区分	専門基礎分野	
検査と治療法概説Ⅰ（3） 放射線治療	教育内容	疾病の成り立ちと回復の促進	
	領域	人間の健康	
授業担当者	開講時期	単位	時間数
加藤 勇人	中期	1単位	30時間 (放射線治療8時間)

授業の目的

がん治療の3本柱の1つである放射線治療について学ぶ。また、放射線治療の副作用とその対処について理解する。

授業の目標

放射線治療を受ける患者の看護に必要な基礎的な知識を得る。

授業概要

様々な放射線治療とその特徴、副作用、対象症例について、テキストに沿ってスライドを用いながら授業を進めます。

授業計画(進め方)

1回目 放射線治療総論（1）

2回目 放射線治療総論（2）

3回目 放射線治療と看護

4回目 放射線治療各論

テキスト

系統看護学講座　別巻　臨床放射線医学　医学書院

参考書・指定図書

評価の方法

筆記試験

検査と治療法概説Ⅰ100点満点中の25点

授業科目 検査と治療法概説Ⅱ（1） 輸血療法	区分	専門基礎分野	
	教育内容	疾病の成り立ちと回復の促進	
	領域	人間の健康	
授業担当者	開講時期	単位	時間数
伊藤　文恵	中期	1単位	30時間 （輸血療法4時間）

授業の目的

化学療法・輸血療法・手術療法および医療機器についての基礎的知識を習得する。

授業の目標

輸血療法について理解する。

授業概要

輸血は移植の一種であり、輸血治療を行うには知識と判断力が要求される。特に患者に最も近いところで臨床輸血に関与する看護師には輸血に関する知識と看護能力が求められている。安全な輸血療法を実施するための基礎知識を身につけていただきたい。

授業計画（進め方）

1 回目　・輸血医療の歴史を紹介し、善意で得られた血液が医療機関に供給され、患者に投与されるまでの過程を説明する。
　　・輸血に関わる法制度と血液製剤の種類と特徴について説明する。

2 回目　・輸血検査、輸血の実際と看護、輸血の副作用とその対策、自己血輸血についての要点などを説明する。

テキスト

系統看護学講座　専門　基礎看護技術Ⅱ　医学書院

参考書・指定図書

評価の方法

筆記試験

検査と治療法概説Ⅱ100点満点中の10点

授業科目 検査と治療法概説Ⅱ（2） 手術療法	区分	専門基礎分野	
	教育内容	疾病の成り立ちと回復の促進	
	領域	人間の健康	
授業担当者	開講時期	単位	時間数
進藤　吉明	中期	1 単位	30 時間 （手術療法 18 時間）

授業の目的

化学療法・輸血療法・手術療法および医療機器についての基礎的知識を習得する。

授業の目標

手術療法について理解する。

授業概要

手術療法での大切なことや流れを理解する。全身管理を行う上で大切なこと（輸液量、ドレーン、尿量など）を理解する。

授業計画(進め方)

1～3 回目　消化器分野と手術についての理解

4 回目　手術療法の進歩

5 回目　創傷治療の基礎　　麻酔とは？

6 回目　局所麻酔の特徴

7 回目　全身麻酔の特徴

8 回目　生体反応とモニタリング

9 回目　周手術期合併症と疼痛管理

テキスト

系統看護学講座　別巻　臨床外科看護総論　医学書院

参考書・指定図書

周術期の全身管理　Gakken

ナースのためのスキルアップノート　看護の現場ですぐに役立つ術前・術後ケアの基本　秀和システム

評価の方法

筆記試験　質問形式のレポート提出（任意）も参考とする。

検査と治療法概説Ⅱ100 点満点中の 60 点

授業科目 検査と治療法概説Ⅱ（3） 化学療法	区分	専門基礎分野	
	教育内容	疾病の成り立ちと回復の促進	
	領域	人間の健康	
授業担当者	開講時期	単位	時間数
進藤　吉明	後期	1単位	30時間 （化学療法8時間）

授業の目的

化学療法・輸血療法・手術療法および医療機器についての基礎的知識を習得する。

授業の目標

1. 化学療法について理解する。
2. 化学療法における看護師の役割を理解する。

授業概要

・がん治療における化学療法の位置づけの理解
・がん化学療法の基礎・有害事象の理解
・がん化学療法における看護師の役割
・がん化学療法の実際

授業計画(進め方)

1・2回目　がん化学療法に関する基礎知識講座
3回目　がん化学療法各論
4回目　がん化学療法の計画立案、ロールプレイ

テキスト

講師が準備（プリント、中通総合病院作成患者向けパンフレット）
薬がみえる　vol.3　メディックメディア

参考書・指定図書

徹底ガイド　がん化学療法とケアＱ＆Ａ（ナーシングケアＱ＆Ａ25　NCQA）（総合医学社）
新臨床腫瘍学（日本臨床腫瘍学会編集；南江堂）
がん情報サイト（http://cancerinfo.tri-kobe.org）
国立がんセンター（http://ganjoho.ncc.go.jp/pro/index.html）
PDQ日本語版（http://mext-cancerinfo.tri-kobe.org/database/pdq/index.html）

評価の方法

検査と治療法概説Ⅱ100点満点中の30点
・講義終了後のミニテスト
・最終講義時のグループ学習
・学習到達度確認試験（選択式・記述式）

授業科目	区分	専門基礎分野	
病態と診療Ⅰ（1） 脳神経	教育内容	疾病の成り立ちと回復の促進	
	領域	人間の健康	
授業担当者	開講時期	単位	時間数
柴田 敬一	中期	1単位	30時間 （脳神経10時間）

授業の目的

系統別の病態・症状・治療・検査について理解し、看護者が果たす役割を学ぶ。

授業の目標

1. 病因と病態の特徴を理解する。
2. 系統別の病態・症状・治療・検査について理解する。

授業概要

人口の高齢化に伴い、認知症や脳血管障害など脳神経疾患が増加しています。また脳神経の知識は他の分野にも応用できるため、大切な分野です。授業ではスライドを用いて基礎からわかりやすく解説します。また、随時国家試験問題の解説や考え方も講義します。

授業計画（進め方）

1回目 主要な症状と徴候
（意識障害、頭痛、運動麻痺、けいれん）

2回目 末梢神経疾患、筋疾患、神経筋接合部疾患
（疾患の病態と診断・治療）

3回目 中枢神経疾患①

4回目 中枢神経疾患②

5回目 脳・神経機能障害のある患者の診療

テキスト

系統看護学講座　専門　脳・神経　医学書院

参考書・指定図書

評価の方法

筆記試験
病態と診療Ⅰ100点満点中の30点

授業科目	区分	専門基礎分野	
病態と診療Ⅰ (2) 運動器	教育内容	疾病の成り立ちと回復の促進	
	領域	人間の健康	
授業担当者	開講時期	単位	時間数
鈴木 哲哉	中期～後期	1単位	30時間 (運動器10時間)

授業の目的

系統別の病態・症状・治療・検査について理解し、看護者が果たす役割を学ぶ。

授業の目標

1. 病因と病態の特徴を理解する。
2. 系統別の病態・症状・治療・検査について理解する。

授業概要

運動器とは骨や関節・脊髄・末梢神経・筋肉などの総称で、日常生活の中で目的とする動作を実行する器官である。

運動器疾患患者は、人間の動的機能や形態的機能がその器官の損傷や加齢による変化などのために先天的または、後天的に損なわれている状態である。このような運動器疾患患者の主な病態・症状・検査・治療について理解を深め、看護者が果たす役割の理解につながることを期待する。

授業計画(進め方)

1回目 総論、骨の構造・機能・種類

2回目 骨折の種類と病態・症状・検査・治療

3回目 脊椎の変性疾患・外傷の病態・症状・検査・治療

4回目 関節疾患（関節リウマチ・変形性関節症・痛風・偽痛風など）の病態・症状・検査・治療

5回目 切断、脱臼などの四肢外傷、装具、リハビリテーション、骨軟部腫瘍

テキスト

系統看護学講座　専門　運動器　医学書院

参考書・指定図書

評価の方法

筆記試験

病態と診療Ⅰ100点満点中の30点

授業科目 病態と診療Ⅰ (3) 女性生殖器	区分	専門基礎分野	
	教育内容	疾病の成り立ちと回復の促進	
	領域	人間の健康	
授業担当者	開講時期	単位	時間数
利部　徳子	中期	1 単位	30 時間 (女性生殖器 8 時間)

授業の目的

系統別の病態・症状・治療・検査について理解し、看護者が果たす役割を学ぶ。

授業の目標

1. 病因と病態の特徴を理解する。
2. 系統別の病態・症状・治療・検査について理解する。

授業概要

テキストと教材を用い、学生がイメージしやすい授業展開をしたい。

授業計画(進め方)

1 回目　女性生殖器の構造と機能

2 回目　良性腫瘍

3 回目　悪性腫瘍

4 回目　機能的疾患

テキスト

ナーシンググラフィカＥＸ　疾患と看護⑨　女性生殖器　メディカ出版

参考書・指定図書

評価の方法

筆記試験

病態と診療Ⅰ 100 点満点中の 30 点

授業科目 病態と診療Ⅰ（4） 乳腺	区分	専門基礎分野	
	教育内容	疾病の成り立ちと回復の促進	
	領域	人間の健康	
授業担当者	開講時期	単位	時間数
清澤　美乃	中期	1 単位	30 時間 （乳腺 2 時間）

授業の目的

系統別の病態・症状・治療・検査について理解し、看護者が果たす役割を学ぶ。

授業の目標

1. 病因と病態の特徴を理解する。
2. 系統別の病態・症状・治療・検査について理解する。

授業概要

乳癌は、女性の癌としては最も多い病気です。現在では年間約７万人（＝11 人に１人）が乳癌と診断されています。

ここでは看護者として、乳癌の基本的な病態・症状・検査・治療を理解、習得して下さい。

授業計画(進め方)

病態：疫学や解剖・生理

症状：腫瘤性病変と非腫瘤性病変について

検査：画像診断や生検など

治療：手術、内分泌療法、化学療法、放射線療法など

以上テキストに沿って行いますが、より良い理解のために、最新の臨床の事例も加えた授業を予定しています。

テキスト

ナーシンググラフィカＥＸ　疾患と看護⑨　女性生殖器　メディカ出版

参考書・指定図書

評価の方法

筆記試験

病態と診療Ⅰ 100 点満点中の 10 点

授業科目 病態と診療Ⅱ（1） 循環器	区分	専門基礎分野	
	教育内容	疾病の成り立ちと回復の促進	
	領域	人間の健康	
授業担当者	開講時期	単位	時間数
五十嵐　知規	中期	1 単位	30 時間 （循環器 10 時間）

授業の目的

系統別の病態・症状・治療・検査について理解し、看護者が果たす役割を学ぶ。

授業の目標

1. 病因と病態の特徴を理解する。
2. 系統別の病態・症状・治療・検査について理解する。

授業概要

本分野は、全身のまさに循環を対象とするものであり、その知識はどのような疾患、患者を対象にするにしても必須のものである。看護における循環管理の重要性を認識し、その知識を確固たるものとしていただきたく、本授業を行う。

授業計画(進め方)

テキストに沿って授業を行う。ただし、テキストに載ってはいないが、病態などの理解のうえで重要な事項についての講義を重点的に行うので、テキストの内容の予習、復習は各自でも十分に行っていただきたい。

1 回目　先天性心疾患
　　心臓弁膜症
2 回目　動脈系疾患、静脈系疾患
　　虚血性心疾患
3 回目　血圧異常
　　心筋疾患
4 回目　心不全
　　心臓カテーテル検査、カテーテル治療
5 回目　不整脈
　　その他

テキスト

系統看護学講座　専門　循環器　医学書院

参考書・指定図書

評価の方法

筆記試験

病態と診療Ⅱ150 点満点中の 50 点

授業科目	区分	専門基礎分野	
病態と診療Ⅱ (2) 呼吸器	教育内容	疾病の成り立ちと回復の促進	
	領域	人間の健康	
授業担当者	開講時期	単位	時間数
三船　大樹	中期	1 単位	30 時間 (呼吸器 10 時間)

授業の目的

系統別の病態・症状・治療・検査について理解し、看護者が果たす役割を学ぶ。

授業の目標

1. 病因と病態の特徴を理解する。
2. 系統別の病態・症状・治療・検査について理解する。

授業概要

「息を吹き返す」「息を引き取る」などの表現からも理解されるように、呼吸は生命活動の根源です。呼吸器疾患は生命の危機に直結しやすく、かつその症状は、息切れや咳、胸痛、血痰など、日常生活に大きな影響を引き起こします。看護者が果たす役割を身につけるため、呼吸器の構造と生理、代表的な呼吸器疾患の基本的な知識を習得してください。

テキストに準じて作成したプリントを授業当日に配布します。授業プリントをもとに試験を作成しますので、試験前の復習に利用してください。

授業計画(進め方)

1 回目　第 1 章～第 2 章

2 回目　第 3 章～第 4 章

3 回目　第 5 章　感染症、間質性肺疾患

4 回目　第 5 章　気道疾患、呼吸不全

5 回目　第 5 章　肺腫瘍、胸膜・縦隔・横隔膜の疾患

テキスト

系統看護学講座　専門　呼吸器　医学書院

参考書・指定図書

評価の方法

筆記試験

病態と診療Ⅱ150 点満点中の 50 点

授業科目 病態と診療Ⅱ (3) 腎・泌尿器	区分	専門基礎分野	
	教育内容	疾病の成り立ちと回復の促進	
	領域	人間の健康	
授業担当者	開講時期	単位	時間数
藤原　崇史	中期～後期	1 単位	30 時間 (腎・泌尿器 10 時間)

授業の目的

系統別の病態・症状・治療・検査について理解し、看護者が果たす役割を学ぶ。

授業の目標

1. 病因と病態の特徴を理解する。
2. 系統別の病態・症状・治療・検査について理解する。

授業概要

主要な腎疾患、泌尿器科疾患の病態生理が理解できるように授業を進める。テキストに沿って授業を行うので、予備知識としてあらかじめ目を通しておいて欲しい。

授業計画(進め方)

1 回目　腎疾患を学ぶための基礎知識
　　泌尿器疾患を学ぶための基礎知識

2 回目　腎臓内科で行われる検査と看護
　　泌尿器科で行われる検査・治療・処置と看護

3 回目　腎臓の疾患と看護

4 回目　透析療法と腎移植

5 回目　泌尿器科の疾患と看護

テキスト

系統看護学講座　専門　腎・泌尿器　医学書院

参考書・指定図書

評価の方法

筆記試験（選択式、記述式の両方を予定）
病態と診療Ⅱ150 点満点中の 50 点

授業科目 病態と診療Ⅲ（1） 消化器	区分	専門基礎分野	
	教育内容	疾病の成り立ちと回復の促進	
	領域	人間の健康	
授業担当者	開講時期	単位	時間数
進藤　吉明	中期	1単位	30時間 （消化器10時間）

授業の目的

系統別の病態・症状・治療・検査について理解し、看護者が果たす役割を学ぶ。

授業の目標

1. 病因と病態の特徴を理解する。
2. 系統別の病態・症状・治療・検査について理解する。
3. 内視鏡検査・治療と偶発症について理解する。

授業概要

テキストに従ってポイントをおさえて進めていく。
消化器疾患についての理解、検査法、治療法を学ぶ。

授業計画(進め方)

病気がみえる（テキスト）を中心に講義を行っていく。(視覚で覚える)
学校指定のテキストを各自読み込んでもらう。
1回目　食道　胃
2回目　胃　十二指腸
3回目　小腸　大腸
4回目　肝臓
5回目　胆道系　膵臓　その他

テキスト

系統看護学講座　専門　消化器　医学書院
系統看護学講座　別巻　臨床外科看護各論　医学書院
病気がみえる vol.1　消化器　第5版　メディックメディア

参考書・指定図書

評価の方法

試験、授業中の演習（口述も含む）
病態と診療Ⅲ100点満点中の40点

授業科目	区分	専門基礎分野	
病態と診療Ⅲ（2） 内分泌・代謝	教育内容	疾病の成り立ちと回復の促進	
	領域	人間の健康	
授業担当者	開講時期	単位	時間数
松田　大輔	中期～後期	1 単位	30 時間 （内分泌・代謝 8 時間）

授業の目的

系統別の病態・症状・治療・検査について理解し、看護者が果たす役割を学ぶ。

授業の目標

1. 病因と病態の特徴を理解する。
2. 系統別の病態・症状・治療・検査について理解する。

授業概要・授業計画（進め方）

一般的な講義を 1 時間行う。

理解を深めるために看護師国家試験問題を使用してミニテストを行い解説を行う。

1 回目　内分泌・代謝器官の構造と機能についてその仕組みが分かるように説明するとともに、内分泌代謝疾患に必要な検査について説明し理解する。

2 回目　代表的な代謝疾患として糖尿病を取り上げ、その疾患概念、治療方法、合併症について説明し理解する。

3 回目　代表的な内分泌疾患として甲状腺疾患を取り上げ、その疾患概念、治療方法、合併症について説明し理解する。

4 回目　その他の内分泌代謝疾患について最小限必要な知識を整理する。

テキスト

系統看護学講座　専門　内分泌・代謝　医学書院

参考書・指定図書

日本糖尿病学会編　糖尿病治療の手引き　南江堂

評価の方法

筆記試験（看護師国家試験問題など）

病態と診療Ⅲ100 点満点中の 30 点

授業科目 病態と診療Ⅲ（3） 血液・造血器・感染症、アレルギー・膠原病	区分	専門基礎分野	
	教育内容	疾病の成り立ちと回復の促進	
	領域	人間の健康	
授業担当者	開講時期	単位	時間数
奥山　慎　　藤原　崇史	中期～後期	1 単位	30 時間 （血液・造血器・感染症 8 時間、アレルギー・膠原病 4 時間）

授業の目的

1. 全ての医療従事者が避けて通れない感染症。医療のプロフェッショナルを目指す皆さんに、必須な知識と必要な行動を学んでいただく。
2. 血液疾患の概要を理解し，看護者が果たす役割を学ぶ。
3. 系統別の病態・症状・治療・検査について理解し、看護者が果たす役割を学ぶ。

授業の目標

1. 感染症の基本となる症状，検査，治療の概要を理解する。
2. 最近話題の感染症，感染制御と予防接種について理解する。
3. 血液疾患の概要を理解する。
4. 血液悪性腫瘍に対する癌化学療法に求められる特殊な看護について理解する。
5. 病因と病態の特徴を理解する。
6. 系統別の病態・症状・治療・検査について理解する。

授業概要

日常の看護実践の中で比較的多く接する疾患の理解を深めることを主眼として、以下の疾患を中心に説明する。

授業計画（進め方）

1 回目　感染症の基本，症状，検査，治療
- 感染症とは何か　・　感染症を構成する要素　・　感染症の経路
- 感染症法　・　感染症の症状：発熱，倦怠感，敗血症性ショック
- 感染症の症状：発熱，倦怠感，敗血症性ショック
- 検査：培養をとる（グラム染色，血液培養，尿培養，痰培養），血清検査，PCR 検査，画像検査
- 治療：抗菌薬とその乱用

2 回目　話題の感染症，予防接種，職業感染対策
- 新型コロナウイルス感染症
- 結核と空気感染
- 耐性菌：MRSA，ESBL 産生菌，多剤耐性緑膿菌，カルバペネム耐性腸内細菌科細菌
- 感染制御　・　針刺し　・　予防接種

3 回目　血液の基本と貧血
- 赤血球，白血球，血小板の役割と造血
- 赤血球の異常：多血症と貧血（鉄欠乏性貧血，巨赤芽球性貧血，溶血性貧血，二次性貧血）
- 血小板の異常：本態性血小板血症，特発性血小板減少性紫斑病，DIC

4 回目　血液悪性腫瘍と癌化学療法
- 白血病，悪性リンパ腫，多発性骨髄腫，骨髄異形成症候群
- 癌化学療法の概要と必要な看護
- 造血幹細胞移植　・　HLA と骨髄バンク

5 回目　アレルギー反応とその機序
アレルギー疾患の病態

6 回目　膠原病の病態

テキスト

系統看護学講座　専門　血液・造血器　医学書院
系統看護学講座　専門　アレルギー　膠原病　感染症　医学書院

参考書・指定図書

評価の方法

筆記試験
病態と診療Ⅲ100 点満点中、感染症 10 点、血液・造血器疾患 10 点、アレルギー膠原病 10 点

授業科目	区分	専門基礎分野	
薬理学	教育内容	疾病の成り立ちと回復の促進	
	領域	人間の健康	
授業担当者	開講時期	単位	時間数
佐々木 修	中期～後期	1 単位	30 時間

授業の目的

疾病ごとに使用される薬物の分類と作用機序、薬理作用・有害作用および管理について理解する。

授業の目標

臨床現場での薬物治療において、有効性の確認と有害事象のチェック及び薬物の管理方法を理解できるようにする。

授業概要

1. 臨床で使用する薬剤を適正に管理できる知識を獲得する。
2. 薬物を生体に投与したときの吸収・分布・代謝・排泄及び薬物受容体を介して薬理作用の発現と有害作用の発現を理解し、日常の臨床の場で活かせる能力を身につける。
3. 疾病とそれに対して使用される薬物の作用機序及び有害作用を理解し、臨床での患者管理に活かせる能力を身につける。

授業計画(進め方)

1～2 回目 ①薬理学総論

・医薬品と法令 ・薬の有害作用 ・薬物動態 ・薬理薬効に影響する要因

・薬の投与経路 ・薬物相互作用 ・薬の管理

3～4 回目 ②抹消神経系疾患に作用する薬物

5～7 回目 ③脳、中枢神経系疾患に使用する薬物

8～9 回目 ④循環器系疾患に使用する薬物

10 回目 ⑤抗炎症薬、抗アレルギー薬、免疫治療薬

11 回目 ⑥呼吸器、消化器系疾患に使用する薬物

12 回目 ⑦がん・痛みに使用する薬物

13 回目 ⑧生殖器・泌尿器系、感覚器疾患に使用する薬物

14 回目 ⑨感染症に使用する薬物、消毒薬

15 回目 ⑩その他、まとめ

テキスト

系統看護学講座 専門基礎 薬理学 医学書院

参考書・指定図書

評価の方法

筆記試験

授業科目	区分	専門基礎分野	
微生物学	教育内容	疾病の成り立ちと回復の促進	
	領域	人間の健康	
授業担当者	開講時期	単位	時間数
引地 悠	前期～中期	1 単位	30 時間

授業の目的

一人の人間として、生きる上で役に立つ微生物の知識、感染の成り立ちを学ぶ。
授業の目標質問づくりのグループワークを元に、主体的な勉強をしよう。

授業概要

人間は生きのびるために常に微生物と共存し、また戦い、お互いになくてはならぬ存在として認め合っています。また感染症の成り立ちには、単に微生物側の問題ではなく、その人の免疫力とのせめぎ合いが繰り広げられています。毎回、前回の復習をするので、教科書と前回のノートを持ってきてください。

授業計画(進め方)

1 回目 微生物学概論 新型コロナウィルス
2 回目 細菌Ⅰ　グラム陽性球菌
3 回目 細菌Ⅱ　グラム陰性桿菌
4 回目 細菌Ⅲ　グラム陽性桿菌
5 回目 細菌Ⅳ　その他の細菌
6 回目 ウイルスⅠ　皮膚症状をきたすウイルス
7 回目 ウイルスⅡ　気道、神経、胃腸症状をきたすウイルス
8 回目 ウイルスⅢ　肝炎ウイルス
9 回目 ウイルスⅣ　ＨＩＶ
10 回目 真菌と原虫
11 回目 免疫Ⅰ　自然免疫と獲得免疫・アレルギー
12 回目 免疫Ⅱ　ワクチン
13 回目 免疫Ⅲ　感染症の学び方
14 回目 滅菌と消毒
15 回目 総まとめ

テキスト

系統看護学講座　専門基礎　微生物学　医学書院

参考書・指定図書

講義中に紹介します。

評価の方法筆

記試験、夏休み課題レポート

授業科目	区分	専門分野	
基礎看護学概論	教育内容	基礎看護学	
	領域		
授業担当者	開講時期	単位	時間数
近江　薫	前期	1 単位	30 時間

授業の目的

看護師を目指す者にとって基盤となる「看護とは何か」「看護が果たす役割はなにか」について学び、考えを深める。

授業の目標

1. 看護の概念・機能・役割がわかる。
2. 看護の対象である人間の行動様式や心理を理解し、生活者としての人間理解を深める。
3. 看護者としての倫理を理解する。

授業概要

入学したての学生の看護に対するイメージは漠然としている。そこで、看護が実際にどのような役割、責任を担っているのかを理解し、これから看護学を学ぶものとして心構えを築く授業としたい。また、看護理論と実践の関係について学ぶことで、看護学の奥深さを感じてほしい。進行・内容はテキスト通りではないので、テキストは授業の補助として使用する。

授業計画(進め方)

1～2 回目　第 1 章：看護とは　…看護の本質　基本的役割　看護の継続性
課題レポートの提示「看護の基本となるもの」
3 回目　第 2 章：看護の対象の理解　…人間の理解・ストレスと適応
4 回目　第 2 章：看護の対象の理解　…ライフサイクルと健康
5～7 回目　第 1 章：看護とは　看護実践に生かす看護理論 19 使用
・ナイチンゲール・ヘンダーソン・オレム・トラベルビー　他
課題レポートの提示「看護とは～私の考える看護」
8 回目　第 3 章：国民の健康状態と生活　…健康のとらえ方　国民の健康状態
9～10 回目　第 4 章：看護の提供者　…看護の変遷　看護のあり方　看護職の資格　養成制度
就業状況
11～14 回目　第 5 章：看護における倫理　看護実践における倫理　倫理的課題への対応
事例検討
15 回目　看護とは：課題レポート「看護とは～私の考える看護」の共有

テキスト

系統看護学講座　専門　看護学概論　医学書院
ヴァージニア・ヘンダーソン著　看護の基本となるもの　日本看護協会出版会
城ヶ端初子監修　看護実践に生かす看護理論 19　サイオ出版

参考書・指定図書

ナーシンググラフィカ　基礎看護学①　看護学概論　メディカ出版

評価の方法

筆記試験 70 点と課題レポート 30 点の合計点で評価する

授業科目	区分	専門分野	
看護リフレクションⅠ	教育内容	基礎看護学	
	領域		
授業担当者	開講時期	単位	時間数
大塚　紀子	前期～後期	1 単位	30 時間

授業の目的

看護リフレクションとは何かを理解し、リフレクティブサイクルに沿って、経験から学ぶための振り返り思考のプロセスを学ぶ。

授業の目標

1. 看護リフレクションとは何か理解できる。
2. 演習後にワークシートを使いながらリフレクションできる。

授業概要

看護におけるリフレクションは、日々の看護実践の中で行われる暗黙知や技を可視化・言語化するプロセスである。リフレクションを学ぶことは、看護実践の質を向上させ、看護専門職として成長し続けていくための有用なスキルである。本科目は、このスキルについての理論を学び、技術演習の場面をリフレクションする。年間通して行うことで、リフレクティブな思考を養いたい。

授業計画(進め方)

1・2 回目　看護リフレクションとは（講義）

以下演習またはシミュレーション演習後リフレクションする

3 回目　日常生活援助論Ⅰ：環境整備とリネン交換

4 回目　日常生活援助論Ⅱ：背部清拭・寝衣交換

5・6 回目　共通技術論Ⅱ：安全な移乗・移送と環境整備

7 回目　日常生活援助論Ⅱ：浣腸実施後のおむつ交換および陰部洗浄

8 回目　日常生活援助論Ⅰ：座位姿勢保持ができない患者の食事介助

10 回目　共通技術論Ⅰ：コミュケーション・フィジカルアセスメント

11・12 回目　診療・検査時の援助論：酸素療法および安全な吸引の実際

13 回目　治療・処置時の援助論：筋肉注射・皮下注射・皮内注射の実際

14 回目　治療・処置時の援助論：点滴静脈内注射時の観察

15 回目　臨床看護総論：一次救命処置の実際

テキスト

田村由美／池西悦子 著　看護の教育・実践にいかすリフレクション - 豊かな看護を拓く鍵 -　南江堂

参考書・指定図書

東めぐみ 著　看護リフレクション入門　ライフサポート社

田村由美／池西悦子 著　看護のためのリフレクションスキルトレーニング　看護の科学社

評価の方法

筆記試験（30 点）　ワークシートの提出及びリフレクションアセスメント指標を用いた評価（70 点）

授業科目	区分	専門分野	
共通技術論Ⅰ	教育内容	基礎看護学	
	領域		
授業担当者	開講時期	単位	時間数
小田嶋　陽子	前期	1単位	30時間

授業の目的

対象理解と看護実践の基礎となる共通技術を習得する。

授業の目標

1. 看護技術のもつ特徴と看護実践の構成要素がわかる。
2. コミュニケーションの意義と効果的なコミュニケーションの方法がわかる。
3. フィジカルアセスメントの方法がわかる。
4. バイタルサインの意義･方法がわかり、学生同士での測定ができる。
5. シミュレーション状況下で、対象に応じたフィジカルアセスメント、コミュニケーションができる。

授業概要

「看護技術とは何か」を学び、看護実践と看護技術のつながりについて熟考する。対象を把握するためには、人間関係の成立、情報収集・分析(評価)が必要である。看護における相互作用とコミュニケーションの意義を理解し、効果的なコミュニケーションの技術を学ぶ。また、身体的側面の情報収集・評価の手段であるフィジカルアセスメント、バイタルサイン測定の技術を学ぶ。

授業計画(進め方)

1回目　看護技術とは何か
　看護技術についてアートとサイエンスの側面から考える
2・3回目　コミュニケーション
　コミュニケーションの概念・原理、コミュニケーションの構造とプロセス
　看護場面での効果的なコミュニケーション技術
4・5回目　コミュニケーション【演習】
6回目　フィジカルアセスメント、フィジカルイグザミネーション
7～10回目　バイタルサイン
　バイタルサインとは、バイタルサインの観察とアセスメント、測定方法
11回目　体温調節の技術
12・13回目　バイタルサイン測定【技術試験】、罨法【演習】
14・15回目　コミュニケーション、フィジカルアセスメント【シミュレーション演習】

テキスト

系統看護学講座　専門　基礎看護技術Ⅰ　医学書院
ブックライブラリー　根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術　医学書院
看護がみえる vol.3　フィジカルアセスメント　第1版　メディックメディア

参考書・指定図書

ブックライブラリー　根拠と急変対応からみたフィジカルアセスメント　医学書院

評価の方法

筆記試験・技術試験

授業科目	区分	専門分野	
共通技術論Ⅱ	教育内容	基礎看護学	
	領域		
授業担当者	開講時期	単位	時間数
齊藤　豊子　　齊藤　由美子	前期	1単位	30時間

授業の目的

対象理解と看護実践の基礎となる技術を習得する

授業の目標

1. 医療安全の意義と予防策がわかる。
2. 看護記録・報告の意義・方法がわかる。
3. ボディメカニクスに基づいた移動行動の支援や体位変換の技術を習得する。
4. 感染予防の意義を理解し、感染予防のための技術を習得する。
5. シミュレーション演習を通し、対象の状況に合わせた移動支援と安全に配慮した環境整備ができる。

授業概要

安全を脅かす要因を排除し患者の安全を守ること、感染予防や患者の活動支援は病気や障害の有無に関わらず、あらゆる対象に日常的に行われている援助である。それらの基本的な看護援助の知識と技術を習得しつつ、患者の立場に立って援助することの大切さを考えながら学んで欲しい。

授業計画(進め方)

1回目　安全確保の技術①
2回目　安全確保の技術②
3回目　看護記録と報告
4回目　基本的活動の援助①
　～活動の意義とアセスメント～
5回目　基本的活動の援助②
　～ボディメカニクスと移動～
6回目　基本的活動の援助③
　～体位変換　ポジショニング　関節可動域訓練～
7回目　感染予防の意義、スタンダードプリコーション、滅菌と消毒の方法
8回目　手洗いの方法、無菌操作、感染性廃棄物の取り扱い
9・10回目　感染予防の実際　【演習】
　} 担　当　齊藤(由)
11回目　体位変換の実技演習(水平移動・側臥位・座位・ポジショニング)　【演習】
12・13回目　移乗・移動の実際　【演習】
　～車椅子移送・ストレッチャーへの移乗・移送、歩行介助、自動・他動運動～
14・15回目　安全な移乗・移送と環境整備　【シミュレーション演習】
　(患者の状況に合った移乗・移送方法と安全に配慮した環境整備を考える)

テキスト

系統看護学講座　専門　基礎看護技術Ⅰ　医学書院
系統看護学講座　専門　基礎看護技術Ⅱ　医学書院
ブックライブラリー　根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術　医学書院

参考書・指定図書

看護がみえる　vol.1　基礎看護技術　第1版　メディックメディア

評価の方法

筆記試験、授業態度およびレポートの取り組み状況から総合的に評価する
(100点満点中、安全・活動＝75点、感染予防＝25点)

授業科目	区分	専門分野	
共通技術論Ⅲ	教育内容	基礎看護学	
	領域		
授業担当者	開講時期	単位	時間数
中川　郁子	前～後期	1 単位	30 時間

授業の目的

対象理解と看護実践の基礎となる技術を習得する。

授業の目標

1. 看護過程の展開のために必要な情報の意味（情報の分析・解釈）を理解する。
2. 看護過程の意義とアセスメント・看護診断・計画立案・評価の仕方を理解する。
3. 対象に合わせた学習支援方法を理解する。

授業概要

看護過程は、目標に向かって効果的かつ効率よくケアを行うための組織的・系統的な方法であり、問題解決的なプロセスである。ケアの質を高めるためにも重要な技術である。講義で基本的な考え方を理解した後、ペーパーシミュレーションで演習に取り組む。グループワークを通し理解を深め、看護過程用紙に整理していく。また、看護実践能力の一部として、人々の健康に関わる学習を支援する看護技術について学ぶ。対象者の思いを想像しながら、学習支援をするための計画立案、印刷教材の作成をし、実際に指導する演習を通し支援方法の理解を深めていく。

授業計画(進め方)

看護過程	1 回目	講義：看護過程の意義、看護過程の構成要素
	2 回目	講義：アセスメント（情報収集、整理）看護診断
	3 回目	講義：計画立案・実施・評価の仕方
	4・5 回目	講義：情報の分析・解釈
	6 回目	演習：看護過程演習　ペーパーシミュレーション（グループワーク）
	7 回目	講義：病態理解（グループワーク）
	8～11 回	演習：看護過程演習　ペーパーシミュレーション（グループワーク）
学習支援	12 回目	講義：学習支援活動の基礎技術　学習支援
	13 回目	演習：事例を読み、学習支援するための指導計画を立てる
	14・15 回目	演習：指導計画と印刷教材の発表会　　教育・指導の実際

テキスト

系統看護学講座　専門　基礎看護技術Ⅰ　医学書院
ブックライブラリー　病期・病態・重症度からみた疾患別看護過程＋病態関連図　医学書院
ブックライブラリー　緊急度・重症度からみた症状別看護過程＋病態関連図　医学書院

参考書・指定図書

評価の方法

筆記試験、授業態度、提出物を総合して評価する。

授業科目	区分	専門分野	
日常生活援助論Ⅰ	教育内容	基礎看護学	
	領域		
授業担当者	開講時期	単位	時間数
工藤　洋平	前期～中期	1単位	30時間

授業の目的

対象の理解と看護実践の基礎となる技術を習得する。

授業の目標

1. 環境の意義を理解し、快適な環境をつくる技術を習得する。
2. 休息・睡眠、安楽の意義を理解し、休息・睡眠を促す技術、安楽かつ快適さを確保する技術を習得する。
3. 包帯法の技術を習得する。
4. 食事・栄養の意義を理解し、食事・栄養に関する援助技術を習得する

授業概要

日常生活における環境、休息・睡眠、安楽の意義を理解したうえで、快適な療養生活を送るための援助の実際を学ぶ。また、食事は生命維持のためには欠かすことのできない生理的・基本的欲求である。食事・栄養の意義を理解し、健康障害によりこの基本的欲求が満たせなくなった場合の援助の実際を学ぶ。

授業計画(進め方)

1回目　ベッド周囲の環境整備・病床を整える技術
2回目　病室の環境のアセスメントと調整
3・4回目　環境整備とリネン交換　【シミュレーション演習】
5回目　休息・休息の援助
6回目　苦痛の緩和安楽確保の技術 ／ 包帯法
7・8回目　足浴・包帯法　【演習】
9回目　食事援助の基礎知識
10回目　食事摂取の介助
11・12回目　食事介助　【シミュレーション演習】
13回目　非経口的栄養摂取の介助
14・15回目　経鼻カテーテル挿入・流動食注入の実際　【モデル人形での演習】

テキスト

系統看護学講座　専門　基礎看護技術Ⅱ　医学書院
ブックライブラリー　根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術　医学書院

参考書・指定図書

看護がみえる　vol.1　基礎看護技術　第1版　メディックメディア
看護がみえる　Vol.2　臨床看護技術　第1版　メディックメディア

評価の方法

授業態度・課題・演習・シミュレーションでの取り組み状況・筆記試験から総合的に評価する。

授業科目	区分	専門分野	
日常生活援助論Ⅱ	教育内容	基礎看護学	
	領域		
授業担当者	開講時期	単位	時間数
渡部　絵美	前期～中期	1 単位	30 時間

授業の目的

対象の理解と看護実践の基礎となる技術を習得する。

授業の目標

1. 衣生活・清潔の意義を理解し、清潔保持のための基礎的技術を習得する。
2. 排泄の意義を理解し、適切な援助の方法を習得する。

授業概要

疾病の予防や回復・健康増進のためには、快適な環境が必要である。快適な環境は、患者の病状の安定、治療効果の発揮、闘病意欲の向上の面から極めて重要である。人間にとっての清潔の意義と衣服の意義を学ぶ。また、疾病や障害、加齢、治療上の制約などにより、自身で身体の清潔を保つことが困難な状況にある方たちへの援助方法を学ぶ。

健康障害により、基本的欲求が満たせなくなることも多い。排泄の介助は、対象にとって羞恥心を伴うものであり、自立と個別性を重視する技術である。演習を通し、対象の心理を考え患者の立場に立った細かな配慮ができるようになってほしい。

授業計画(進め方)

1・2 回目　身体の清潔を援助する技術
3・4 回目　清拭・更衣（シミュレーション演習）
5・6 回目　洗髪・口腔ケアの実際（演習）
7 回目　排泄を促す技術
8 回目　浣腸の意義
9・10 回目　浣腸・摘便の実際（演習）
11・12 回目　陰部洗浄（シミュレーション演習）
13 回目　導尿の意義・管理
14・15 回目　持続的導尿の実際（演習）

テキスト

系統看護学講座 専門 基礎看護技術Ⅱ　医学書院
ブックライブラリー　根拠と事故防止からみた　基礎・臨床看護技術　医学書院
ブックライブラリー　導尿・浣腸・敵便ができる　医学書院

参考書・指定図書

看護がみえる　vol.1　基礎看護技術　第1版　メディックメディア
看護がみえる　Vol.2　臨床看護技術　第1版　メディックメディア

評価の方法

筆記試験、演習態度、提出物、技術習得の状況を総合して評価する。

授業科目	区分	専門分野	
診療・検査時の援助論	教育内容	基礎看護学	
	領域		
授業担当者	開講時期	単位	時間数
清水 有香　　西方 展子	前期～中期	1 単位	30 時間

授業の目的

対象の理解と看護実践の基盤となる技術を習得する。

授業の目標

1. 創傷治癒に必要な基礎知識を理解する。
2. 呼吸のメカニズムを理解し、呼吸困難を軽減する援助方法を習得する。
3. 診療・検査を安全かつ正確に行う技術を習得する。
4. 身体各部の計測の意義を理解し、計測技術を習得する。

授業概要

この授業では、診療・検査に伴う基本的な看護技術について学ぶ。ここで学ぶ看護技術は、少なからず患者が苦痛を感じるものも含まれている。患者の心理に気付き、診療・検査時の看護師の役割について考えてほしい。採血法では準備や方法について学ぶ。

授業計画(進め方)

1 回目　創傷管理 ① 創傷治癒過程 創の消毒と創洗浄 テープの貼り方剥がし方　担当
2 回目　創傷管理 ② ドレッシング剤 褥創とは 褥創予防　西方
3 回目　診療に伴う技術 フィジカル・イグザミネーション、呼吸の生理的メカニズム
4 回目　呼吸を楽にする技術 排痰法・吸入
5 回目　吸引・酸素療法
6・7 回目　吸入・酸素療法の手技 演習
8・9 回目　酸素療法・吸引の実際（シミュレーション演習）
10 回目　検査の意義・援助　身体計測
11 回目　検査の援助・穿刺法・採血
12・13 回目　身体計測・尿検体の取り扱い・簡易血糖測定　演習
14・15 回目　血液検査と採血

テキスト

系統別看護学講座　専門　基礎看護学技術Ⅱ　医学書院
ブックライブラリー　根拠と事故防止からみた　基礎・臨床看護技術　医学書院
看護がみえる vol.3 フィジカルアセスメント 第1版 メディックメディア

参考書・指定図書

看護がみえる vol.1 基礎看護技術 第1版 メディックメディア
看護がみえる vol.2 臨床看護技術 第1版 メディックメディア

評価の方法

創傷管理（西方）15 点配点の筆記試験
他（高橋）85 点配点の筆記試験および演習等の記録物

授業科目	区分	専門分野	
治療・処置時の援助論	教育内容	基礎看護学	
	領域		
授業担当者	開講時期	単位	時間数
秋山　祥子	前期～中期	1 単位	30 時間

授業の目的

治療として行われる頻度の高い薬物療法時の看護師の役割や基本的な看護技術を学ぶ。

授業の目標

1. 薬物療法を実施する際の看護師の役割と看護の原則を理解する。
2. 安全で効果的な薬物療法を行うための基本的な知識と技術を習得する。
3. 薬物療法が対象に及ぼす身体・心理的影響を捉え、適切な援助方法を考えることができる。

授業概要

この科目では、看護師の役割の一つである「診療の補助」の中の薬物療法時の看護の基礎となる知識や根拠を学習する。また机上の学習だけではなく、数多くの演習を通し基本的な技術を身につける。演習はモデル人形を使用するが、誤ると医療事故につながる技術であることを認識し、正しい知識と技術を身につけてほしい。さらに、演習では薬物療法を受ける対象の心理を捉えた対応や説明を考える場としたい。

授業計画(進め方)

1 回目　与薬の基礎知識①　薬物療法における看護師の役割
2 回目　与薬の基礎知識②　各与薬の援助方法　経口薬の投与の実際　ミニ演習
3 回目　与薬の基礎知識③　経皮・外用薬・坐薬の投与　ミニ演習
4 回目　与薬の基礎知識④　誤薬・穿刺事故予
薬液、注射器の取り扱いの理解と実際　ミニ演習
5 回目　与薬の基礎知識⑤　筋肉内注射・皮下注射・皮内注射
6・7 回目　筋肉内注射・皮下注射の実際　演習
8 回目　与薬の基礎知識⑥　静脈内注射・点滴静脈内注射
9 回目　与薬の基礎知識⑦　輸液の管理、輸血の実施方法、輸液ポンプの取り扱い
10 回目　輸液の準備、輸液セットの取り扱い、輸液ポンプの取り扱いの実際　演習
11～13 回目　点滴静脈内注射の実際　演習
14・15 回目　点滴静脈内注射時の観察　シミュレーション演習

テキスト

系統看護学講座　専門　基礎看護技術Ⅱ　医学書院
ブックライブラリー　根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術　医学書院

参考書・指定図書

看護がみえる vol.1　基礎看護技術　第 1 版　メディックメディア
看護がみえる vol.2　臨床看護技術　第 1 版　メディックメディア

評価の方法

各種レポート(配点 20 点)、筆記試験（80 点）

授業科目	区分	専門分野	
臨床看護総論（1） 救急他	教育内容	基礎看護学	
	領域		
授業担当者	開講時期	単位	時間数
渡部 暢子	中期	1単位	30時間 (救急 他18時間)

授業の目的

1. 看護の活動の場および機会について理解する。
2. 健康上のニーズや健康上の経過(健康レベル)に応じた看護について理解する。
3. 救急蘇生法について理解する。

授業の目標

1. 看護活動の場、チーム医療の機会を学ぶことで、臨床看護のイメージをつかむ。
2. 健康上のニーズに応じた看護の役割がわかる。
3. 各健康レベルの特徴と看護の役割がわかる。
4. 治療の種類と方法、それぞれの治療における看護の要点がわかる。
5. 一次救命処置の方法がわかり、シミュレータに実施できる。

授業概要

看護活動の場および機会を学ぶことで、臨床看護のイメージをつかむところから始める。看護の基本として、多様な健康上のニーズを持つあらゆる健康レベルにある人々に、基本的な看護の知識や技術を統合し応用するプロセスを学ぶ。健康上のニーズについて、自分や家族にあてはめて理解を深める。また、各健康レベルの特徴と急性期・回復期・慢性期にある対象の看護について、事例を通して学ぶ。

一次救命処置の技術習得を目指し、演習･技術試験を行う。

授業計画（進め方）

1回目　看護活動の領域と場
　　健康上のニーズをもつ対象の看護
2～4回目　健康状態の経過(健康レベル)と看護
5回目　治療の種類・方法と看護
6回目　救急蘇生法　　講義
7・8回目　一次救命処置　　演習、技術試験
9回目　一次救命処置の実際 シミュレーション演習

テキスト

系統別看護講座　専門　臨床看護総論　医学書院
系統別看護講座　専門　基礎看護技術Ⅱ　医学書院
ブックライブラリー　根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術　医学書院

参考書・指定図書

評価の方法

臨床看護総論100点満点中の55点。筆記試験(45点)、一次救命処置技術試験(10点)

授業科目	区分	専門分野	
臨床看護総論（2） 終末期看護	教育内容	基礎看護学	
	領域		
授業担当者	開講時期	単位	時間数
北林　奈美子	中期～後期	1 単位	30 時間 （終末期看護 8 時間）

授業の目的

1. 健康障害の進行や健康レベルに対応した看護の役割および実際について理解する。
2. 様々な治療・処置に伴う患者の特徴・看護・救急法の実際について理解する。

授業の目標

終末期にある患者の特徴と看護の実際および役割がわかる。

授業概要

看護基礎教育の段階から死生観について向き合う時間を持つことが重要であると言われている。医療者は終末期にある患者と家族が抱える様々な苦悩に寄り添い、和らぐような支援が求められている。終末期患者と家族の苦悩や尊厳ある死を迎えることの大切さを理解し、看護師に必要な知識や援助技術を理解できるように授業を進めていく。実際の事例で看護展開した内容を紹介しながら、看護学生の死生観が培われるように進めていく。

授業計画(進め方)

1 回目　当院の緩和ケアチーム、がん相談支援センター、緩和ケア認定看護師の役割について紹介
緩和ケアとは（緩和ケアの歴史と現状）
終末期患者とその家族の特徴（全人的苦痛について）

2 回目　身体症状のアセスメントと看護（がん性疼痛、呼吸困難、口腔内トラブル）

3 回目　援助的コミュニケーション（グループワーク形式予定）

4 回目　死の受容過程の理解と援助、家族ケア
臨死期のケア（エンゼルケアの目的と意義、援助技術について、講義＋ＤＶＤ試聴）

テキスト

系統看護学講座　別巻　緩和ケア　医学書院

参考書・指定図書

評価の方法

臨床看護総論 100 点満点中の 30 点
筆記試験及び演習での取り組み状況を総合的に評価する。

授業科目 臨床看護総論（3） 化学療法看護	区分	専門分野	
	教育内容	基礎看護学	
	領域		
授業担当者	開講時期	単位	時間数
嵯峨　千春	後期	1単位	30時間 （化学療法4時間）

授業の目的

1. 化学療法の特徴・目的を学ぶことができる。
2. 化学療法を受ける患者の苦痛を理解し、看護の役割について学ぶことができる。

授業の目標

1. 化学療法の目的・特徴を理解し、副作用の発生機序・時期とその看護がわかる。
2. 化学療法を受ける患者の身体・心理・社会的苦痛を理解し看護の役割がわかる。
3. 化学療法を受ける患者のセルフケアの必要性を理解することができる。

授業概要

化学療法の特徴や目的を最新のトピックスを含め、学んでほしい。また、イメージしやすいよう事例を通して、化学療法を受ける患者の身体・心理・社会的苦痛への理解を深めていき、看護を学んでほしい。他、慢性期の患者のニーズから、化学療法におけるセルフケア支援の重要性を学んでほしい。

授業計画（進め方）

1回目　化学療法の目的・特徴
　　化学療法に伴う苦痛への対応

2回目　化学療法に伴う苦痛への対応
　　まとめ

テキスト

系統看護学講座　専門　臨床看護総論　医学書院

参考書・指定図書

評価の方法

臨床看護総論100点満点中の15点
授業態度と筆記試験により総合的に評価する。

授業科目	区分	専門分野	
臨床判断	教育内容	基礎看護学	
	領域		
授業担当者	開講時期	単位	時間数
工藤 洋平	後期	1単位	15時間

授業の目的

看護師のように考えることをめざし、看護師が臨床で「気づき」「解釈」し、実践につなげていく思考過程を学ぶ。

授業の目標

1. 必要な情報を収集・分析し、看護計画が立案できる。
2. 既習知識を看護の場面で活用できる。
3. 状況を知覚的に把握できる。
4. 情報の意味づけを行い、介入方法を選択できる。
5. 対象の状況に合わせた看護を実践し、介入後の成果を認識できる。

授業概要

電子カルテからの情報収集のしかたを模擬演習し、看護過程用紙に情報を整理しながら、ペーパーシミュレーションで看護計画を立案する。看護過程は、情報収集を網羅的・系統的に進め看護診断するものであり、臨床推論の思考形式でいうと系統的アセスメントの方法を学ぶことができる。グループワークを通し理解を深める。

また、実習での受け持ち患者を想定し、シミュレーション演習を行うことにより、臨床判断の「気づき」「解釈」「反応」「省察」のプロセスを学ぶ。これは、患者の今に対応したアセスメントになる。

状況に応じて、看護師であれば何に気づき、どのように判断し行動するのか、看護師のように考え実践できるようになるための思考過程を学ぶ。

授業計画(進め方)

1回目 臨床判断とは（講義)、事例紹介、電子カルテからの情報収集
2回目 臨床判断の「気づき」トレーニング（グループワーク）
3回目 看護過程演習：情報整理、病態理解、関連図（グループワーク）
4回目 看護過程演習：情報の解釈、アセスメント（グループワーク）
5回目 看護過程演習：看護診断、看護目標、具体的解決策（グループワーク）
6・7回目 臨床判断シミュレーション演習
※待機グループは、看護過程演習：看護計画の仕上げ（グループワーク）
8回目 看護過程演習 交流会

テキスト

ブックライブラリー　根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術　医学書院
ブックライブラリー　根拠と急変対応からみたフィジカルアセスメント　医学書院
ブックライブラリー　フィジカルアセスメントの根拠がわかる！機能障害からみたからだのメカニズム　医学書院
ブックライブラリー　病期・病態・重症度からみた疾患別看護過程　医学書院
ブックライブラリー　緊急度・重症度からみた症状別看護過程　医学書院

参考書・指定図書

評価の方法

気づきトレーニング10点、臨床判断シミュレーション演習20点、看護過程演習70点

授業科目	区分	専門分野	
地域の理解	教育内容	地域・在宅看護論	
	領域		
授業担当者 森合 真由美　清水 有香	開講時期	単位	時間数
	前期～中期	1 単位	30 時間

授業の目的

人々の生活の場としての「地域」を理解するとともに、地域で生活を営む人々の健康を支援するための基礎的な考え方や方法を理解できる。

授業の目標

1. 暮らしや地域について学び、人々の健康とのつながりを理解することができる。
2. 地域看護の視点から、自分が住む地域を知り、地域の特徴や多様性に気づくことができる。
3. 社会環境の変遷に伴う人々の暮らしや健康状態の変化を踏まえ、地域・在宅看護の役割や意義を理解することができる。
4. 私達の地域とそこに暮らす人々を理解し、地域の健康課題をとらえることができる。

授業概要

地域・在宅看護の主要概要についてテキストや資料を用いるとともに、活動事例やグループワークを通して知識を深める。

授業計画(進め方)

1 回目 地域とは何か～学生自身が生まれ育ったふるさとを描く
2 回目 地域の特性及びその多様性の理解
3 回目 私たちの住む秋田市の特徴
4 回目 秋田市の健康状況を学生のレポートから深堀
5 回目 人々の暮らしと健康との関係
6 回目 地域・在宅看護の役割
7 回目 暮らしの基盤としての「地域」をシステム理論で理解
8 回目 これからの地域・在宅看護に期待されること

森合

9・10 回目 私達の地域と人々の理解：グループワーク（訪問施設の決定と交渉）
～ フィールドワーク（施設訪問・インタビュー）～
11・12 回目 私達の地域と人々の理解：グループワーク（フィールドワークのまとめ）
13・14 回目 私達の地域の特徴と人々のニーズを共有：フィールドワーク発表会
15 回目 地域看護活動の必要性に気づく：振り返り授業

近江

テキスト

系統看護学講座　専門　地域・在宅看護の基盤　医学書院

参考書・指定図書

評価の方法

森合担当 50%（筆記試験 40% 課題・グループワーク 10%）
近江担当 50%（ルーブリック評価：グループワーク・フィールドワーク）

授業科目	区分	専門分野	
在宅ケアシステム	教育内容	地域・在宅看護論	
	領域		
授業担当者	開講時期	単位	時間数
佐々木 宏幸	中期～後期	1 単位	30 時間

授業の目的

地域で暮らすすべての人々とその家族に看護を提供する際に必要な支援の基本や、その根拠となる制度と活用について理解する。

授業の目標

1. 「地域包括ケアシステム」および「地域共生社会」について学び、具体的なイメージをもつことができる。
2. 地域・在宅看護の実践にあたり、知っておくべき法制度を広く学ぶ。
3. 制度や法律は、社会的背景の変化に伴い改正されていることを理解する。
4. 介護保険制度の概要と目的を理解する。
5. 介護保険制度におけるケアマネジメントを理解する。
6. ケアマネジメントの過程を考えることができる。

授業概要

地域で暮らすすべての人々とその家族を看護の対象とした療養の場の拡大を踏まえ、地域における多様な場での看護実践を目指す基盤をつくるために、地域包括ケアシステムについての概要と地域療養を支える制度、在宅生活におけるケアマネジメントについて学ぶ。

授業計画(進め方)

1～4 回目　地域包括ケアシステムと地域共生社会
地域包括ケアシステムの発展経緯・定義・多様な支援を支える多職種連携・構成要素・4 つの「助」・社会資源

5～7 回目　地域療養を支える制度
医療保険制度の概要と給付の仕組み・後期高齢者医療制度の概要・生活保護制度の概要・障がい者に関連する法律・難病法・子どもの在宅療養を支援する制度・権利擁護（成年後見制度、虐待防止、個人情報保護、守秘義務）

8～10 回目　介護保険制度について
概要と目的・地域包括支援センターの役割・ケアマネジメント

11～15 回目　演習
事例を活用し ICF 思考による情報整理・分析とケアプラン作成　・振り返り

テキスト

系統看護学講座　専門　地域・在宅看護の基盤　医学書院
系統看護学講座　専門　地域・在宅看護の実践　医学書院
公衆衛生がみえる 2024-2025　第 6 版　メディックメディア

参考書・指定図書

評価の方法

筆記試験

授業科目	区分	専門分野	
地域・在宅看護の対象理解	教育内容	地域・在宅看護論	
	領域		
授業担当者	開講時期	単位	時間数
鈴木　淳子	前期～中期	1 単位	15 時間

授業の目的

地域で生活する人々を理解し、対象の生活特性に合わせた看護を考える思考過程を形成するために、「人の暮らし」に焦点を当てた情報を収集する力を養う。

授業の目標

1. コミュニケーションや生活環境の観察を通して、対象を知る、情報収集することができる。
2. 対象の生活史を理解し、価値観や人生観を意識した生活（暮らし）をアセスメントする力がつく。

授業概要

事例のライフストーリーを活用したロールプレイ・シミュレーションを行い、対象の生きてきた背景や価値観、人生観を含めた「その人」を情報収集し、それらが「その人の暮らし」に影響し、生活が営まれていることを理解できるように、グループワークを行う。

授業計画(進め方)

1 回目：暮らすということ（講義）
2 回目：私のライフヒストリーとライフストーリー（グループ交流）
3 回目：A さんのライフストーリー
　　情報収集：A さんの生活環境を知る（ロールプレイ・シミュレーション）
4・5 回目：A さんのライフストーリー
　　情報収集：A さんの語り、インタビュー（ロールプレイ・シミュレーション）
6 回目：A さんのライフストーリー
　　A さんの暮らしを考える（グループワーク）
7・8 回目：A さんのライフストーリー
　　グループ発表と振り返り

テキスト

系統看護学講座　専門　地域・在宅看護の基盤　医学書院
配布資料

参考書・指定図書

評価の方法

課題レポート　ロールプレイ、グループワークへの参加態度を含め総合的に評価する

授業科目	区分	専門分野	
成人看護学概論	教育内容	成人看護学	
	領域		
授業担当者	開講時期	単位	時間数
菅原　晴美	前期～後期	1単位	30時間

授業の目的

成人期にある人々の生活と健康について理解を深め、健康を保持・増進するための看護アプローチの基本を学ぶ。

授業の目標

1. 成人期の特徴と生活を理解する。
2. 成人の健康を保持・増進するための看護アプローチを理解する。
3. 成人期にある大切な人の健康を守るプランを提案する。

授業概要

成人期は人生の中でもっとも長く、社会の中心的な役割を担う時期でもあり、環境や習慣、生活ストレスなど健康生活を脅かす問題を抱えやすい。それらの背景を理解した上で、成人期の健康を保持・増進できるよう援助することが重要である。

「身近な“成人期”にある大切な人の健康を守ろう！プロジェクト」に取り組むことで、観察できる力を養うとともに、身近にいる成人期にある大切な人の健康、生活、環境を関連付けながら、看護の視点で大切な人の健康を守るための提案をする。

授業計画（進め方）

1回目　大人であるということ
2回目　成長発達の特徴
3回目　身体機能の特徴と看護
4回目　生活と健康　健康観の多様性　ヘルスプロモーション
5回目　健康をおびやかす要因と看護
6・7回目　成人への看護アプローチの基本
　　学習に基づく行動形成・症状マネジメント・倫理的判断・意思決定支援
8・9回目　慢性病（病みの軌跡）とセルフマネジメント
10～15回目　プロジェクト学習～別紙シラバス参照
　　身近な“成人期”にある大切な人の健康を守ろう！プロジェクト」

テキスト

系統看護学講座　専門　成人看護学総論　医学書院

参考書・指定図書

必要に応じて講義のときに紹介

評価の方法

筆記試験（70点）　プロジェクト学習（30点）

プロジェクト学習・シラバス

科目名(副題)	成人看護学概論 「身近な“成人期”にある　大切な人の健康を守ろう！」プロジェクト
講師／ファシリテータ・協力者ほか	（スーパーアドバイザー：鈴木敏恵先生） 菅原晴美・秋山祥子・渡部暢子・田安　和・近江　薫・堀井喜世子
単位・時間・受講対象（人数）	成人看護学　成人看護学概論　1単位（6回・12時間／15回・30時間） 対象　中通高等看護学院　1年生　50名
期間	2024年7月～2025年1月
概要 （社会的意義）	＜プロジェクト学習の展開＞ このプロジェクトは、看護を学び始めてまだ4か月の学生たちが、人々のセルフマネジメント力を育て、患者の生活改善に最も力を発揮する看護師の役割を学ぶ第一歩となる。看護の目で人の健康を観察できる力、教科書とリアルを常に一致させる知的習慣を身につけることをねらいとする。 当たり前に近くにいる人を、大切な人として認識し、健康の視点で対象を観察し、いつまでも健康で長生きしてほしいという願いをかなえるための提案をする。対象は、身近にいる成人期（壮年期30～60歳、向老期60～64歳）にある人とし、インタビューや観察を行い、情報収集により現状把握する。「課題」を見つけ、今の生活や行動、ふるまいをどう変化させたらいいのか、具体的でその人にとってベストな提案を考える。 つぎのようなビジョンとゴールの元、プロジェクト学習を実施する。 ＜「身近な“成人期”にある大切な人の健康を守ろう！」プロジェクト＞ ＊ビジョン（願い）：身近な“成人期”にある大切な人が、健康で長生きしてほしい ＊ゴール(具体的な目標)：「身近な“成人期”にある大切な人の健康を守る」提案集をつくる！ ＜対象は成人期＞ なぜ成人期を対象とするか、それは次のような背景からである。 健康問題は時代により大きく変わる。現在の成人期の健康問題の中心は、飽食、運動不足、喫煙などの好ましくない生活行動に由来する慢性疾患となった。しかし、多くの人々は、生活を自分でかえられない。人々が望ましい生活行動をとれるよう支援することが必要であり、その問題解決には、健康問題と生活援助の双方に唯一専門性を持つ看護学の貢献が不可欠である。看護師は、患者を気遣い寄り添い、感情に巻き込まれながら患者に接近し、患者と相互作用を起こすことによって、患者の内なる力を引き出すことができる。人々のセルフマネジメント力を育て、患者の生活改善に最も力を発揮するのは看護である（医学書院「看護研究」より抜粋）。 ＜社会的意義＞ ＊成人期にある大切な人の生活改善で生活習慣病予防に貢献できる ＊医療費の削減に貢献できる
キーワード	成人期、健康、生活、環境　仕事　客観的情報　セルフマネジメント　セルフケア 食事習慣　栄養バランス　活動　休息　生活習慣　ヘルスプロモーション

©2016 シンクタンク未来教育ビジョン 鈴木敏恵 All Rights Reserved.

目的・身につく力	専門知 □生活における健康を阻害する要因を知る □看護師として人間を看て情報を得る □課題発見力/主観・客観的情報の獲得 □多面的に物事を見る力 □成人期の健康課題を解決する力	普遍知 □自分の意志で目標へ向かう力 □根拠ある情報を獲得する力 □応用力：知識と現実を結びつける力
学習の成果物	「身近な“成人期”にある　大切な人の健康を守る」提案集	
評価方法	ポートフォリオ評価（成果や成長のプロセス/自己評価）30 点 評価材料：凝縮ポートフォリオ、成長報告	
実施月日 7 月～12 月	7／　9／　9／8　9/ ～11 月　11／下旬　1／中旬　1 月下旬 準 備　ﾋﾞｼﾞｮﾝ･ｺﾞｰﾙ　計 画　情報･解決策　制 作　プレゼン　再構築　成長確認	
講義室・場所	教室または図書室	
展開内容	講義・AL	
	導入　7 月　＜準備のフェーズ＞ プロジェクト内容の説明 「大切な人の健康を守ろう！プロジェクト」として、どんなことをやるのかを理解する。そのためにプロジェクト学習の基本フェーズを見て、これを「大切な人の健康・生活」という題材で行う流れをイメージし、そこで身につく力を意識することも合わせ、学習者一人ひとりがどんなふうに進めたらいいのかを理解する。 □プロジェクト全体の題材（テーマ）とゴールを知る □プロジェクト展開の流れをつかむ □「S 情報・0 情報」講義 時間外（夏季休暇中）　対象者の決定 □観察を通しもっとも生活改善を必要とする人を対象者に選ぶ	
	1 回目　9 月　＜ビジョン・ゴールのフェーズ＞ □「課題解決の思考プロセス」（資料 S）参考に課題の明確化 □マイゴールの設定 ＜計画のフェーズ＞ □工程表の説明 □ゴール到達に必要な情報や作業、時間配分を計画する □目標達成のためにすべきことを戦略的に考え計画書を作成する “すべきこと”にモレがないか仲間同士で見てアイディアや情報を提供し合う 時間外　9 月～10 月　＜情報・解決策のフェーズ＞ □情報・解決策について説明 □ゴールに向かうために有効な根拠に基づいた情報を得、具体的な工夫、解決策を生み出し、得た情報を Google クラスルーム内ポートフォリオにアップする。 2 回目　10 月 □考えるために情報は足りているか？　グループ交流 時間外　コーチング　～知識を現実につなげる力を引き出す	

©2016 シンクタンク未来教育ビジョン 鈴木敏恵 All Rights Reserved.

	3回目　11月～1月　＜制作のフェーズ＞ □制作およびプレゼンテーションについて説明する □凝縮ポートフォリオ1枚に図やグラフ、簡潔な文章を組み合わせ、プレゼンテーション用に表現する。 時間外　コーチング　～プレゼン準備
	4・5回目　1月中旬　＜プレゼンテーションのフェーズ＞ プレゼンテーションする □　他者の発表を聞いて、良いところ、こうすればもっと良くなるという視点でメッセージをGoogleクラスルーム内に書く。
	6回目　1月下旬　＜成長確認＞ □凝縮ポートフォリオ作成、提出 □成長確認　…成長報告書、成長エントリー、レポートを書き提出
テキスト・参考図書	医学書院「解剖生理学」「成人看護学　呼吸器、循環器、消化器、脳・神経、女性生殖器、運動器、内分泌・代謝、腎・泌尿器、血液・造血器、アレルギー・膠原病・感染症、皮膚、眼、耳鼻咽喉、歯・口腔」「病態生理学」「基礎看護学概論」「成人看護学総論」「臨床薬理学」「臨床微生物学・医動物」「生化学」「栄養学」「栄養食事療法」「臨床検査」「病理学」「病態生理学」「公衆衛生」「成人看護学総論」「基礎看護技術Ⅰ」「地域・在宅看護の基盤」「人間関係論」「心理学」「教育学」「文化人類学」 メディックメディカ　「病気が見えるvol.1 消化器第5版」 医学書院「アクティブラーニングをこえた看護教育を実現する　与えられた学びから意志ある学びへ」
履修要件	プロジェクト学習参加
他講義との関連	生活と健康　基礎看護学概論
受講生へのメッセージ	看護の学習を始めて4か月。生活改善プロジェクトでは、自分の健康は、生活を整えることが大事であることに気づいたはず。成人期にある人は、どのような生活をし、どのような環境の中で生きているのか、また、どのような制度で健康が守られているのか、社会や環境を俯瞰したうえで、身近にいる大切な人の生活を看護の眼で見つめて、どうすれば健康で長生きできるかを考えて欲しい。
プロジェクト学習 eラーニング	検索　未来教育オンライン講座 http://www.mm-miraikyouiku-onlinecourse.com/

©2016 シンクタンク未来教育ビジョン 鈴木敏恵 All Rights Reserved.

授業科目	区分	専門分野	
周手術期援助論	教育内容	成人看護学	
	領域		
授業担当者	開講時期	単位	時間数
佐藤　尚樹	中期	1 単位	15 時間

授業の目的

周手術期における基本的な看護についての理解を深め、周手術期の過程に応じた看護実践に必要な能力を養う。

授業の目標

1. 周手術期にある患者の特徴が理解できる。
2. 周手術期にある患者の基本的な看護が理解できる。

授業概要

本科目では周手術期を各期に分け、その時期の基本的な看護を学んでいく。

手術前の看護では、手術に向けての一般的準備や看護の流れ、心の準備を手助けする重要性を理解してほしい。

術中の看護では、他職種との共同作業である手術室での安全管理や看護師の役割について学ぶ。手術体位や麻酔によって引き起こされる二次的合併症の予防や、手術が安全かつ円滑に進むよう連絡・調整の役割を担っていることを理解してほしい。

術後は麻酔および手術侵襲によって、生体に様々な変化が生じる。術後の看護では、患者の状態を十分に把握し、おこりうる状態の予測に基づいて緻密な観察が重要となる。術後患者のアセスメントの視点や術後合併症の予防の重要性を学んでほしい。

授業計画(進め方)

1 回目　周手術期看護の概論
2 回目　術前患者の看護
3 回目　術中患者の看護・安全管理・手術室における看護の展開と看護師の役割
4 回目　術後患者の看護・回復を促進するための看護
5 回目　術後合併症の予防と発症時の対応
6・7 回目　術前術後の看護の実際（演習）
8 回目　試験

テキスト

系統看護学講座　別巻　臨床外科看護総論　医学書院

参考書・指定図書

評価の方法

筆記試験

授業科目 成人看護援助論Ⅰ（1） 運動器	区分	専門分野	
	教育内容	成人看護学	
	領域		
授業担当者	開講時期	単位	時間数
佐藤　美幸	中期	1単位	30時間 （運動器10時間）

授業の目的

運動機能障害をもつ対象を理解し、症状・治療に応じた看護ができる能力を養う。

授業の目標

1. 運動機能障害の症状の成因と患者に及ぼす影響がわかる。
2. 運動機能障害の症状を持つ患者への適切な看護がわかる。
3. 障害を持つ患者の心理を理解する。

授業概要

成人期の健康障害の中で、骨・関節・筋疾患ならびに脊髄疾患に伴う運動機能障害に対して整形外科的治療を受ける患者の看護を学ぶ。

リハビリテーションにおける各専門職との連携を学び、障害された運動機能及び、その人らしい生活を再獲得するための機能回復への援助、精神的援助、社会資源活用について学ぶ。

成人期の看護に必要な看護技術について、より安全で安楽な技術を提供するための留意点を考え、患者の状況に応じた援助方法について学ぶ。

授業計画（進め方）

1回目　整形外科疾患の援助のための主な知識と技術

2回目　保存療法を受ける患者の看護

3回目　手術を受ける患者の看護

4回目　経過に応じた患者の看護

5回目　疾患を持つ患者の看護

テキスト

系統看護学講座　専門　運動器　医学書院

参考書・指定図書

評価の方法

筆記試験

成人看護援助論Ⅰ100点満点中の30点

授業科目	区分	専門分野	
成人看護援助論Ⅰ（2） 脳神経	教育内容	成人看護学	
	領域		
授業担当者	開講時期	単位	時間数
堀井　喜世子	中期～後期	1単位	30時間 （脳神経12時間）

授業の目的

脳神経機能障害を持つ対象を理解し、症状・治療に応じた看護ができる能力を養う。

授業の目標

1. 脳神経機能障害の症状の成因と、患者に及ぼす影響がわかる。
2. 脳神経機能障害の症状を持つ患者への適切な看護がわかる。

授業概要

脳・神経は生命維持・身体機能の中枢である。脳・神経が障害されることで、人間の身体にどのような変化が現れるのか、また身体的、精神的、社会的影響を考え、さまざまな障害を抱えながらそれぞれの生活・人生において生きがいや満足感を高めていけるよう適切な看護の方法について学習する。

看護活動では、脳神経疾患の病態生理の知識の上にたって、看護の意義に立ち戻りながら実際の看護実践につなげられるように理解を深めてほしい。事前学習として「人体の構造」「人体の機能」「病態と診療Ⅰ（1）脳神経」の授業内容を確認しておくことを勧める。

授業計画（進め方）

1回目　患者の特徴と看護の役割
2回目　疾患をもつ患者の経過と看護
3回目　症状・障害をもつ患者の看護:意識障害・運動麻痺
4回目　症状・障害をもつ患者の看護:頭蓋内圧亢進症状・瞳孔異常
5回目　症状・障害をもつ患者の看護：高次脳機能障害
6回目　治療・処置を受ける患者の看護　：検査と手術

テキスト

系統看護学講座　専門　脳・神経　医学書院

指定図書・参考書

評価の方法

筆記試験および課題・授業態度により総合的に評価する。

成人看護援助論Ⅰ100点満点中の45点

授業科目 成人看護援助論Ⅰ（3） 女性生殖器・乳腺	区分	専門分野	
	教育内容	成人看護学	
	領域		
授業担当者	開講時期	単位	時間数
齊藤　豊子	中期	1単位	30時間 （女性生殖器・乳腺8時間）

授業の目的

性機能障害を持つ対象を理解し、症状・治療に応じた看護ができる能力を養う。

授業の目標

1. 女性生殖器疾患の病態、症状、検査、治療について理解し、患者に及ぼす影響がわかる。
2. 女性生殖器疾患を持つ患者への適切な看護がわかる。

授業概要

女性生殖器疾患によって生じる生殖器の障害は、臓器だけでなく、女性のライフサイクルをも変化させてしまう。そのため女性の健康障害に対する看護においては、女性のライフステージと社会の中での立場を理解し、生殖器の疾患を抱えた女性が心身ともに充実した生活を送るための支援を、検査・治療に対する援助の視点、心理的支援、退院後の生活支援などについて学習する。

授業計画(進め方)

1回目　女性生殖器疾患を学ぶための基礎知識＜診察・検査と看護＞

2回目　女性生殖器の疾患と看護

3回目　主な治療・処置の伴う看護

手術療法・放射線療法・ホルモン療法

4回目　乳癌患者の看護

・検査　（マンモグラフィー検査、病理検査）

・乳房切除術を受けた患者の看護

テキスト

ナーシンググラフィカＥＸ　疾患と看護⑨　女性生殖器　メディカ出版

参考書・指定図書

病気がみえる vol.9　婦人科・乳腺外科　メディックメディア

評価の方法

筆記試験

成人看護援助論Ⅰ100点満点中の25点

授業科目	区分	専門分野	
成人看護援助論Ⅱ（1） 循環器	教育内容	成人看護学	
	領域		
授業担当者	開講時期	単位	時間数
清水　有香	中期～後期	1 単位	30 時間 （循環器 12 時間）

授業の目的

循環機能障害をもつ対象を理解し、症状・治療に応じた看護ができる能力を養う。

授業の目標

1. 循環機能障害の症状の成因と患者に及ぼす影響がわかる。
2. 循環機能障害の症状・治療、健康レベルに応じた看護がわかる。

授業概要

心臓と血管で構成される循環器系は全身の血液循環を担っており、生命活動の根幹である。その機能低下や障害は、生命の危機をもたらす。生命の危機的な状況を脱したとしても、身体的・精神的・社会的にさまざまな問題を引き起こす。また、循環機能障害は、生活習慣や日常生活上に発症の危険因子があることが多く、再発・悪化・合併症予防のために生涯にわたる自己管理が必要となる場合が多い。循環機能障害をもつ対象の身体的・精神的・社会的問題が軽減し、ＱＯＬを維持して生きていくことができるようにするための看護について学習する。

授業計画(進め方)

1 回目　循環器の構造と機能

2～4 回目　心不全患者の看護

・左心不全と右心不全の主要な症状と看護

・急性心不全における看護　・慢性心不全における看護

5 回目　冠血流障害(虚血性心疾患)患者の看護

・心臓リハビリテーション

・心臓カテーテル検査・治療を受ける患者の看護

6 回目　ペースメーカ植え込み術を受ける患者の看護
開心術を受ける患者の看護

テキスト

系統別看護講座　専門　循環器　医学書院

参考書・指定図書

看護がみえる vol.3 フィジカルアセスメント 第 1 版 メディックメディア

評価の方法

筆記試験。成人看護援助論Ⅱ100 点満点中 40 点

授業科目 成人看護援助論Ⅱ（2） 呼吸器	区分	専門分野	
	教育内容	成人看護学	
	領域		
授業担当者 佐々木 正吾	開講時期	単位	時間数
	中期～後期	1 単位	30 時間 （呼吸器 10 時間）

授業の目的

呼吸機能障害をもつ対象を理解し、症状・治療に応じた看護ができる能力を養う。

授業の目標

1. 呼吸機能障害の症状の成因と患者に及ぼす影響が理解できる。
2. 呼吸機能障害の症状を持つ患者への適切な看護が理解できる。

授業概要

人間にとって呼吸は代謝を行うために必要な酸素を体内に取り入れ、循環は血液を介して代謝に必要な酸素を全身に運ぶ、生命活動である。呼吸と循環は、人間が生きるための重要な活動であり、停止すると直ちに死に至ってしまうため、生命の源であるといえる。これらの機能が障害されると生命が脅かされ、日常生活活動が困難になり死への不安も強くなりやすい。そのような対象の身体的・精神的・社会的側面を考慮した看護援助について学習する。

授業計画（進め方）

1 回目　呼吸機能障害とは呼吸機能障害を持つ患者の主な検査（呼吸機能検査・ガス交換機能検査）
　　症状に対する看護（呼吸困難、喀痰・咳嗽）
2 回目　気管支喘息患者の看護（急性喘息発作・慢性安定期）
3 回目　呼吸不全について
　　慢性閉塞性肺疾患患者の看護
4 回目　人工呼吸器療法を受ける患者の看護演習：人工呼吸器療法の体験
5 回目　肺切除術を受ける患者の看護
　　慢性疾患におけるエンド・オブ・ライフケア

テキスト

系統看護学講座　専門　呼吸器　医学書院

参考書・指定図書

病気がみえる vol.4 呼吸器 第 3 版 メディックメディア

評価の方法

成人看護援助論Ⅱ100 点満点中の 30 点
筆記試験、授業態度を総合的に評価する。

授業科目	区分	専門分野	
成人看護援助論Ⅱ（3） 腎・泌尿器	教育内容	成人看護学	
	領域		
授業担当者	開講時期	単位	時間数
音成　絵美	中期～後期	1単位	30時間 （腎・泌尿器8時間）

授業の目的

腎・泌尿器機能障害をもつ対象を生活者として理解し、症状、治療に応じた看護ができる能力を養う。

授業の目標

1. 腎・泌尿器機能障害の症状の成因と患者に及ぼす影響が理解できる。
2. 腎・泌尿器疾患の治療を受ける患者への看護がわかる。
3. 慢性腎臓病を持つ患者の特徴を理解し、療養生活支援における看護の役割がわかる。
4. 腎不全治療（透析療法、腎移植）を必要とする患者の特徴を理解し、療養生活支援における看護の役割がわかる。

授業概要

泌尿器系疾患を持つ人や腎臓病を持つ人の身体面（症状観察、症状マネジメント）、心理面（不安・苦痛への配慮、プライバシー保護、人間の尊厳、羞恥心への配慮）、社会面（患者・家族への援助と多職種連携、社会資源の活用）から全体像を捉え、その人らしい暮らしへつなげる適切な援助について学ぶ。

授業計画(進め方)

1回目　腎・泌尿器科疾患を持つ人の身体面（症状観察、症状マネジメント）、心理面（不安・苦痛への配慮、プライバシー保護、人間の尊厳、羞恥心への配慮）、社会面（患者・家族への援助と多職種連携、社会資源の活用）のアセスメント

2回目　手術療法を受ける患者のアセスメントと看護

3回目　慢性腎臓病の各段階の特徴と療養生活支援
慢性腎臓病のステージに合わせた療養生活支援と治療選択
慢性腎臓病を持つ人の日常生活上のセルフマネジメント

4回目　腎不全治療（血液透析、腹膜透析、腎移植）を受ける患者の看護
血液透析・腹膜透析・腎移植の実際、
透析生活支援における多職種連携の事例

テキスト

系統看護学講座　専門　腎・泌尿器　医学書院

参考書・指定図書

透析ハンドブック　医学書院
病気が見える vol.8　腎・泌尿器　メディックメディア

評価の方法

筆記試験

授業科目	区分	専門分野	
成人看護援助論Ⅲ（1） 消化器	教育内容	成人看護学	
	領域		
授業担当者	開講時期	単位	時間数
工藤 洋平	中期～後期	1 単位	30 時間 （消化器 12 時間）

授業の目的

消化・吸収機能障害、栄養代謝機能障害をもつ対象を理解し、症状・治療に応じた看護ができる能力を養う。

授業の目標

1. 消化・吸収機能障害、栄養代謝機能障害の症状の成因と患者に及ぼす影響がわかる。
2. 消化・吸収機能障害、栄養代謝機能障害のある患者への適切な看護がわかる。

授業概要

消化器は、食物の摂取・消化・吸収・代謝・排泄に関わる器官である。機能低下によって起こる症状、原因となる疾患とその治療の目的を理解し、疾病によって生じる患者の身体的、心理・社会的影響を考え、生活環境の変化を捉えながらその人らしい生活ができるよう適切な看護の方法について学習する。

授業計画（進め方）

1 回目 腹部のアセスメントと観察
2 回目 症状に対する看護、検査時の看護
3 回目 肝障害のある患者の看護
4 回目 胃の手術を受ける患者の看護
5 回目 大腸の手術・ストーマ造設術を受ける患者の看護
6 回目 胆石・膵炎の看護、膵臓の手術を受ける患者の看護

テキスト

系統看護学講座　専門　消化器　医学書院
病気がみえる vol.1 消化器 メディックメディア

指定図書・参考書

系統看護学講座　別巻　臨床外科看護総論　医学書院

評価の方法

筆記試験
成人看護援助論Ⅲ100 点満点中の 40 点

授業科目 成人看護援助論Ⅲ（2） 内分泌・代謝	区分	専門分野	
	教育内容	成人看護学	
	領域		
授業担当者	開講時期	単位	時間数
武田　直美	中期～後期	1単位	30時間 （内分泌・代謝8時間）

授業の目的

内分泌・代謝機能障害をもつ対象を理解し、症状・治療に応じた看護ができる能力を養う。

授業の目標

1. 内分泌・代謝機能障害の症状の成因と、患者に及ぼす影響がわかる。
2. 内分泌・代謝機能障害のある患者への適切な看護がわかる。

授業概要

内分泌・代謝機能障害をもつ患者は、急性期における的確な医療が必要であるとともに、慢性疾患であり、長期にわたる管理が必要となる。このような患者に対するアセスメントの視点や適切な看護の方法について学習する。

授業計画(進め方)

1回目　内分泌・代謝疾患を持つ患者の特徴と看護の役割、内分泌疾患患者の看護
2回目　糖尿病患者の看護①（疾患の特徴とアセスメント）
3回目　糖尿病患者の看護②（教育的支援の具体的方法について…食事療法・運動療法・薬物療法）
4回目　糖尿病患者の看護③（教育的支援の具体的方法について…合併症予防・インスリン自己注射・血糖自己測定）

テキスト

系統看護学講座　専門　内分泌・代謝　医学書院
日本糖尿病学会編　糖尿病食事療法のための食品交換表　文光堂

参考書・指定図書

日本糖尿病学会編　糖尿病治療の手引き　南江堂

評価の方法

筆記試験
成人看護援助論Ⅲ100点満点中の30点

授業科目 成人看護援助論Ⅲ（3） 造血・免疫・感染	区分	専門分野	
	教育内容	成人看護学	
	領域		
授業担当者	開講時期	単位	時間数
小田嶋　陽子	後期	1単位	30時間 （造血・免疫・感染8時間）

授業の目的

造血・免疫機能障害の疾患、感染症を理解し、症状・治療に応じた看護ができる知識・スキルを養う。

授業の目標

1. 造血・免疫機能障害の症状の成因と患者に及ぼす影響がわかる。
2. 造血・免疫機能障害のある患者への適切な看護がわかる。
3. 感染症の症状の成因と患者におよぼす影響がわかる。
4. 感染症の患者への適切な看護がわかる。

授業概要

造血機能障害は治療法が進歩したとはいえ、未だ急性増悪と寛解を繰り返しながら予後不良の経過をたどることが多く、治療による入退院等の環境の変化や副作用出現の苦痛、ボディイメージの変容、家族・社会生活での役割の変化など、身体面だけではなく精神面・社会面での援助が必要とされる。また、免疫機能障害はアレルギーから膠原病・難病指定疾患まで幅広く、患者は特徴的な症状を呈しながら副腎皮質ステロイド薬をはじめとする長期の薬物療法を必要とすることが多い。そして、感染症は多くの疾患の中で罹患率や死亡率のかなりの部分を占めている。この講義では造血・免疫・感染についての知識を深め、患者に対するアセスメントの視点や適切な看護の方法について学習する。

授業計画(進め方)

1回目　造血機能障害をもつ患者の特徴と看護
　　貧血・輸血時・易感染状態・出血傾向にある患者の看護
2回目　白血病患者の看護
　　白血病の患者の看護事例DVDの視聴
3回目　造血幹細胞移植の看護
4回目　アレルギー疾患患者の看護
　　膠原病患者の看護
5回目　感染症患者への看護

テキスト

系統看護学講座　専門　血液・造血器　医学書院
系統看護学講座　専門　アレルギー・膠原病・感染症　医学書院

参考書・指定図書

病気がみえる vol.5　血液　メディックメディア
造血幹細胞移植の看護　改訂第2版　南江堂

評価の方法

筆記試験とレポート
成人看護援助論Ⅲ 100点満点中の30点

授業科目	区分	専門分野	
老年看護学概論	教育内容	老年看護学	
	領域		
授業担当者	開講時期	単位	時間数
日野　由樹子	中期	1 単位	30 時間

授業の目的

高齢者の特徴と高齢者をとりまく医療福祉の動向を理解し、看護の果たす役割を学ぶ。

授業の目標

1. 老年期を生きる人々の生活と健康について理解する。
2. 高齢社会の現状と高齢者の生活を支える医療福祉制度を理解する。
3. 高齢者の人生の最終段階における看護を理解する。

授業概要

我が国の平均寿命延伸の結果、老年期は平均して 20 年程度と見込まれている。人生の終盤を「住み慣れた地域で最期まで」過ごすためには、健康な時も病気を患った時も、最善の看護を提供することが看護師には求められる。老年看護では、高齢者一人ひとりの人生を考えながら、健康レベルの多様な水準と場の広がりに対応できる能力が必要とされる。

この授業では、高齢者の特徴と高齢者を取り巻く社会の理解、高齢者医療福祉の動向と看護に求められるものを学んでいく。高齢者疑似体験の演習を取り入れ、加齢に伴った身体的変化を体験し、高齢者の思いや高齢者看護の留意点が考えられる授業としたい。

授業計画(進め方)

1・2 回目　老年看護のなりたち
　　老いるということ，老いを生きるということ
3 回目　超高齢社会と社会保障
4・5 回目　高齢者のヘルスアセスメント
6・7 回目　高齢者の生活機能を整える看護
8・9 回目　健康逸脱からの回復を促す看護
　　治療を必要とする高齢者の看護
10・11 回目　生活・療養の場における看護
12 回目　高齢者のリスクマネジメント
13 回目　エンドオブライフケア
14・15 回目　高齢者擬似体験　【演習】

テキスト

系統看護学講座　専門　老年看護学　医学書院
ブックライブラリー　根拠と事故防止からみた　老年看護技術　医学書院

参考書・指定図書

評価の方法

授業態度・課題の取り組み状況・筆記試験から総合的に評価する。

授業科目	区分	専門分野	
基礎看護学実習Ⅰ	教育内容	臨地実習	
	領域		
授業担当者	開講時期	単位数	時間数
清水 有香	中期	1 単位	40 時間

授業の目的

患者への接し方を学び、基本的ニードに応じた援助が実施できる。

授業の目標

1. 患者に応じた接し方ができる。
2. 患者の基本的ニードを把握できる。
3. 患者の基本的ニードに応じた援助ができる。
4. 実施した援助を評価できる。
5. 看護師の役割についての理解を深め、自己の看護観を深めることができる。

授業概要

本実習では、看護の対象とその療養環境について学ぶ。また、病棟で働く看護師とともに患者のベッドサイドに行き、どのように看護しているのか看護の実際を見せてもらうことにより、看護の仕事を具体的に知ることができる。

また、学生1ないし2名で患者1名を受持ち、関係作りの基本である会話の導入及び発展のさせ方や、対象に応じた接し方を学ぶ。患者とのコミュニケーションや観察で得た情報から、基本的ニードが充足されているかを考え、看護援助を行う。安全、安楽、患者の反応から、看護援助の妥当性を評価する。

見学や実践などの体験を通し、対象を理解するとともに、患者に行われている看護について考える機会とする。

授業計画（進め方）

1. 日程・実習場所は、ガイダンスに準じる。
2. 病院内、病棟内を見学し、施設の概要を知る。
3. 看護師の業務に同行し、見学する。
4. 患者1名を学生1～2名で受け持ち、コミュニケーションの実際を学ぶ。
5. 患者とのかかわりから、ニードを把握し、用紙 1～3 に整理する。また、援助の必要性を導き出し、看護援助を展開する。
6. 1日の実習内容と学びはカンファレンスで交流した後、用紙4～6に整理し、安全・安楽・自立の視点から、援助の妥当性を振り返る。
7. 実習終了カンファレンスで看護についての学びを交流する。

テキスト

系統看護学講座　専門　看護学概論　医学書院
系統看護学講座　専門　基礎看護技術Ⅰ　医学書院
系統看護学講座　専門　基礎看護技術Ⅱ　医学書院
ブックライブラリー　根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術　医学書院
ブックライブラリー　根拠と急変対応からみたフィジカルアセスメント　医学書院

指定図書・参考書

城ヶ端初子監修 実践にいかす看護理論 19 サイオ出版

評価の方法

評価表をもとに、臨床指導者及び教員の評価によって行う。

2学年

2024年度 教育課程（2学年）

区分	教育内容	科目	単位	時間数	備考	掲載ページ
基礎分野	科学的思考の基盤	倫理学	1	15		94
		キャリア教育論Ⅱ	1	15		95～101
	人間と生活、社会の理解	自己の探求	1	15		102
	小計		3	45		
専門基礎分野	疾病の成り立ちと回復の促進	病態と診療Ⅳ	1	30		103～106
	健康支援と社会保障制度	公衆衛生学	1	30		107
		社会福祉	1	30		108
		関係法規	1	30		109
		臨床心理学	1	15		110
		リハビリテーション論	1	30		111
	小計		6	165		
専門分野	基礎看護学	看護リフレクションⅡ	1	30		112
	地域・在宅看護論	地域・在宅在宅看護概論	1	30		113
		在宅看護技術	1	30		114
		対象に応じた在宅看護	1	30		115
	成人看護学	臨床推論	1	30		116
	老年看護学	老年看護援助論Ⅰ	1	30		117
		老年看護援助論Ⅱ	1	30		118
		老年看護援助論Ⅲ	1	15	試験時間含む	119
		認知症看護	1	15	試験時間含む	120
	小児看護学	小児看護学概論	1	30		121
		小児疾患の病態と診療	1	15		122
		小児看護援助論Ⅰ	1	30		123
		小児看護援助論Ⅱ	1	30		124
	母性看護学	母性看護学概論	1	30		125～127
		周産期の診療	1	15	試験時間含む	128
		妊産婦の援助論	1	30		129
		母と子の援助論	1	30		130
	精神看護学	精神看護学概論	1	30		131
		精神疾患の病態と診療	1	30		132
		精神看護援助論Ⅰ	1	30		133
		精神看護援助論Ⅱ	1	15		134
	看護の統合と実践	看護研究方法論	1	30		135
	臨地実習	基礎看護学実習Ⅱ	2	80		136
		基礎看護学実習Ⅲ	2	80		137
		成人・老年看護学実習Ⅰ	2	80		138
		成人・老年看護学実習Ⅱ	2	80		139
		小計	30	905		
		総合計	39	1115		

授業科目	区分	基礎分野	
倫理学	教育内容	科学的思考の基盤	
	領域	人間の暮らし	
授業担当者	開講時期	単位	時間数
鈴木 祐丞	中期～後期	1 単位	15 時間

授業の目的

「所与の人間のつくりかえ」について考える。遺伝子工学を用いたエンハンスメント（デザイナー・ベイビーなど）がなぜ、どこまで許されるのか（許されないのか）について考えることを起点に、NIPT（新型出生前診断）について、また安楽死についてあわせて考察する。

授業の目標

1. 倫理（学）とは何か説明できる。
2. エンハンスメント、NIPT、安楽死などについて説明できる。
3. それらについて倫理学的に考察できる。

授業概要

科学・技術の進歩により、医療の場面においても、かつて存在しなかった倫理的問題が形をとるようになってきている。それらについて、看護職者としての倫理原則（自律の尊重など）を念頭に置きながらも、ひとりの人間として自由に、ときに他者との対話をつうじて考えてもらいたい。

授業計画(進め方)

1 回目：授業についての説明／倫理（学）とは何か／「エンハンスメント」とは何か
2 回目：エンハンスメント（2）　リベラリズムとエンハンスメント
3 回目：エンハンスメント（3）　サンデルと「生の被贈与性」
4 回目：エンハンスメント（4）　「絶対に違う他者」との共生
5 回目：NIPT と選択的人工妊娠中絶（1）　NIPT とは何か／日本におけるその現状と課題
6 回目：NIPT と選択的人工妊娠中絶（2）　NIPT についての哲学・倫理学的考察
7 回目：安楽死（1）　安楽死とその諸形態
8 回目：安楽死（2）　「死の自由」「死の権利」をめぐって

テキスト

レジュメと資料を配布する。

参考書・指定図書

参考書：赤林朗編『入門・医療倫理Ⅰ（改訂版）』、勁草書房、2017 年

評価の方法

出席状況・受講態度など 40%
小レポート（授業内容を理解した上で、自分の考えを展開できているか）　60%

授業科目	区分	基礎分野	
キャリア教育論Ⅱ	教育内容	科学的思考の基盤	
	領域	人間理解	
授業担当者	開講時期	単位	時間数
日野　由樹子　　渡部　暢子	前期～後期	1単位	15時間

授業の目的

プロジェクト学習を通してパーソナルポートフォリオからキャリアポートフォリオを作成し、将来自分が目指す看護師像を描き、意志ある学びを実現する。

授業の目標

1. 実習ポートフォリオの目的と作成の仕方がわかる
2. 目標とする姿と現状を対比させ、自分のキャリアビジョンを描くことができる
3. 自己の成長（価値ある学び）をシェアし、看護師となる自覚と責任を持つことができる

授業概要

キャリア教育論Ⅰを基礎として、自分の資質や夢と専門性を重ね、キャリアビジョンを描き、プロジェクト学習とポートフォリオを実践します。将来自分が目指す看護師像に向かって行動することができることを期待します。

授業計画(進め方)

1～3回目　「ベッドサイドから情報を獲得できる実習にしよう！」プロジェクト
4回目　「ベッドサイドから情報を獲得できる実習にしよう！」プロジェクト　成長報告
実習ポートフォリオについて（基礎Ⅲ実習前）
5～6回目　マイルストーン「キャリアビジョン実現！」プロジェクト
7～8回目　「自分の意志で未来を描こう！」プロジェクト　成長報告（1年生と合同）

テキスト

鈴木敏恵著　　キャリアストーリーをポートフォリオで実現する　　日本看護協会出版会

参考書・指定図書

鈴木敏恵著　　ポートフォリオとプロジェクト学習　医学書院
鈴木敏恵著　　アクティブラーニングをこえた看護教育を実現する　医学書院

評価の方法

情報獲得（45点）・実習ポートフォリオ（10点）・マイルストーン（35点）・成長報告（10点）

プロジェクト学習・シラバス

科目名(副題)	意志ある学び―未来教育 「ベッドサイドから情報を獲得できる実習にしよう！」プロジェクト	
講師／ファシリテータ・協力者 ほか	（スーパーアドバイザー：鈴木敏恵先生） 日野由樹子・渡部暢子	
単位・時間・受講対象	4月下旬～5月上旬　3コマ（6時間）　2年生	
学習概要 （社会的意義）	＜概要＞ 臨地実習の限られた時間の中で、何を学ぶために実習に行き、何を獲得するのか、学生自身も目標を明確にもつことが必要となる。臨地実習では、その疾患の患者の何を見る（情報獲得）必要があるのか、そのためには何を考えて行動するのか「考動知性」について学ぶ。また、患者を把握して、状況全体を描き、“察して動ける力”を身につけることが必要である。 R10を活用し、リアルな架空の患者を想定し、その状況から今一番必要な情報を獲得するには何を見て、どのように声をかけ行動するのかを考える。得た情報と患者がどうなって欲しいかを考え、行動に結びつけられるようにグループで考えてまとめ、発表する。	
キーワード	考動知性　情報獲得　ベットサイド キャリアビジョン　キャリアストーリー	
身につく力	専門知 □対象をイメージする力 □情報を見極める力 □根拠ある情報を獲得する力 □優先順位を決める力 □課題解決力	普遍知 □コミュニケーション力 □観察力　□俯瞰力 □情報を取捨選択する力 □多角的にものを見る力 □考えて行動できる力 □セルフコーチング力 □より成長しようとする意欲
学習の成果物	対象患者を訪室した時の「考動知性」を考えた凝縮ポートフォリオ	
評価方法	取り組み姿勢（自己評価）・プロジェクト学習の内容　(35点) 「アクションシート」(10点)　45点／100点	
実施計画／関連予定	基礎看護学実習Ⅱ：2024年5月20日～5月30日 基礎看護学実習Ⅲ：2024年7月11日～7月24日	
講義室・場所	中通高等看護学院　図書室	

©2016 シンクタンク未来教育ビジョン 鈴木敏恵 All Rights Reserved.
一切の無断転載・翻訳等を禁ず。教育機関で使用される場合は、必ず出典『AI 時代の教育と評価　アクティブラーニングからアクティブシンキングへ』を明記してください。

展開内容	ビジョン：実習時、ベッドサイドに行ったらどこを見ればいいかわかっている学生になりたい ゴール：実習時、ベッドサイドで素早く的確に情報獲得できるようになる！ 1回目 1. ガイダンス 2. チームテーマをもとにR10を作成する 2・3回目 1. ビジョン・ゴールの確認 2.「考動知性」とは（講義） 3. R10 を活用し、そのシーンで獲得すべき情報、考動知性を考える（ワーク） 何を見て、何を考え、どのように行動するのか（ワーク） グーグルクラスルームにまとめる（ワーク） 4. プレゼンテーション 5. アクションシートの記入 6. リフレクション（アクションシート） 4回目 1. 成長報告
テキスト・参考図書	資料R　考動知性 アクティブラーニングをこえた看護教育を実現する　医学書院 ポートフォリオとプロジェクト学習　医学書院
履修要件	
他講義との関連	キャリア教育論Ⅰ・各臨地実習
受講生へのメッセージ	臨地実習開始にあたり、看護計画立案、実習記録など大変だと思っている学生は多いと思います。このプロジェクトを通して、考動知性について学び、実習時にベッドサイドに行ったらどこを見ればいいかがわかり、的確に情報獲得をして考えて動けるようになれば、自信をもって実習に臨めると思います。それが看護計画や記録にも活かされるはずです。意識して観たものは記憶に残りやすいので、国家試験の状況設定をイメージすることにも役立つはずです！
プロジェクト学習 eラーニング	検索「未来教育オンライン講座」 http://www.mm-miraikyouiku-onlinecourse.com/

©2016 シンクタンク未来教育ビジョン 鈴木敏恵 All Rights Reserved.
一切の無断転載・翻訳等を禁ず。教育機関で使用される場合は、必ず出典『AI 時代の教育と評価　アクティブラーニングからアクティブシンキングへ』を明記してください。

プロジェクト学習・シラバス

科目名(副題)	自ら学び続ける看護師になるために－未来へキャリアストーリーを描こう！（1）－ マイルストーン「キャリアビジョン実現！」プロジェクト	
講師 ／ファシリテータ・協力者ほか	（スーパーアドバイザー：鈴木敏恵先生） 日野由樹子・渡部暢子	
単位・時間・受講対象	2024年11月中旬　2コマ（4時間）　中通高等看護学院　2年生	
学習概要 （社会的意義）	＜概要＞ 成長へのモチベーションを高めるためにインパクトシートを共有する。シートで表現することにより、自己が叶えたい未来イメージを意識化し具体的に描くことでキャリアビジョンにもつなげることができる。 キャリアビジョンを明確にし、課題を認識したうえで自己のキャリアストーリーを描けるように、ニーズとシーズについての講義から看護者に求められる能力（社会ニーズ）と自身が提供できる能力（シーズ）を明確に捉え、目指す看護師像に近づくためにキャリアプラットフォームを作成する。5月に作成したキャリアポートフォリオを活用し、セルフコーチングできるよう、リフレクション、リフレーミングと4つのキャリアシーンについて理解する。 ありたい状態・目標とする姿（なりたい未来の自分）と現状とを対比させ、そのギャップを埋めるための方策を自身の意思で立て、マイキャリアストーリーの実現に向けて自身を動機づけていく。	
キーワード	キャリアビジョン　マイキャリアストーリー　キャリアプラットフォーム ニーズとシーズ	
身につく力	専門知 □看護者に求められる資質に関する知識 □目指す看護師になるために必要な学びや体験をイメージできる力	普遍知 □ビジョンを描く力 □より成長しようとする意欲 □自尊感情、自己肯定感 □ニーズとシーズ □必要な情報を獲得する力 □探究する力、行動力
学習の成果物	キャリアビジョンが描ける　　マイキャリアストーリーの実現	
評価方法	取り組み姿勢（自己評価）・プロジェクト学習の内容　（25点） 「アクションシート」（10点）　35点／100点	
実施計画／関連予定	キャリア教育論Ⅱ　講義1回目～4回目 成人・老年看護学実習Ⅰ・Ⅱ　2024年9月19日～10月2日、10月15日～10月25日	
講義室・場所	中通高等看護学院　図書室	

©2016 シンクタンク未来教育ビジョン 鈴木敏恵 All Rights Reserved.
一切の無断転載・翻訳等を禁ず。教育機関で使用される場合は、必ず出典『AI 時代の教育と評価　アクティブラーニングからアクティブシンキングへ』を明記してください。

展開内容	目的（ビジョン）：ニーズとシーズが明確になる。 目標（ゴール）： キャリアストーリーを描ける。 1. 今日の流れの説明（俯瞰シート） 2. インパクトシート共有（プレゼンテーション） 3. ニーズとシーズ講義 4. ニーズとシーズ 共有 5. キャリアビジョンシート追加 6. キャリアプラットフォーム 記載 7. リフレクション（アクションシート）
テキスト・参考図書	キャリアストーリーをポートフォリオで実現する　日本看護協会出版会
履修要件	
他講義との関連	キャリア教育論Ⅰ・各臨地実習
受講生へのメッセージ	インパクトシートに記載することで、看護のやりがいや喜びを再発見しよう。 自己が叶えたい未来イメージを意識化し具体的に描くことでキャリアビジョンにもつなげよう。
プロジェクト学習 e ラーニング	http://www.mm-miraikyouiku-onlinecourse.com/

©2016 シンクタンク未来教育ビジョン 鈴木敏恵 All Rights Reserved.
一切の無断転載・翻訳等を禁ず。教育機関で使用される場合は、必ず出典『AI 時代の教育と評価　アクティブラーニングからアクティブシンキングへ』を明記してください。

プロジェクト学習・シラバス

科目名(副題)	―未来へキャリアストーリーを描こう！― (2) 「自分の意志で未来を描こう！」プロジェクト　―成長報告―	
講師／ファシリテータ・協力者ほか	日野由樹子・渡部暢子	
単位・時間・受講対象	3月上旬～中旬　2コマ（4時間）　2年生	
学習概要 (社会的意義)	＜概要＞ 看護師になるために、2年間重ねた学習を通して知識と技術を身につけ、臨地実習では、臨床判断能力を養い、対象の状況に応じた看護について考え、成長してきた。 自分自身の成長を可視化するために、成長エントリーシートにポートフォリオを俯瞰し、成長したこと、考え方や視点などを記載し、その中から成長 best3 を成長報告書に記載する。成長報告をプレゼンテーションすることで、1人ひとりの価値ある経験を共有し、未来の自分をイメージすることができる。長期的ルーブリックで自分を振り返るとともに、1年後の自分をイメージする。看護という仕事の価値に気づき、モチベーションを高め、どんな学習や経験を重ねて看護師を目指すのか、意志ある学びを確認する機会とする。	
キーワード	経験の価値化　暗黙知の顕在化　記憶の可視化　資質　成長　キャリアビジョン キャリアストーリー	
身につく力	専門知 □メタ認知能力 □経験の価値化 □暗黙知の顕在化	普遍知 □俯瞰力 □自尊感情、自己肯定感 □プレゼンテーション力 □ビジョンを描く力 □より成長しようとする意欲
学習の成果物	「成長報告」と「私の履修カルテ」	
評価方法	アクションシート　10点／100点	
実施計画／関連予定	11月中旬 ―未来へキャリアストーリーを描こう（1）― 「キャリアビジョン実現！」プロジェクト 実施計画 3月上旬　ガイダンス　「成長エントリーシート」配布 3月上旬～中旬　1.「成長エントリーシート」の交流　（1年生合同） 2. プレゼンテーション 3. 共有したことから「感じたこと・考えたこと」記載し、共有	
講義室・場所	中通高等看護学院　教室2	

©2016 シンクタンク未来教育ビジョン 鈴木敏恵 All Rights Reserved.
一切の無断転載・翻訳等を禁ず。教育機関で使用される場合は、必ず出典『AI 時代の教育と評価　アクティブラーニングからアクティブシンキングへ』を明記してください。

展開内容	目的（ビジョン）： この１年間の成長（価値ある学び）を交流し、最高学年になる自分を意識し、看護師として社会人となる自覚と責任をもてるようになる 目標（ゴール）： この１年の成長（価値ある学び）を共有し、キャリアビジョンを描くことができる。 1. 今日の流れの説明（俯瞰シート） 2. 「成長エントリーシート」の交流　（1年生合同） 3. 共有したことから「感じたこと・考えたこと」記載し、共有 4. 長期的ルーブリックの記載 5. キャリアビジョンシートの記載および交流 5. リフレクション
テキスト・参考図書	キャリアストーリーをポートフォリオで実現する　　日本看護協会出版会 ポートフォリオとプロジェクト学習　　医学書院
履修要件	
他講義との関連	キャリア教育論Ｉ
受講生へのメッセージ	臨地実習を経て学んだこの１年間の学びを交流することで自己の成長を確認しよう。最高学年になる自分をイメージして学習を重ね、キャリアビジョンを描き、自分の望む未来に向かって自分で成長していきましょう！　未来は皆さんのものです！
プロジェクト学習 e ラーニング	http://www.mm-miraikyouiku-onlinecourse.com/

©2016 シンクタンク未来教育ビジョン 鈴木敏恵 All Rights Reserved.
一切の無断転載・翻訳等を禁ず。教育機関で使用される場合は、必ず出典『AI 時代の教育と評価　アクティブラーニングからアクティブシンキングへ』を明記してください。

授業科目	区分	基礎分野	
自己の探求	教育内容	人間と生活・社会の理解	
	領域	人間理解	
授業担当者 堀 裕美	開講時期	単位	時間数
	前期～中期	1 単位	15 時間

授業の目的

自己を内省し、自己肯定感を高め、看護者としての自己の在り方を理解する。

授業の目標

自分を理解し大切にするための方法を学ぶ。
自分自身を見つめ直すことで、自分の価値が再構築され、強みや魅力に気づくことができる。

授業概要

看護者として他者を支援するためには、しっかりと自己を確立しておくことが求められる。自己肯定感を支える6つの要素を理解し、ワークを通じて自己理解・他者理解を深めていく。自分を知り受容することは、ゆるぎない自分の軸を定め、ありたい自分と不完全な自分の両面を受け入れ調和をとりながら、自己実現を可能にする。また、看護者としての心のケアとして、感情のコントロール、ありのままの自分を受け止める（マインドフルネス）、自分に思いやりをもつ（セルフ・コンパッション）についての技法も学ぶ。看護を学ぶ皆さんが、ありのままの自分の良さを認め、人の役に立てることへの喜びを感じられるように願い、この授業を設定した。自分らしさを尊重できることは、看護の対象のその人らしさや、その人らしい暮らしを支援することにも反映されると期待する。

授業計画(進め方)

1回目：自己肯定感の6つの感、自分を知るワーク①
2回目：自己肯定感を高める
3回目：自分を知るワーク②
4回目：感情のコントロール、課題の分離
5回目：マインドフルネス
6回目：マインドフルネスと自己受容
7回目：セルフ・コンパッション
8回目：自分を癒す、リラクセーション法、アロマセラピー

テキスト

参考書・指定図書

中島輝著 何があっても「大丈夫。」と思えるようになる自己肯定感の教科書 SB クリエイティブ
吉田昌生著 こころが軽くなるマインドフルネスの本 清流出版

評価の方法

授業への参加状況、授業中の課題

授業科目	区分	専門基礎分野	
病態と診療Ⅳ（1） 歯・口腔疾患	教育内容	疾病の成り立ちと回復の促進	
	領域	人間の健康	
授業担当者	開講時期	単位	時間数
東海林 克	前期～中期	1単位	30時間 （歯・口腔疾患6時間）

授業の目的

歯・口腔疾患の発生原因とその進行過程、疾患の診断のプロセス、そして各病期における治療法の概要と、「口腔ケア」についてその要点に関して理解する。

授業の目標

1. 歯科・口腔疾患に関する基礎的知識を理解する。
2. 日常看護業務で遭遇するであろう歯科・口腔疾患に関する知識を習得し、看護計画立案をする上での基礎とする。
3. 「口腔ケア」に関する基礎的知識と口腔ケアの要点について学習する。

授業概要

歯・口腔疾患は、耳鼻咽喉科や眼科など他の感覚器分野とは異なり、診療報酬体系も医科とは別となることから、大学医学部付属病院、歯科大学付属病院、等の特殊な環境下に所属しない限り、看護経験をすることのない分野である。

世界の先進国の中で類を見ることの無い超高齢社会となった現在の日本では、「口腔ケア」を必要とする要介護者が増えてきている。さらに近年では、がんを始めとした手術や化学療法、放射線治療の期間中における「周術期口腔機能管理」が注目されている。

本講はむし歯や歯周病を中心とする口腔内に発生する疾患について総説して、「口腔ケア」をする際に要介護者やがん患者の口腔内の状況を正確に把握できる基礎知識を習得するとともに、日常看護業務に含まれる「口腔ケア」を適正に行うことができるようになることを期待して、上記3項目を主眼においた授業計画を設定した。

授業計画(進め方)

1回目　顎顔面・歯の解剖と歯科疾患
　　口腔内の組織の正式名称ならびに、う蝕と歯周病に関して理解する。

2回目　口腔内の診査と治療について①　一般歯科治療総説
　　歯科治療による保存修復物や歯冠・欠損補綴物の状態、歯周組織の状況の把握法について（口腔ケア・アセスメントを適正に行うために）。

3回目　口腔内の診査と治療について②　口腔ケアについて
　　歯科治療と古典的な歯科疾患以外の顎口腔疾患（過去に看護師国家試験に出題された内容）とアセスメントの仕方を中心とした口腔ケアに関して概説する。

テキスト

ナーシンググラフィカＥＸ 疾患と看護⑥ 眼／耳鼻咽喉／歯・口腔／皮膚 メディカ出版

参考書・指定図書

テキストに併せて講義内容に準拠した自作の「講義ナビ」を用いて、内容を円滑に行うとともに国家試験受験時に要点を再度参照できるようにする。

評価の方法

筆記試験　病態と診療Ⅳ200点満点中の50点

授業科目 病態と診療Ⅳ（2） 皮膚疾患	区分	専門基礎分野	
	教育内容	疾病の成り立ちと回復の促進	
	領域	人間の健康	
授業担当者 野口 奈津子　他	開講時期	単位	時間数
	中期～後期	1単位	30時間 （皮膚疾患8時間）

授業の目的

感覚器系疾患（皮膚疾患）の病態・検査・治療について理解する。

授業の目標

1. 皮膚の構造と機能を理解する。
2. 皮膚疾患の病態・検査・治療について理解する。

授業概要

皮膚疾患の病態・検査・治療について理解し、皮膚の異常に気づくことができる看護師になってほしい。また、皮膚科学に基づいたスキンケアができるようになってほしい。

授業計画（進め方）

1回目　総論：皮膚の構造と機能、症状と病態生理

2回目　疾患の理解（1）
　　湿疹皮膚炎群～角化症（特にアトピー性皮膚炎と尋常性乾癬）

3回目　疾患の理解（2）
　　水疱症～物理・化学的皮膚障害（特に天疱瘡、類天疱瘡、熱傷、褥瘡）

4回目　疾患の理解（3）
　　感染症、母斑・母斑症、腫瘍

テキスト

ナーシンググラフィカＥＸ 疾患と看護⑥ 眼／耳鼻咽喉／歯・口腔／皮膚 メディカ出版

参考書・指定図書

評価の方法

筆記試験

病態と診療Ⅳ200点満点中の50点

授業科目 病態と診療Ⅳ（3） 眼疾患	区分	専門基礎分野	
	教育内容	疾病の成り立ちと回復の促進	
	領域	人間の健康	
授業担当者 羽渕　由紀子	開講時期	単位	時間数
	中期～後期	1単位	30時間 （眼疾患8時間）

授業の目的

感覚器系疾患（眼疾患）の病態・検査・治療について理解する。

眼科における看護の特長について理解する。

授業の目標

1. 眼の構造と機能を理解する。
2. 眼疾患の病態・検査・治療について理解する。
3. 眼科における看護について理解する。

授業概要

まず看護として知っておきたい眼球とその付属器の構造と機能などを理解し、よくみられる眼症状や眼疾患についても学びます。

視機能障害を持った患者は多大な身体的、精神的苦痛と苦労を強いられます。またその程度や種類もさまざまです。看護師が外来や病棟などで眼科患者と接するにあたり、必要な医学的基礎知識をベースに眼科的看護について学びます。

授業計画（進め方）

1回目　眼の構造と機能、眼症状、眼科検査
　　眼球および付属器、視機能にかかわる部位を理解する。
　　さまざまな眼症状と原因について理解する。
　　眼科で行われる検査（視力検査や視野検査など）について理解する。

2回目　眼疾患の主な治療・処置
　　眼科で行われる処置や治療・手術について理解する。

3回目　眼疾患各論(1)

4回目　眼疾患各論(2)　眼疾患患者の看護

テキスト

ナーシンググラフィカＥＸ　疾患と看護⑥　眼／耳鼻咽喉／歯・口腔／皮膚　メディカ出版

参考書・指定図書

評価の方法

筆記試験

病態と診療Ⅳ200点満点中の50点

授業科目 病態と診療Ⅳ（4） 耳鼻咽喉疾患	区分	専門基礎分野	
	教育内容	疾病の成り立ちと回復の促進	
	領域	人間の健康	
授業担当者	開講時期	単位	時間数
川嵜　洋平	前期～中期	1 単位	30 時間 （耳鼻咽喉疾患 8 時間）

授業の目的

感覚器系疾患（耳鼻咽喉疾患）の病態・検査・治療について理解する。

授業の目標

1. 耳鼻咽喉の構造と機能を理解する。
2. 耳鼻咽喉疾患の病態・検査・治療について理解する。

授業概要

耳鼻咽喉領域の看護を行っていくうえで、日々進歩する診断、検査、治療に対する最新の知識を身につけておくことは必須である。そのため、機能と構造をしっかり理解し、耳・鼻・咽喉各領域の機能面、器質面を含めた身体問題を理解してほしい。

授業計画（進め方）

1 回目　耳鼻咽喉の構造と機能および耳鼻咽喉科の検査と解釈
　　耳鼻咽喉科の検査と解釈

2 回目　咽頭・喉頭の疾患、食道・気管の疾患と音声・言語障害

3 回目　食道・気管の疾患と音声・言語障害

4 回目　耳に現れる症状と病態生理

テキスト

ナーシンググラフィカＥＸ　疾患と看護⑥　眼／耳鼻咽喉／歯・口腔／皮膚　メディカ出版

参考書・指定図書

評価の方法

筆記試験・レポート

病態と診療Ⅳ200 点満点中の 50 点

授業科目	区分	専門基礎分野	
公衆衛生学	教育内容	健康支援と社会保障制度	
	領域	人間の健康	
授業担当者	開講時期	単位	時間数
南園 佐知子　ロザリン・ヨン	前期～中期	1 単位	30 時間

授業の目的

公衆衛生の理念と概要を理解し、健康の保持・増進のために、地域社会の中でどのような責務を担ってゆく必要があるのか学び、医療従事者として何ができるのかを考える。

授業の目標

1. 健康とは何かを説明できる。疾病予防から健康増進に至る理念について説明できる。
2. 諸外国の健康問題、各年代や性別ごとの日本人の健康問題について概説できる。
3. 健康の保持・増進のために必要な自然環境・社会資源を枚挙することができる。
4. 健康の保持・増進のための主な制度や法律、施策を挙げて、その意義を説明できる。

授業概要

主にスライドを用いて教科書の内容を説明する。

授業計画(進め方)

1 回目 公衆衛生の理念・概念　公衆衛生と歴史
2 回目 公衆衛生のものさし
3 回目 公衆衛生活動のプロセス
4 回目 公衆衛生のシステム
5 回目 日本人の健康と課題
6 回目 親子保健
7 回目 高齢保健
8 回目 歯科保健・難病
9 回目 感染症
10 回目 学校保健
11 回目 精神保健
12 回目 健康危機管理と災害
13 回目 産業保健
14 回目 環境保健
15 回目 国際保健

テキスト

ナーシンググラフィカ 健康支援と社会保障② 公衆衛生 メディカ出版

参考書・指定図書

公衆衛生がみえる 2022-2023 第 5 版 メディックメディア（必要に応じて）

評価の方法

筆記試験

授業科目	区分	専門基礎分野	
社会福祉	教育内容	健康支援と社会保障制度	
	領域	人間の暮らし	
授業担当者	開講時期	単位	時間数
伊藤 雅充 阿部 拓見 塩谷 行浩 本間 晃子 伊藤 美穂 村越 伴子 畠 菜摘美	前期～中期	1 単位	30 時間

授業の目的

現代の生活問題を社会システムとの関連で把握し、社会福祉と医療・介護等の連携の重要性を理解する。

授業の目標

1. 社会福祉が対象とする社会問題を抱えた人々がどのように創出されるのかということを社会システムとの関連で理解する。
2. 社会保障および社会福祉の対象はどのように変化してきたのか、変化しようとしているのかを理解する。
3. 社会問題としての医療問題を理解する。この医療問題を解決する為に医療従事者に何が求められているのかを考える。

授業概要

社会福祉とは、現代社会における生活問題に対し、国民の生存権を保障するための施策である。医療問題を生活問題の重要な課題として把握し、医療を受ける権利を保障するために求められる視点を理解する。

授業計画(進め方)

1 回目 現代社会と社会福祉・社会保障
2 回目 社会福祉・社会保障とは何か
3 回目 社会福祉・社会保障の歴史
4 回目 社会福祉の担い手と役割
5 回目 福祉の実践、資源の活用
6 回目 地域福祉
7 回目 子ども・家庭と福祉
8 回目 障害児・者と福祉、難病対策
9 回目 高齢者と福祉
10 回目 生活保護
11 回目 年金制度
12 回目 医療保険制度
13 回目 介護保険制度
14 回目 雇用保険制度、労災保険制度
15 回目 生活と福祉

テキスト

ナーシンググラフィカ 健康支援と社会保障③ 社会福祉と社会保障 メディカ出版

参考書・指定図書

評価の方法

筆記試験

授業科目	区分	専門基礎分野	
関係法規	教育内容	健康支援と社会保障制度	
	領域	人間の暮らし	
授業担当者	開講時期	単位	時間数
吉田　皓一	前期～後期	1 単位	30 時間

授業の目的

看護に必要な法律について理解するとともに、医療人として理解しておきたい医療福祉に関する法律の基礎知識を身につける。

授業の目標

1. 保健師助産師看護師法を通して看護職の役割がわかる。
2. 看護に関連する法規の概要がわかる。

授業概要

看護師がその任務を果たすためには、専門的知識や技術を身につけるだけではなく、我が国の保健医療福祉に関する諸制度を理解し、看護はそこでどのような位置を占め、保健師・助産師・看護師はどのような役割を持っているかを認識する必要がある。看護に携わる者が、国民の健康を守り、与えられた職責を正しく遂行するため、関係法規の理解は欠くことのできないものである。

この授業では、看護に携わる者にとって最も重要な法規である保健師助産師看護師法をはじめ、医事・薬事・公衆衛生、環境衛生などの衛生法規と、看護業務に関連が深い社会保障に関する法規、労働関係法規などについて解説していく。

授業計画(進め方)

1 回目　医療に関する法の概念
2～ 3 回目　看護に関する法律、医療・福祉の資格
4 回目　医療法
5 回目　薬事法
6～ 7 回目　その他、物に関する法律
8 回目　社会保障に関する法律
9 回目　医療政策に関する法律
10 回目　福祉に関する法律
11 回目　労働に関する法律
12 回目　環境に関する法律
13 回目　その他の法律
14～15 回目　まとめ

テキスト

ナーシンググラフィカ　健康支援と社会保障④　看護をめぐる法と制度　メディカ出版

参考書・指定図書

評価の方法

筆記試験

授業科目	区分	専門基礎分野	
臨床心理学	教育内容	健康支援と社会保障制度	
	領域	人間の健康	
授業担当者	開講時期	単位	時間数
半田 温子	前期	1 単位	15 時間

授業の目的

臨床心理学の基礎理論および技法を基盤とした、対象理解と援助について学ぶ。

授業の目標

1. 臨床心理学の基本的視点について説明できる。
2. 代表的な人格理論・発達理論を概説できる。
3. 代表的な心理アセスメントや心理療法の概要を説明できる。

授業概要

テキストを中心に、臨床心理学の基礎概念を学ぶ。その中で事例を概観し、対象理解と援助について、臨床心理学的観点から考える。

授業計画(進め方)

1 回目：臨床心理学の扉を開く－臨床心理学とは－
　　心理援助の基礎を学ぶ－発達・人格理論－ (1) 基礎理論について
2 回目：心理援助の基礎を学ぶ－発達・人格理論－ (2) 精神分析理論 分離-個体化理論
3 回目：心理援助の基礎を学ぶ－発達・人格理論－ (3) 対象関係論
4 回目：対象を理解する－心理アセスメント－ (1) 情報の収集と整理 発達検査 知能検査
5 回目：対象を理解する－心理アセスメント－ (2) 人格検査 心理検査の実際
6 回目：心理援助の実際にふれる －事例に学ぶ問題の理解とかかわり－
7 回目：心理援助の方法を知る－心理療法－ (1) 心理療法の基本的態度 精神分析療法 遊戯療法
8 回目：心理援助の方法を知る－心理療法－ (2) 芸術療法　自律訓練法
　　終章「かかわる」ということ

テキスト

川瀬正裕・松本真理子・松本英夫「心とかかわる臨床心理－基礎・実際・方法－」ナカニシヤ出版

参考書・指定図書

川瀬正裕・松本真理子・川瀬三弥子 「これからの心の援助」ナカニシヤ出版
熊倉伸宏 「面接法」 新興医学出版社

評価の方法

出席・参加状況、筆記試験により総合的に評価する

授業科目	区分	専門基礎分野	
リハビリテーション論	教育内容	健康支援と社会保障制度	
	領域	人間の健康	
授業担当者	開講時期	単位	時間数
小貫　渉　他	前期～中期	1 単位	30 時間

授業の目的
社会復帰を目指す障碍者に対する援助の方法を学ぶ。

授業の目標
1. 障害とノーマライゼーションの概念を理解する。
2. リハビリテーションの対象となる疾患・症状を理解する。
3. 病院におけるリハビリテーションの実際を学ぶ。

授業概要
1. リハビリテーション医学について。
2. 理学療法について。
3. 作業療法について。
4. 言語療法について。

授業計画(進め方)
〈リハビリテーション医学〉
1回目　リハビリテーションとは（総論）
2回目　障害の受容について
3回目　リハビリテーションが必要な疾患について
4回目　脳血管障害と高次機能障害①
5回目　脳血管障害と高次機能障害②
6回目　脳血管障害と高次機能障害③
〈作業療法〉
1回目　生活行為と作業療法
　　作業療法とは
　　生活行為とは
2回目　ＩＣＦとリハビリテーション
　　ＩＣＦとは
　　リハビリテーションへの応用
3回目　生活環境と作業療法
　　福祉用具・自助具　住宅改修
〈理学療法〉
1回目　ＰＴとは
2回目　事例別理学療法
　　運動療法について
　　呼吸理学療法　　その他
3回目　実習：装具療法・歩行補助具・歩行介助
〈言語療法〉
1回目　ＳＴとは
　　講義：回復期リハビリテーションの失語症について
2回目　講義：回復期リハビリテーションの構音障害（dysarthria を中心に）
　　実技
3回目　講義：回復期リハビリテーションの摂食嚥下障害について
　　実技

テキスト
ナーシンググラフィカ　成人看護学⑤　リハビリテーション看護　メディカ出版

参考書・指定図書

評価の方法
筆記試験

授業科目	区分	専門分野	
看護リフレクションⅡ	教育内容	基礎看護学	
	領域		
授業担当者	開講時期	単位	時間数
大塚　紀子　　菅原　晴美	前期～中期	1 単位	30 時間

授業の目的

臨地実習の場面を通して、看護実践状況の中で生じた、実践知を自覚し、リフレクティブサイクルに応じ、客観的に振り返る思考のプロセスを学ぶ。

授業の目標

1. 臨地実習の場面を通して、実践知を自覚し、リフレクティブサイクルに応じ、自己の看護場面について振り返ることができる
2. ケースレポートをまとめ、行った看護の意味や課題を明確にできる
3. ケースレポート発表会を通し、自分の看護に対する考えを皆に伝えたり、意見交換で深めることができる

授業概要

看護におけるリフレクションは、日々の看護実践の中で行われる暗黙知や技を可視化・言語化するプロセスである。リフレクションを学ぶことは、看護実践の質を向上させ、看護専門職として成長し続けていくための有用なスキルである。本科目は、1 年次に学んだスキルを活用し、臨地実習場面をリフレクションする。実習終了後に自らの経験を一定の方法を用いてリフレクションすることで、それまで気づかなかった看護の意味や価値を見出し、次の看護に繋げていく方法を身につける。また、実習での体験をケースレポートとしてまとめ、自分の行ったケアを論理的・客観的に振り返る力を身につけると共に、看護に対する自分の考えを述べられるようになって欲しい。

授業計画(進め方)

1 回目　看護リフレクションⅡとは
2 回目　臨床判断とコンセプト
3・4 回目　基礎看護学実習Ⅲの場面のリフレクション
5・6 回目　成人・老年看護学実習Ⅰの場面のリフレクション
7・8 回目　成人・老年看護学実習Ⅱの場面のリフレクション
9 回目　ケースレポートガイダンス
10～12 回目　ケースレポート作成・指導
13 回目　ケースレポート発表会準備
14・15 回目　ケースレポート発表会

テキスト

田村由美/池西悦子 著　看護の教育・実践に活かすリフレクション－豊かな看護を拓く鍵－ 南江堂
系統看護学講座　別巻　看護研究　医学書院

参考書・指定図書

評価の方法

各実習場面でのワークシート提出及び評価表に基づいた評価（50 点）
ケースレポートルーブリック評価表で評価（50 点）

授業科目	区分	専門分野	
地域・在宅看護概論	教育内容	地域・在宅看護論	
	領域		
授業担当者	開講時期	単位	時間数
堀井 喜世子　　髙橋 令子	前期～中期	1 単位	30 時間

授業の目的

地域・在宅で療養する人々とその家族の特徴を理解し、看護活動を展開するための基礎的知識を養う。

授業の目標

1. 地域・在宅看護の目的と基本理念が理解できる。
2. 在宅看護の対象者の特性とその支援の基本を理解できる。
3. 在宅ケアを支える制度や社会資源を学び、看護師の役割・機能を理解できる。

授業概要

地域・在宅看護の対象は地域で生活しているすべての人々とその家族である。ここでは、既習の地域で生活を営む人々についての学びをふまえて、年齢別、疾患別、症状別という枠組みを超えて、生活の場で療養している在宅看護の対象者の特性を知り、在宅における看護師の基本姿勢、倫理、安全管理等について学習する。在宅看護は保健医療の仕組みや制度等が深く関わっているため、これまでに学んでいる講義等と結びつけながら理解してほしい。

授業計画(進め方)

1 回目：地域・在宅看護の概念①（地域・在宅看護とは）
2 回目：地域・在宅看護の概念②（多様な生活の場と地域療養を支える在宅看護の機能・役割）
3 回目：在宅看護の対象
4 回目：家族とは
5 回目：地域療養を支える制度①（地域・在宅看護の変遷と在宅ケアシステム、社会資源）
6・7 回目：地域療養を支える制度②③（社会資源の活用、看護師の役割・機能）
8 回目：療養の場の移行に伴う看護
9 回目：多職種・多機関連携
髙橋先生
10・11 回目：訪問看護とは
12・13 回目：訪問看護パンフレット作成・発表
14・15 回目：在宅看護における安全と健康危機管理

テキスト

ナーシンググラフィカ　地域・在宅看護論①　地域療養を支えるケア　メディカ出版
ナーシンググラフィカ　地域・在宅看護論②　在宅療養を支える技術　メディカ出版

参考書・指定図書

公衆衛生がみえる 2022-2023　第 5 版　メディックメディア

評価の方法

筆記試験　70%（髙橋 15%　堀井 55%）、課題レポート　30%

授業科目	区分	専門分野	
在宅看護技術	教育内容	地域・在宅看護論	
	領域		
授業担当者	開講時期	単位	時間数
鈴木　淳子　　八代　美千子 西方　展子	中期～後期	1 単位	30 時間

授業の目的

基礎看護技術を応用し、在宅で療法する対象に必要とされる基本的な看護援助について学ぶ

授業の目標

1. 日常生活支援の実際を学び、基礎技術の応用、家族への相談指導技術が理解できる
2. 療養者の状況に応じた在宅看護の特異的なケアを具体的に実施できる
3. 在宅療養者とその家族の状況に応じた生活支援方法を検討できる
4. 医療管理を必要としている在宅療養者の特徴を理解する
5. 在宅療養者とその家族の状況に応じた医療管理、予防的な支援の方法を理解する

授業概要

在宅看護は、地域で療養する人々が「望む生活」を維持するために、社会資源を用いながら生活の場において看護を提供し、「自立支援」していくことである。療養者と家族が「健康でその人らしい生活」が継続できるように、ここではこれまで学んできた看護の知識と技術を応用させた日常生活支援技術、臨床看護技術を応用した在宅医療技術を学び、在宅看護の実践に結び付ける。

授業計画(進め方)

1 回目　在宅における日常生活支援技術（食事）
2 回目　在宅における日常生活支援技術（清潔）
3 回目　在宅における日常生活支援技術（排泄）
4 回目　移動、生活リハビリテーション
5 回目　フィジカルアセスメント（演習）
6・7 回目　在宅での栄養管理　―在宅中心静脈栄養法と経管栄養法―
8 回目　膀胱留置カテーテルの管理
9 回目　ストーマケア
10 回目　褥瘡の予防とケア
（西方先生）
11・12 回目　在宅人工呼吸療法・在宅酸素療法　（八代先生）
13～15 回目　在宅における日常生活支援の実際（入浴含む）　片麻痺スーツ、福祉用具体験（演習）

テキスト

ナーシンググラフィカ　在宅看護論①　地域療養を支えるケア　メディカ出版
ナーシンググラフィカ　在宅看護論②　在宅療養を支える技術　メディカ出版

参考書・指定図書

角田直枝編集　よくわかる在宅看護　学研

評価の方法

筆記試験及び課題レポートなど総合的に評価する

授業科目	区分	専門分野	
対象に応じた在宅看護	教育内容	地域・在宅看護論	
	領域		
授業担当者	開講時期	単位	時間数
堀井　喜世子	中期～後期	1 単位	30 時間

授業の目的

在宅で健康障害を抱えた人々とその家族への看護展開の方法を学ぶ。

授業の目標

1. 在宅療養者とその看護のポイントを理解し、看護の展開方法を学ぶ。
2. 事例を通し、在宅における療養者とその家族の生活上の課題を考えられる。
3. 在宅看護における特徴的な対象に応じた看護展開の実際が理解できる。
4. 事例を通し、訪問看護の実際を考え、展開できる。

授業概要

療養者とその家族が望む「その人らしい生活」を実現するために、療養者とその家族の全体像を捉え、必要な看護を導き出す手法を学び、在宅看護における特徴的な対象に応じた看護展開について学習するとともに、演習を通して在宅看護の実際を考える機会としたい。

授業計画(進め方)

1 回目：在宅看護過程とは（療養者の理解と在宅看護のポイント）
・訪問看護の事例から学ぶ
・療養者の全体像を理解する－ICF 思考－
＊2～5 回目は、事例を用いて看護の展開　（グループワーク）
2 回目：療養者の全体像を理解する
3 回目：ICF 思考による情報整理・分析シート（発表）
4・5 回目：関連図作成
6 回目：回復期の療養者への在宅看護
7 回目：認知症療養者への在宅看護
8 回目：訪問看護師の臨床推論
9 回目：ターミナル期療養者への在宅看護
10 回目：慢性疾患療養者への在宅看護（糖尿病）
11 回目：難病療養者への在宅看護
12・13 回目：訪問看護ロールプレイ演習（グループワーク）
14・15 回目：訪問看護ロールプレイ演習（発表）

テキスト

ナーシンググラフィカ　地域・在宅看護論①　地域療養を支えるケア　メディカ出版
ナーシンググラフィカ　地域・在宅看護論②　在宅療養を支える技術　メディカ出版

参考書・指定図書

公衆衛生がみえる 2022-2023　メディックメディア

評価の方法

筆記試験 50%、課題レポート・グループワーク参加態度 50%

授業科目	区分	専門分野	
臨床推論	教育内容	成人基礎看護学	
	領域		
授業担当者	開講時期	単位	時間数
日野　由樹子	前期	1 単位	30 時間

授業の目的

臨床での看護実践につながるアセスメント能力を高めることを目指して、臨床看護師が行う臨床判断プロセスとアセスメントに役立つ視点を学ぶ。

授業の目標

1. 臨床推論の考え方の基本がわかり、臨床看護師が行う臨床判断のプロセスについて説明できる。
2. アセスメントに役立つ視点となる看護実践のためのコンセプトについて調べ、それぞれの概要を説明することができる。
3. 看護実践のためのコンセプトをシナリオに登場する患者のアセスメントに活用できる。
4. 患者の反応に関心を向け、看護行為を評価できる。
5. 主体的・対話的学びを通して、学習成果を深めることができる。

授業概要

臨床推論は看護師などの臨床家が判断するための思考過程を言う。臨床判断のプロセスに当てはめながら、シナリオに登場する患者を通して適切な患者の健康状態を判断（看護診断）し患者へ最適な看護を考える思考過程を学ぶ。基礎看護学実習Ⅲへも繋がるようにしたい。

グループワークを通して学生それぞれの看護の臨床判断の視点についても交流していく。

授業計画(進め方)

1 回目：臨床推論とは、臨床判断のプロセス（講義）

2～9 回目：コンセプト①に関する演習

10～15 回目：コンセプト②に関する演習

テキスト

ナーシンググラフィカ　基礎看護学②　基礎看護学技術Ⅰ　メディカ出版

参考書・指定図書

評価の方法

臨床推論の講義内で小テスト（20 点）、シミュレーション学習の課題レポート（80 点）で評価

授業科目	区分	専門分野	
老年看護援助論Ⅰ	教育内容	老年看護学	
	領域		
授業担当者	開講時期	単位	時間数
田安　和	前期～中期	1単位	30時間

授業の目的

高齢者の心身の加齢変化により日常生活に与える影響を理解し、生活行動を支援する方法を学ぶ。また高齢者の健康障害の特徴と看護を学ぶ。

授業の目標

1. 高齢者の加齢による変化と特徴を理解し、日常生活を維持するためのケアの方法を学ぶ。
2. 高齢者に起こりやすい主要徴候を理解し、治療を受ける高齢者へのケアの方法を学ぶ。
3. 高齢者看護に必要な技術を理解し実際を学ぶ。

授業概要

高齢者は様々な健康障害、機能障害を引き起こしやすい。いかに健康を維持していくのか、生活機能の回復をいかにして図っていくのかが、健康上の課題となる。そこで、高齢者の生活機能を整え、セルフケア能力を維持できるようなケアの方法を学ぶ。またその人らしさを尊重し健やかな老いを支えるケアを目指し、高齢者に合った看護援助をグループで検討し発表する演習を取り入れる。

授業計画(進め方)

1回目　高齢者の食を支える看護①　～食事　脱水　摂食嚥下障害～
2回目　高齢者の食を支える看護②　～低栄養　フレイル～
3回目　高齢者の排泄を支える看護　～排泄　尿失禁　排便障害～
4回目　高齢者の清潔・衣生活を支える看護～清潔・衣生活　掻痒　痛み・しびれ　感染症～
5回目　高齢者の活動と休息を支える看護①～活動と休息～
6回目　高齢者の活動と休息を支える看護②～視覚・聴覚障害　睡眠障害～
7回目　高齢者の歩行・移動を支える看護①～歩行・移動　骨粗鬆症　骨折～
8回目　高齢者の歩行・移動を支える看護②～廃用症候群　褥瘡～
9回目　高齢者の呼吸・循環を支える看護　～呼吸・循環障害について～
10回目　高齢者に特徴的な症状・疾患を支える看護～腎障害　浮腫　めまい　貧血　など～
11回目　発表に向けての準備　グループワーク①
12回目　発表に向けての準備　グループワーク②
13・14回目　事例をアセスメントし看護援助を考え発表する　(演習)
15回目　解説・まとめ

テキスト

ナーシンググラフィカ　老年看護学①　高齢者の健康と障害
ナーシンググラフィカ　老年看護学②　高齢者看護の実践
看護技術プラクティス　第4版　学研

参考書・指定図書

写真でわかる高齢者ケア　インターメディカ
看護がみえる vol.1　基礎看護技術　第1版　メディックメディア
看護がみえる vol.2　臨床看護技術　第1版　メディックメディア
看護がみえる vol.3　フィジカルアセスメント　第1版　メディックメディア

評価の方法

レポート(30%)　筆記試験(70%)で評価する

授業科目	区分	専門分野	
老年看護援助論Ⅱ	教育内容	老年看護学	
	領域		
授業担当者	開講時期	単位	時間数
田安　和	中期～後期	1 単位	30 時間

授業の目的

高齢者の心身の加齢変化により起こりやすい疾患について理解し、受診時から入・退院までの経過に沿って必要となる看護支援の方法を学ぶ。

授業の目標

1. 高齢者に起こりやすい疾患の看護を学ぶ
2. 治療が必要な高齢者への適切な看護援助を学ぶ
3. 事例を通し、老年看護展開の実際が理解できる

授業概要

高齢者は様々な健康障害、機能障害を引き起こしやすい。この単元では高齢者が健康に変調をきたし、医療機関への受診から入院そして退院に向けどのように看護を展開するのかケアの方法、そして事例を通して看護展開の実際を学ぶ。

授業計画(進め方)

1 回目　高齢者に起こりやすい疾患の看護①　～糖尿病　高血圧　脳卒中～
2 回目　高齢者に起こりやすい疾患の看護②　～パーキンソン病　癌～
3 回目　治療を受ける高齢者の看護①
4 回目　治療を受ける高齢者の看護②
5 回目　治療を受ける高齢者の看護③
6 回目　リハビリテーションを受ける高齢者の看護①
7 回目　リハビリテーションを受ける高齢者の看護②
8 回目　リハビリテーションを受ける高齢者の看護③
9～11 回目　事例による看護過程の展開　(情報の整理と解釈、看護計画の立案と修正)
12・13 回目　発表に向けての準備　グループワーク
14・15 回目　事例をアセスメントし看護援助を考え発表する　(演習)

テキスト

ナーシンググラフィカ　老年看護学①　高齢者の健康と障害　メディカ出版
ナーシンググラフィカ　老年看護学②　高齢者看護の実践　メディカ出版
ナーシンググラフィカ　成人看護学⑤　リハビリテーション看護　メディカ出版
ナーシンググラフィカ　成人看護学②　健康危機状況/セルフケアの再獲得　メディカ出版

参考書・指定図書

写真でわかる高齢者ケア　インターメディカ
写真でわかるリハビリテーション看護アドバンス　インターメディカ

評価の方法

課題レポート(30%)、演習レポート(20%)、筆記試験(50%)で評価する。

授業科目	区分	専門分野	
老年看護援助論Ⅲ	教育内容	老年看護学	
	領域		
授業担当者	開講時期	単位	時間数
小田嶋　陽子	後期	1単位	15時間

授業の目的

加齢に伴い感覚機能低下をきたした高齢者の特徴を理解し、症状に応じたケアの方法と生活支援のための看護を学ぶ。

授業の目標

視機能、聴覚･平衡感覚機能、皮膚機能、口腔機能が低下した高齢者や障害を持つ高齢者の主な症状について理解し生活を支援する看護の方法を学ぶ。

授業概要

加齢により口腔、皮膚や眼・耳・鼻等の感覚機能低下をきたすことは、生活する上で支障となることが多い。また情報量が少ないことは危険の回避ができにくい。加齢による機能低下の状態を理解し、安全に、また安心して生活できるよう、ケアの方法を学ぶ。主要疾患については、その誘因・特徴を学び、症状に応じた看護について学ぶ。

授業計画(進め方)

1回目　口腔症状に対する看護、義歯のケア、味覚障害のある患者の看護

2回目　耳鼻咽喉領域の患者の特徴と看護、検査に伴う看護

3回目　耳鼻咽喉領域の症状と疾患に対する看護
（難聴・メニエール病・アレルギー・慢性副鼻腔炎）

4回目　皮膚の機能と症状の特徴

5回目　皮膚の疾患（アトピー性皮膚炎・熱傷・帯状疱疹・疥癬）を持つ患者の看護
高齢者のスキンケア

6回目　眼疾患患者の特徴と症状（眼痛）に対する看護

7回目　眼疾患患者の検査（眼底、眼圧）・治療（白内障手術）を受ける患者の看護

8回目　筆記試験

テキスト

ナーシンググラフィカＥＸ　疾患と看護⑥　眼／耳鼻咽喉／歯・口腔／皮膚　メディカ出版

ナーシンググラフィカ　老年看護学①　高齢者の健康と障害　メディカ出版

ナーシンググラフィカ　老年看護学②　高齢者看護の実践　メディカ出版

参考書・指定図書

評価の方法

筆記試験：100点

授業科目	区分	専門分野	
認知症看護	教育内容	老年看護学	
	領域		
授業担当者	開講時期	単位	時間数
仲野谷　美貴子	前期～中期	1 単位	15 時間

授業の目的

認知症・せん妄の病態および基礎知識を学び、対象に応じた看護ができる能力を養う。

授業の目標

1. 認知症の病態と治療、せん妄について理解できる。
2. 認知症高齢者、せん妄患者へのケアを説明できる。
3. 認知症高齢者とその家族の支援体制を説明できる。

授業概要

2025 年には人口は全体の 30%、認知症患者は 462 万人、軽度認知症の人は 400 万人になると言われている。急性期病院においても認知症高齢者の入院の割合は高くなっている。認知症高齢者は入院後、環境の変化から行動・心理症状が悪化しやすく、せん妄の発症リスクも高い。また、転倒などの医療事故防止を重視し、身体拘束が実施されることで様々な弊害が生じ入院が長期化する傾向にある。

認知症高齢者が住み慣れた地域へ戻るためには、急性期医療を提供することと同様に適切な認知症ケアを提供していくことが課題となる。そのため認知症の病態やせん妄を理解すると共に、認知症高齢者を一人の生活者として捉える視点を持ち、個人の尊厳を保つ関わり方を学ぶ。

授業計画(進め方)

1 回目　認知症の疾患と特徴、治療について
2 回目　認知症の看護とせん妄について
3 回目　身体抑制の体験学習
4 回目　認知症高齢者との関わり方（動画視聴）
5 回目　認知症高齢者との関わり方（ロールプレイ）
6 回目　認知症の予防、家族への支援とサポートシステム
7 回目　認知症高齢者の意思決定支援
8 回目　試験

テキスト

ナーシンググラフィカ　老年看護学②　高齢者看護の実践　メディカ出版

参考書・指定図書

急性期病院で治療を受ける認知症高齢者のケア　日本看護協会出版社
認知症ケアの倫理　ワールドプランニング

評価の方法

筆記試験、演習内容

授業科目	区分	専門分野	
小児看護学概論	教育内容	小児看護学	
	領域		
授業担当者	開講時期	単位	時間数
秋山　祥子	前期	1 単位	30 時間

授業の目的

子どもを一人の権利を有する存在として捉え、多様化する地域社会の中で、子どもと家族が健やかに成長発達をしていくための支援について学ぶ。

授業の目標

1. 子どもの成長発達の特性や発達課題について理解する。
2. 子どもを取り巻く社会環境や健康問題を理解する。
3. 子どもの健康増進や人権を守るための制度とその活用方法について理解する。
4. 子どもと家族が健康な成長発達を遂げていくための支援を理解する。

授業概要

子どもの看護では「子どもを知る」ことがとても大事です。しかし、少子化や子どもの生活の変化から、日常的に子どもと接する機会は少なく、その特徴や日常生活を具体的にイメージするのは難しい現状にあります。この科目では「子ども」が成長発達していく存在であることを捉えます。また、子どもだけではなくその家族も大切な存在であり、看護の対象であることを学びます。

さらに、現代社会の諸問題や家庭環境が子ども・家族に及ぼす影響を知り、その子らしく健やかに成長発達していくための権利や制度および支援を学びます。

グループワークは、「子ども各期の成長発達の特徴と支援」をテーマに取組みます。ジクソー法でのグループワークを通し、各期の子どもを多角的にイメージできるようになることを目指します。この取組の成果が、続く小児看護援助論Ⅰ・Ⅱで活用されることを期待します。

授業計画（進め方）

1 回目　小児看護の目指すところ
2 回目　子どもと家族（諸統計・行政施策など）
3 回目　子どもの人権と看護
4 回目　子どもの成長発達の原則
　　発育・発達の評価
8・9 回目　子どもの栄養
11 回目　予防接種
　　学校保健
13 回目　子どもと家族を取り巻く諸問題（児童虐待・いじめ・不登校・育児不安など）
5・6・7・10・12・14・15 回目　子ども各期の成長発達と支援をテーマにグループワークをする。
※詳細は授業の中でガイダンスする。

テキスト

ナーシンググラフィカ　小児看護学①　小児の発達と看護　メディカ出版
ナーシンググラフィカ　小児看護学②　小児看護技術　メディカ出版

参考書・指定図書

随時、授業に関係があるものを紹介する。

評価の方法

筆記試験 60%　グループワーク（ルーブリックでの評価）40%

授業科目	区分	専門分野	
小児疾患の病態と診療	教育内容	小児看護学	
	領域		
授業担当者	開講時期	単位	時間数
平山 雅士	前～中期	1 単位	15 時間

授業の目的

心身の成長・発達の過程や、その異常と種々の疾患を学び、小児の特性に配慮した各疾患の具体的な看護につなげる。

授業の目標

小児特有の疾患について理解する。

授業概要

小児は成長・発達の時期であり、病態や疾患が成人とは異なる場合が多い。

小児期に多い疾患を取り上げ、考える。

授業計画（進め方）

1 回目　成長発達：小児の特性としての成長発達について
　　小児救急：火傷、溺水、熱中症、誤嚥、誤飲などについて

2 回目　出生前診断：遺伝、遺伝子病、胎児病などについて
　　新生児疾患：病的新生児、低出生体重児について

3 回目　代謝・内分泌疾患：小児期にみられる内分泌疾患（クレチン病・成長ホルモン分泌不全）について

4 回目　免　疫：免疫の現象と先天性免疫不全症などについて
　　感 染 症：小児期に多いウイルス性・細菌性感染症などについて

5 回目　呼吸器疾患：急性上気道炎や肺炎を中心に
　　循環器疾患：先天性心疾患を中心に、川崎病、起立性調節障害などについて

6 回目　血液疾患：血液の成り立ち、貧血など血液疾患を中心に
　　腫瘍疾患：小児に多い腫瘍性疾患、白血病などを中心に

7 回目　消化器疾患：小児に多い消化器疾患（肥厚性幽門狭窄症・腸重積症など）を中心に
　　泌尿器疾患：腎・尿路の働きとその疾患について

8 回目　神経疾患：先天性の神経疾患について
　　精神疾患：精神の発達とその障害について

テキスト

ナーシンググラフィカ 小児看護学③ 小児の疾患と看護 メディカ出版

参考書・指定図書

評価の方法

筆記試験

授業科目	区分	専門分野	
小児看護援助論Ⅰ	教育内容	小児看護学	
	領域		
授業担当者	開講時期	単位	時間数
近江　薫　　佐々木 正吾　他	中期	1単位	30時間

授業の目的

健康上の問題を持つ子どもと家族が、生活・療養するための看護実践に必要な知識を身につける。

授業の目標

1. 健康上の問題を持つ子どもと家族の心理および対応の方法を理解する。
2. 健康上の問題を持つ子どもと家族に対する看護援助の方法を理解する。
3. 子どもの発達段階を踏まえた看護援助の方法を学ぶ。

授業概要

健康上の問題は子どもの成長発達に大きな影響を与えます。小児看護学概論で学習した知識を基に、どのような影響を及ぼすのかを捉え、それらを最小限にするための関わりを学習します。

さらに、治療・処置は子どもにとっても健康回復のために必要なことです。しかし、大人では難なく行われることであっても、子どもの場合はその子の成長発達に合わせた関りが必要になります。子どもに行われる看護技術についていくつか取り上げ、基本技術の根拠と子どもの権利擁護や発達を踏まえた援助の在り方を学びます。

授業計画（進め方）

1・2回目　健康上の問題や入院が子どもと家族に及ぼす影響とその看護
3回目　外来受診をする子どもと家族の看護
4回目　検査や治療・処置を受ける子どもの看護
5回目　急性期にある子どもと家族
　　子どもの救急救命処置
6回目　慢性期にある子どもと家族
7回目　医療的ケアが必要な子どもと家族の看護
8回目　終末期にある子どもと家族
9回目　手術を受ける子どもと家族の看護
10回目　子どもとのコミュニケーション
11・12・13・14・15回目　小児看護技術　グループワーク
（環境調整・日常生活援助技術・症状生体機能の管理技術等）

テキスト

ナーシンググラフィカ　小児看護学①　小児の発達と看護　メディカ出版
ナーシンググラフィカ　小児看護学②　小児看護技術　メディカ出版

参考書・指定図書

筒井真優美　小児看護学　第8版　子どもと家族の示す行動への判断とケア　日総研
山元恵子　写真でわかる小児看護技術～小児看護に必要な臨床技術を中心に～　インターメディカ
浅野みどり　根拠と事故防止からみた小児看護技術　医学書院

評価の方法

筆記試験70%　グループワーク・課題の提出物30%
合計100点で評価する。

授業科目	区分	専門分野	
小児看護援助論Ⅱ	教育内容	小児看護学	
	領域		
授業担当者	開講時期	単位	時間数
秋山　祥子	中期～後期	1 単位	30 時間

授業の目的

健康障害のある子どもと家族が生活・療養するための看護実践に必要な知識・技術を身につける。

授業の目標

1. 健康障害のある子どもとその家族に対しての問題解決能力を養う。
2. 子どもの権利を擁護した看護技術を習得する。
3. 検査や処置受ける子どもへのプレパレーションを具体的に考えられる。

授業概要

子どもは身体機能が発達の途上にあることから大人よりも症状が出やすく、さらに重症化しやすいという特徴があります。子どもの解剖生理学的特徴を確認しながら、症状別看護を学習します。

子どもに看護を提供するうえで、その子の成長発達を捉えることは重要なポイントです。また、子どもの状態を一喜一憂しながら見守る家族の存在も忘れることはできません。紙面事例を通して成長発達を踏まえたアセスメント力を養うとともに、家族も視野に入れた問題解決能力を習得します。
また、子どもは認知理解力・対処能力の未熟さや生活体験の少なさから、療養生活での体験が心の傷として残る可能性もあります。子どもの持つ力を引き出す関わり関わり方を、プレパレーションを活用し考えます。

授業計画（進め方）

1 回目　子どもに出現しやすい症状と看護①　発熱　けいれん
2 回目　子どもに出現しやすい症状と看護②　呼吸困難　酸素療法
3 回目　子どもに出現しやすい症状と看護③　下痢　嘔吐　脱水　輸液療法
4 回目　子どもに出現しやすい症状と看護④　発疹　出血斑
5 回目　子どもに出現しやすい症状と看護⑤　アレルギー症状
6 回目　子どもに出現しやすい症状と看護⑥　痛み
7 回目　紙面事例による看護過程　演習（急性疾患・慢性疾患・周手術期）
8 回目　紙面事例による看護過程　演習
9 回目　紙面事例による看護過程　演習
10 回目　紙面事例による看護過程　演習
11 回目　紙面事例による看護過程　演習
12 回目　紙面事例による看護過程　交流会
13 回目　検査や治療・処置を受ける子どもへのプレパレーション　講義・演習
14 回目　検査や治療・処置を受ける子どもへのプレパレーション　演習
15 回目　検査や治療・処置を受ける子どもへのプレパレーション　交流会

テキスト

ナーシンググラフィカ　小児看護学①　小児の発達と看護　メディカ出版
ナーシンググラフィカ　小児看護学②　小児看護技術　メディカ出版
ナーシンググラフィカ　小児看護学③　小児の疾患と看護　メディカ出版

参考書・指定図書

筒井真優美　小児看護学　～子どもと家族の示す行動への判断とケア～　日総研
石黒彩子他　発達段階からみた　小児看護過程＋病態関連図　医学書院

評価の方法

筆記試験　50%・看護過程演習 30%・プレパレーション演習 20%
合計 100 点で評価する。

授業科目	区分	専門分野	
母性看護学概論	教育内容	母性看護学	
	領域		
授業担当者	開講時期	単位	時間数
大塚　紀子	前期～中期	1 単位	30 時間

授業の目的

母性に関する概念及び母性看護の対象である母親と子ども及びその家族の特徴を理解し、看護活動を展開するための基礎的知識を学ぶ。

授業の目標

1. 母性の基盤となる概念と特徴および人間の性と生殖を理解できる。
2. 現代社会における母性をめぐる課題および思春期・更年期の特徴と健康上の問題がわかる。

授業概要

母性看護の対象や母性とは何かを理解し、その特徴を学び、女性の一生を通じた健康の保持・増進を目指した看護の重要性を感じてほしい。また、母性にかかわる統計と政策、母性を取り巻く社会の現状および課題について学ぶ。授業に際しては、一部 TBL（チーム基盤型学習）とプロジェクト学習を取り入れ進行する。

授業計画(進め方)

1 回目　母性看護の基盤となる概念
2・3 回目　リプロダクティブヘルスに関する概念（TBL）
4 回目　リプロダクティブヘルスに関する動向（TBL）
5 回目　少子化バイバイ、さあ、秋田県のどの地域でも子どもを幸せに育てよう！プロジェクトガイダンス（プロジェクト学習）
6 回目　リプロダクティブヘルスに関する倫理（TBL）
7 回目　リプロダクティブヘルスに関する法や施策と支援（TBL）
8 回目　児童虐待防止に関する法律と支援
9 回目　ドメスティック・バイオレンスに関する法律と支援
10 回目　家族計画と受胎調節（TBL をベースとしたグループワーク）
11 回目　ライフサイクルからみた思春期の健康と看護・月経異常・性感染症（TBL）
12 回目　ライフサイクルからみた更年期の健康と看護（TBL）
13 回目　少子化バイバイ、さあ、秋田県のどの地域でも子どもを幸せに育てよう！プロジェクト（プロジェクト学習）
14・15 回目　プロジェクト学習発表会（プロジェクト学習）

テキスト

ナーシンググラフィカ　母性看護学①　概論・リプロダクティブヘルスと看護　メディカ出版

参考書・指定図書

公衆衛生がみえる　2022－2023　第 4 版　メディックメディア

評価の方法

筆記試験 40%，TBL50%（チーム得点＋ピア評価 30%　個人得点 20%）　プロジェクト学習 10 点

プロジェクト学習シラバス

科目名（副題）	母性看護学概論 秋田県、少子化改善プロジェクト！～地域で子どもを幸せに育てるために～
主講師 （ファシリテータ・協力者）	大塚紀子（スーパーアドバイザー：鈴木敏恵先生） （齊藤豊子／中川郁子）
受講対象	2年生
学習概要 （社会的意義）	＜背景＞ 現在の社会は、少子高齢化社会が進行している。また、コロナ禍において、少子化は一層進み、子育て世代もステイホームが続き、母子密着型の子育てになり、地域の社会資源も活用しづらい状況にある。さらに、経済的にも不安定になった子育て世代もいる。秋田県は、2023年の高齢化率は、39.3％となっており、全国1位である。少子化についても出生数は3992人、出生率は4.3で過去最少のペースとなっており、少子化は進んでいる。 その背景として、未婚率が高い、また、子育て世代の人口が少なく、都市に流出している。子育て世代が産む子どもの数が少ないことが考えられる。結婚要因には、地域の経済・雇用環境や保育・子育てサポートが影響し、第2子要因には、地域の経済・雇用環境が明らかになっている。 秋田県「少子化要因調査・分析事業」報告書（平成31年3月）「あきたの結婚・子育て応援情報Webサイト　いっしょにねっと」より。 ＜プロジェクト学習の展開＞ 母性を初めて学ぶ2年生が、以下のようなプロジェクト学習を展開する。 市町村には様々な子育て支援に有効な施設やサポートがあるが、「子育て世代」は十分に知らないもしくは、利用しにくい状況がある。また、夫婦の望む子どもの数と実際の子どもの数に違いがあり、子育てしにくいのでは‥」と受けとめ、望む子供の数より少ない現状もある、この現状を踏まえ、次のようなビジョンとゴールの元に、プロジェクト学習を実施していくものである。 ＜少子化バイバイ、さあ！秋田県のどの地域でも子どもを幸せに育てよう！プロジェクト＞ 将来親になる可能性がある自分（看護学生）、その自分の地域の少子化対策や社会資源の現状を調査し、事例の子育て世帯に必要な社会資源を使い、安心して子産み子育てできる環境を考える。少子化を一刻も早く改善させるべく、子育て世代が活用できる地域の母子保健サービスを提案します。 ＊　ビジョン（願い）：秋田県に暮らす「子育て世代」をサポートしたい ＊　ゴール（具体的な目標）：秋田県の少子化を改善させる地域の母子保健サービスを提案します！ ＜社会的意義＞ ＊　地域から若い世代が流出することを低減できる ＊　コロナ禍で、仕事ができない人、働きながら子育てする人たちに貢献できる ＊　少子化の要因の一つとも言える「地域の子育て環境の現状」を明確にすることで 今後の環境改善や行政の方向性などに貢献できる
キーワード	子育て、支援、地域、プロジェクト学習

©2016 シンクタンク未来教育ビジョン 鈴木敏恵 All Rights Reserved.
一切の無断転載・翻訳等を禁ず。教育機関で使用される場合は、必ず出典『AI 時代の教育と評価　アクティブラーニングからアクティブシンキングへ』を明記してください。

身につく力	専門知 □国の少子化対策の知識（現状と方向性） □地域（市町村）の少子化対策 □少子化対策に関連する法律の知識 □子育て世帯の公的支援のニーズ □子育ての世帯の現状把握 □子育て環境の変化	普遍知 □課題発見力 □チームで１つの事を成し遂げる体験 □目標に向かう力 □プレゼンテーション力 □ 目の前の現実から正確な情報を獲得する力 □ データを読み解く力
学習アウトカム	自分の住む地域の少子化対策の社会資源を知り、必要とされる支援を考えられる	
評価方法	ポートフォリオ評価（成果や成長のプロセス） 評価材料：元ポートフォリオ、凝縮ポートフォリオ、プレゼンテーション、他者評価	
実施月日 4月下旬～ 6月上旬	4～5月　5～6 月　7～8 月 準 備　ﾋﾞｼﾞｮﾝ･ｺﾞｰﾙ　計 画　情報･解決策　制 作　ﾌﾟﾚｾﾞﾝ　再構築　成長確認	
講義室・場所	教室２または図書室	
展開内容	講義	
	４月　シラバスによりプロジェクト内容の説明	
	２回目（５）　事例紹介、ゴールシート・ポートフォリオ作成 時間外　コーチング	
	３回目（13）　チームで凝縮ポートフォリオ作成（e ポートフォリオ） 時間外　プレゼン準備	
	４回目（14・15）　凝縮ポートフォリオを用いて発表会	
ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ学習 e ﾗｰﾆﾝｸﾞ	http://www.mm-miraikyouiku-onlinecourse.com/	
テキスト・参考図書	ナーシンググラフィカ　母性看護学①　概論・リプロダクティブヘルスと看護　メディカ出版	
履修要件	プロジェクト学習参加	
他講義との関連	家族論　社会学　公衆衛生学　社会福祉　関係法規　小児看護学概論　地域・在宅看護論　周産期の診療　妊産婦の援助論　母と子の援助論	
受講生へのメッセージ	自分たちも将来地域で、子どもを産み育てる可能性があります。現在の社会の少子化対策とニード、自分たちが同様の立場になったら将来必要と考える対策について、想像を膨らませながら考えてほしい。自分の住む地域秋田の将来を担う皆さんが、安心して子どもを産み育てる環境や支援を考えてほしい。	

©2016 シンクタンク未来教育ビジョン 鈴木敏恵 All Rights Reserved.
一切の無断転載・翻訳等を禁ず。教育機関で使用される場合は、必ず出典『AI 時代の教育と評価　アクティブラーニングからアクティブシンキングへ』を明記してください。

授業科目	区分	専門分野	
周産期の診療	教育内容	母性看護学	
	領域		
授業担当者	開講時期	単位	時間数
小西　祥朝　　三浦　康子	中期	1 単位	15 時間

授業の目的

妊娠・分娩・産褥の生理学的な経過と診断・検査と、起こりやすい異常について理解し、健康を回復させるための方法を学ぶ。さらに新生児の異常について学ぶ。

授業の目標

妊娠・分娩・産褥および新生児の正常な経過と異常について理解する。

授業概要

女性は産む性・育む性としての生殖機能を持っている。単に疾患別に捉えるのではなく、産む性である女性の健康と権利の側面からも考えられるようにしたい。

授業計画(進め方)

1～3 回目　正常妊娠・正常分娩

1. 妊娠の成立と経過
2. 正常分娩と産褥期
3. 正常新生児

4～7 回目　異常妊娠・異常分娩

1. ハイリスク妊娠、合併症妊娠
2. 妊娠期の感染症
3. 妊娠期の異常
4. 分娩の異常、産科手術

8 回目　試験

テキスト

ナーシンググラフィカ　母性看護学②　母性看護の実践　メディカ出版

ナーシンググラフィカ　母性看護学③　母性看護技術　メディカ出版

参考書・指定図書

評価の方法

筆記試験

授業科目	区分	専門分野	
妊産婦の援助論	教育内容	母性看護学	
	領域		
授業担当者	開講時期	単位	時間数
中川　郁子	中期～後期	1 単位	30 時間

授業の目的

1. 妊娠・分娩期の身体的・心理・社会的変化、胎児の成長について理解する。
2. 新しい家族の誕生期にある人々が健康生活を営むための看護実践に必要な基礎的知識と技術について理解する。

授業の目標

1. 妊娠期の母体の変化と心理・社会的特性、胎児の成長発達、ハイリスク妊娠および異常について理解する。
2. 分娩機序と分娩経過、産婦の身体的、心理・社会的変化やハイリスク状態への看護がわかる。

授業概要

周産期にある女性の身体的・精神的・社会的側面を理解すると共に、各期が正常に経過するために必要な援助、よりよい出産体験への援助の重要性、妊娠各期の対象のセルフケア能力を高めるための援助方法について学習する。また、ハイリスク状態にある人々を理解し、その看護について学習する。授業形態としては、一部に協同学習(TBL)を取り入れ授業を進行する。技術演習を通して、妊産婦の看護を実践するために必要な技術の実際を学ぶことで、根拠に基づいた援助技術を身につける。

授業計画(進め方)

1 回目　不妊症と看護
2 回目　妊娠の成立・妊娠期の身体的特性（TBL）
3 回目　妊娠と胎児のアセスメント、出産を控えた妊婦と家族の心理と看護
4 回目　妊婦健康診査時の看護技術（TBL）
5 回目　妊娠と不快症状、妊婦の日常生活とセルフケア（TBL）
6 回目　出産と子育ての準備のための看護
7 回目　ハイリスク状態にある妊婦、胎児の看護
8 回目　分娩の経過と胎児の健康状態　～産婦と胎児のアセスメント～（TBL）
9・10 回目　分娩の経過と看護 ～ 産婦のニーズ、産婦と家族の心理～
11・12 回目　ハイリスク状態にある産婦および胎児の看護
13 回目　ペリネイタルロスを経験した産婦や家族の看護（課題レポート）
14・15 回目　妊婦体験と妊婦健康診査の実際、産痛緩和、胎盤計測　（演習 / 課題レポート）

テキスト

ナーシンググラフィカ　母性看護学②　母性看護の実践　メディカ出版
ナーシンググラフィカ　母性看護学③　母性看護技術　メディカ出版

参考書・指定図書

病気がみえる vol.10　産科　第 4 版　メディックメディア

評価の方法

筆記試験、TBL、課題レポートで総合的に評価する。

授業科目	区分	専門分野	
母と子の援助論	教育内容	母性看護学	
	領域		
授業担当者	開講時期	単位	時間数
齊藤　豊子	中～後期	1 単位	30 時間

授業の目的

褥婦・新生児の特徴を理解し、新しい家族の誕生期にある人々が健康生活を営むための看護実践に必要な基礎的知識と技術について理解する。

授業の目標

1. 産褥期の身体的・心理社会的変化の理解および必要な看護がわかる。
2. 新生児の特徴と生理的変化の理解および必要な看護がわかる。
3. 異常をもつ褥婦・新生児の看護がわかる。

授業概要

シミュレーション課題に取り組み、褥婦の退行性・進行性変化、精神・社会的側面の理解と必要な看護およびセルフケアについて学習する。また、新生児が胎外生活へ適応していく過程を理解し、生理的変化や適応に向けた援助について学習する。さらに、異常をもつ褥婦・新生児の理解およびその看護について学習する。協同学習を取り入れ授業を進行するため、主体的に参加してほしい。

母性看護を実践するために必要な技術（看護過程の展開方法、保健指導技術、沐浴、新生児の諸計測など）の演習によって、根拠に基づいた援助技術を身につける。

授業計画（進め方）

1 回目　産褥経過と看護
2 回目　産褥期の日常生活と看護
3 回目　産褥期の看護技術
4 回目　ハイリスク状態にある褥婦の看護（帝王切開術後を含む）
5 回目　出生直後の看護
6 回目　早期新生児期にある新生児の看護
7 回目　ハイリスク状態にある新生児の看護
8・9 回目　沐浴，新生児身体計測，新生児バイタルサイン測定，育児体験（演習）
10～12 回目　看護過程演習
13 回目　看護過程交流会
14・15 回目　保健指導／ロールプレイ

テキスト

ナーシンググラフィカ　母性看護学②　母性看護の実践　メディカ出版
ナーシンググラフィカ　母性看護学③　母性看護技術　　メディカ出版

参考書・指定図書

病気が見える vol. 10　産科　第 4 版　メディックメディア

評価の方法

筆記試験及び課題の提出とルーブリック評価表に基づき（看護過程・保健指導）評価する。

授業科目	区分	専門分野	
精神看護学概論	教育内容	精神看護学	
	領域		
授業担当者	**開講時期**	**単位**	**時間数**
伊藤　智幸　　渡部　暢子	前期	1 単位	30 時間

授業の目的

精神の発達と健康における諸問題を理解し、精神看護の意義と役割を学ぶ。

授業の目標

1. 精神の発達と機能が理解できる。
2. 社会環境が精神の健康に及ぼす影響が理解できる。
3. 精神保健福祉サービスと法制度について理解できる。

授業概要

精神の健康は環境の影響を受けやすい。この授業では、すべての人々の精神の発達と環境に対する精神の反応を学ぶ。また、精神障害者を取り巻く社会の変化と制度を知ることで、精神看護の意義と役割を学習する。進行・内容はテキスト通りではないので、テキストは授業の補助として使用する。

授業計画(進め方)

1 回目	1 章	なぜ精神看護学を学ぶのか（導入）	【担当：伊藤・渡部】
2 回目	1 章	こころの健康と障害	【担当：伊藤】
3 回目	11 章	精神医療の歴史と看護	↓
4・5 回目	2 章	こころの理解・こころと環境	↓
6・7 回目	11 章	精神保健医療福祉の法制度	↓
8 回目		＊テスト①　7 回目までの範囲	【担当：渡部】
	3 章	人格の発達	↓
9 回目	4 章	各期の発達課題	↓
10 回目	9 章	倫理と人権	【担当：伊藤】
11 回目	5 章	現代社会とこころの問題	↓
12 回目		＊テスト②　8・9 回目の範囲	↓
	1 章	集団（グループ）との関係	【担当：渡部】
13 回目	7 章	家族との関係	↓
14 回目	②7 章	「地域で暮らす」を支える	【担当：伊藤】
15 回目	12 章	精神看護に関わる資格	↓
		後日＊テスト③　10～15 回目の範囲	

テキスト

ナーシンググラフィカ　精神看護学①　情緒発達と精神看護の基本　メディカ出版
ナーシンググラフィカ　精神看護学②　情緒障害と看護の実践　　メディカ出版

参考書・指定図書

評価の方法

授業内で 2 回、終了後日に 1 回、計 3 回筆記試験を行い、その合計点（100 点満点）で評価する
提出物の遅滞・未提出は減点とする

授業科目	区分	専門分野	
精神疾患の病態と診療	教育内容	精神看護学	
	領域		
授業担当者	開講時期	単位	時間数
沓澤 理　　菅原 美紀	前期～中期	1 単位	30 時間

授業の目的

精神疾患について理解し、看護援助のあり方を理解する。

授業の目標

1. 精神疾患の診断と治療方法について理解し、看護援助を展開できる能力を養う。
2. 精神症状のある患者の状態を評価し、看護援助を計画的に施行する能力を養う。

授業概要

最初に主な精神症状と症状の組み合わせによってまとめられる精神状態像の主要なものについて理解してもらう。次に、精神医療で用いられる主な検査、治療法について理解してもらう。

授業計画(進め方)

1～6 回目（担当：沓澤）　7 回目（担当：菅原）

1. 精神症状の考え方
   精神症状（1）：思考の障害
2. 精神症状（2）：自我意識の障害、感情の障害、意欲・行動の障害、知覚の障害
3. 精神症状（3）：意識障害、知能の障害、記憶の障害、精神状態像、神経症状（巣症状）
4. 神経学的補助検査法
   精神疾患の治療（1）：薬物療法①
5. 精神疾患の治療（2）：薬物療法②
   電気けいれん療法
6. 精神疾患の治療（3）：精神療法、行動療法、集団精神療法、家族療法、社会療法
7. 心理検査

授業概要

主な精神疾患について学習し、理解を深める。精神科の各論にあたる。

授業計画(進め方)

8～9 回目（担当：菅原）

8. 神経症・心因反応
9. パーソナリティー障害、精神遅滞、心身症

10～15 回目（担当：沓澤）

10. 統合失調症
11. 気分障害
12. 摂食障害、睡眠障害、てんかん
13. 器質性精神障害（1）：認知症、症状精神病
14. 器質性精神障害（2）：精神作用物質による精神障害
15. 小児期・青年期に発症する行動および精神障害、発達障害

テキスト

ナーシンググラフィカ 精神看護学② 精神障害と看護の実践 メディカ出版

参考書・指定図書

評価の方法

筆記試験

授業科目	区分	専門分野	
精神看護援助論Ⅰ	教育内容	精神看護学	
	領域		
授業担当者	開講時期	単位	時間数
藤原　美加子　　高階　康子	前期～後期	1 単位	30 時間

授業の目的

精神障害患者を理解し、精神科における看護技術を習得することにより、適切な看護診断・展開能力を養う。

授業の目標

1. 患者と看護師の関係を理解し、コミュニケーション技術を習得することができる。
2. 症状や疾患に応じた看護師の対応方法が理解できる。
3. 精神科における治療と看護の役割・身体ケアを理解できる。
4. 地域社会で生活するために必要な社会資源の活用や家族への支援について理解できる。

授業概要

患者との相互関係を通して援助関係を確立し、発展させていく能力を身につけることは、看護師にとって重要な課題である。看護の視点、患者との関係を成立・発展させていくために必要な技術について学習する。臨床での事例を紹介しながら、症状・疾患に応じた基本的対応について理解を深める。

授業計画(進め方)

＜1～11 回目　担当：藤原＞

1～2 回目　精神科看護における対象の理解
- ・精神科での援助におけるアセスメントの視点
- ・治療の場の人間関係

3～6 回目　精神科看護におけるケアの方法
- ・「治療的関わり」の考え方
- ・日常生活行動の援助
- ・服薬治療に関わる援助

7～9 回目　入院環境と治療的アプローチ
- ・治療の場としての精神科病棟
- ・治療的環境を整える
- ・精神科病棟での語りの場：ミーティングの事例から考える
- ・災害時地域精神保健医療活動

10～11 回目　救急医療現場における患者支援と精神的関わり
- ・自殺企図により救急搬送される患者
- ・急性薬物中毒で救急搬送される患者

＜12～15 回目　担当：高階＞

12～15 回目　「地域で暮らす」を支える
- ・日本における精神障害者と精神病床の現状
- ・「入院医療」から「地域社会」での生活へ
- ・地域生活を支える社会資源の活用
- ・地域生活（移行）支援の実際
- ・事例で学ぶ　長期入院患者の退院支援から地域生活支援
- ・家族への支援
- ・災害時の支援

テキスト

ナーシンググラフィカ　精神看護学②　精神障害と看護の実践　メディカ出版

参考書・指定図書

評価の方法

筆記試験

授業科目	区分	専門分野	
精神看護援助論Ⅱ	教育内容	精神看護学	
	領域		
授業担当者	開講時期	単位	時間数
渡部 暢子	中期～後期	1単位	15時間

授業の目的

精神看護実践の基本となるコミュニケーション技法について考察し、精神科における看護アセスメントの仕方やレクリエーションの意義について学ぶ。

授業の目標

1. 精神科における看護アセスメントの仕方がわかる。
2. プロセスレコードの記載の仕方がわかる。
3. 精神看護におけるレクリエーションの特徴がわかる。

授業概要

これまで学んできた精神看護学を基盤に、看護実践について学ぶ場としたい。そこで、精神看護学実習で活用することを前提に、看護アセスメントの仕方、プロセスレコード記載の演習を行う。また、治療的レクリエーションの意義を学び、そこで果たすべき看護の役割を学ぶ。

授業計画(進め方)

1～3回目　プロセスレコード
- ・プロセスレコードの意義
- ・演習（ロールプレイからプロセスレコードを記載）
- ・プロセスレコードを用いてグループでカンファレンス

4～6回目　精神科における看護アセスメントについて
- ・講義で考え方を知り、演習（ペーパーシミュレーション）

7回目　精神科におけるリハビリテーション
- ・レクリエーションの意義・演習（企画書の作成）

8回目　レクリエーション企画書のグループ発表・評価

テキスト

ナーシンググラフィカ 精神看護学② 精神障害と看護の実践　メディカ出版

参考書・指定図書

ナーシンググラフィカ 精神看護学① 情緒発達と精神看護の基本 メディカ出版

評価の方法

演習の提出物、授業態度・出席状況などを総合して評価する。

授業科目 看護研究方法論	区分	専門分野	
	教育内容	看護の統合と実践	
	領域		
授業担当者 菅原 晴美	開講時期	単位	時間数
	前期～中期	1 単位	30 時間

授業の目的

看護における研究の意義を理解し、研究に取り組むための基礎知識を身につける。

授業の目標

1. 看護研究のプロセスを学ぶ。
2. 文献検索の重要性とその方法について学ぶ。
3. 看護研究の方法について、その要点と留意点について学ぶ。
4. 看護の文献を実践や研究に活用できるよう、文献クリティークの方法を学ぶ。

授業概要

研究のプロセスに沿い、何をどのように計画することで研究可能となるのか、論文をどのようにしてまとめるかを学ぶ。特に、研究や学習を進める上で欠かすことの出来ない文献検索の方法や研究計画書の作成、統計的なデータ分析の方法を、ワークを通して学ぶ。文献クリティークの方法と実際についても学び、看護リフレクションⅡで取り組むケースレポート作成に活かしていくことになる。授業全般を通して、「看護学では何のために研究するのか」を考えながら学習してほしい。

授業計画(進め方)

1 回目 看護研究とは何か 研究の概観
　　看護研究のはじめ方―リサーチクエスチョンをたてる
2 回目 文献レビューとその方法
3 回目 文献検索の実際 (1)
4 回目 文献検索の実際 (2)
5 回目 研究における倫理的配慮
6 回目 研究デザイン (1)
7 回目 研究デザイン (2)
8 回目 データの収集
9 回目 データ分析
10 回目 研究計画書
11 回目 論文の作成、研究の発表
12 回目 ケーススタディ・事例研究・実態調査研究
13 回目 文献クリティークの方法
14 回目 文献クリティークの実際 (1)
15 回目 文献クリティークの実際 (2)

テキスト

系統看護学講座 別巻 看護研究 医学書院
佐藤淑子・和田佳代子編著 JJN SPECIAL 看護師のための Web 検索・文献検索入門 医学書院

参考書・指定図書

南裕子編集 看護における研究 日本看護協会出版会
富田美加・松本直子著 看護にいかす文献検索入門 学び続けるための情報探索スキル 中央法規

評価の方法

筆記試験・ワークレポート

授業科目	区分	専門分野	
基礎看護学実習Ⅱ	教育内容	臨地実習	
	領域		
授業担当者	開講時期	単位	時間数
工藤　洋平	前期	2単位	80時間

授業の目的

対象に応じた看護過程を展開する基本的能力を身につける。

授業の目標

1. 対象を身体的・精神的・社会的側面から把握し、看護の必要性が判断できる。
2. 対象にあった看護計画を立案できる。
3. 計画に基づき看護が実践できる。
4. 実施した援助を評価できる。
5. 看護実践を通じて自己の看護観を養う。

授業概要

本実習では、対象を身体的・成因的・社会的側面から捉え、看護計画の立案および実践・評価の看護過程の方法を学ぶ。入院療養中の患者1名を受け持ち、対象との関係を築きながら、発達段階・生活習慣・背景などの情報をカルテやコミュニケーションを通して収集する。得た情報は看護過程記録用紙を用いて分類し、解剖生理、病理などの知識を活用し、科学的根拠に基づき解釈・分析（アセスメント）する。アセスメント結果を基に看護上の問題を明らかにし、問題の優先順位を判断、看護目標の設定や個別性を考慮した具体策の立案、実践・評価すると共に、立案した看護計画に沿って実践・評価する。看護実践を通して観察した患者の反応からアセスメントや計画について追加・修正を行う。既習の知識や技術を生かしながら、対象の個別性を捉えた看護過程の展開を目指す。さらに、見学や実践した看護活動を通し、自らの看護に対する考えを深めて欲しい。

授業計画(進め方)

1. 日程・実習場所は、ガイダンスに準じる。
2. 患者１名受け持ち看護過程の展開をする。
3. それぞれの看護計画及びサマリーをケースカンファレンスで検討する。
4. 看護計画に基づいて毎日の行動計画を立て、実践する。
5. １日の実習内容と学びはカンファレンスで交流した後、看護過程用紙に整理し、翌日提出する。
6. 実習終了カンファレンスで看護についての学びを交流する。

テキスト

ナーシング・グラフィカ　基礎看護学②　基礎看護技術Ⅰ　メディカ出版
ナーシング・グラフィカ　基礎看護学③　基礎看護技術Ⅱ　メディカ出版
竹尾惠子監修　看護技術プラクティス　第４版　学研
高木永子監修　看護過程に沿った対症看護　第５版　学研
山口瑞穂子・関口恵子監修　疾患別看護過程の展開　第６版　学研

参考書・指定図書

看護がみえる　vol.3　フィジカルアセスメント　第１版　メディックメディア

評価の方法

実習評価表に基づいて評価する。

授業科目	区分	専門分野	
基礎看護学実習Ⅲ	教育内容	臨地実習	
	領域		
授業担当者	開講時期	単位	時間数
日野　由樹子	前期	2単位	80時間

授業の目的

対象の病態整理を理解した上で看護実践し、気づき・解釈・反応・省察のプロセスを通して臨床判断能力の基礎を養う。

授業の目標

1. 対象を多面的に把握し、病態・治療を理解した上で、対象に合った看護援助がわかる。
2. 対象の情報を意味づけ、その場に応じた看護ができる。
3. 看護実践を省察し、必要な看護を追求できる。
4. 円滑な人間関係を形成できる。
5. 成長報告により、価値ある成長と願望を確認できる。

授業概要

本実習では、その場その場の患者の状態を判断し実践できる能力を養うため、気づき・解釈・反応・省察のプロセスを通して臨床判断の基礎を学ぶ実習である。「看護師のように考える」ことをめざし、対象への「今」一番必要な看護を実現するための思考を学ぶ。

患者一人を受け持ち、情報獲得しながら関連図を作成し、全体像を把握する。患者目標（ゴール）を決定、看護の方向性を明確化し、対象に起こりうる問題を理解した上で、行動予定を立て看護実践する。その際の気づき・解釈、反応、省察をする。臨床指導者・教員との実践から「何に気づき、どう解釈し、どのように行動しているか」、看護師の思考過程が学べるようにしていく。

実習ポートフォリオを作成し、自ら考えて学んだ内容を時系列で入れていくことで、学習や自分目標（ゴール）への成長プロセスを可視化できるようにする。

授業計画(進め方)

1. 日程・実習場所は、ガイダンスに準じる。
2. 自分目標（ゴール）、事前学習を入れた実習ポートフォリオを作成する。
3. 患者情報を記録用紙に整理し、患者目標（ゴール）、学習内容を実習ポートフォリオに入れる。
4. 患者の全体像を把握し、看護の方向性、起こりうる問題から行動予定を立てる。
5. 看護実践し、気づき・解釈、反応、省察したことを記録用紙4にまとめる。
6. 記録用紙4を用いて臨床判断の学びカンファレンスを行い、グループで交流する 。
7. 実習で獲得したことや学び（ゴール）のプロセスをプレゼンテーションし、成長確認する。

テキスト

ナーシンググラフィカ　基礎看護学②　基礎看護技術Ⅰ　メディカ出版
ナーシンググラフィカ　基礎看護学③　基礎看護技術Ⅱ　メディカ出版
看護技術プラクティス　第4版　学研
看護過程に沿った対象看護　第5版　学研
疾患別看護過程の展開　第5版　学研

参考書・指定図書

看護がみえる　vol.1　基礎看護技術　第1版　メディックメディア
看護がみえる　vol.2　臨床看護技術　第1版　メディックメディア
看護がみえる　vol.3　フィジカルアセスメント　第1版　メディックメディア

評価の方法

実習評価表に基づいて評価する。

授業科目	区分	専門分野	
成人・老年看護学実習Ⅰ	教育内容	臨地実習	
	領域		
授業担当者	開講時期	単位	時間数
渡部 絵美	中期	2単位	80時間

授業の目的

急性期・周手術期にある対象に、患者の状況に即した看護を判断し実践する能力を養う。

授業の目標

1. 急性期・周手術期にある対象を多面的に把握し、病態・治療を理解した上で、対象に合った看護の方法がわかる。
2. 対象の状態を状況に応じて適切な観察ができ、情報の意味づけをし、その場に応じた看護を考え行動できる。
3. 自分の看護判断・看護実践を省察し、その人らしい暮らしを支えるために必要な看護を追求できる。
4. 対象の価値観を認め、円滑な人間関係を形成できる。
5. チームにおける看護の専門性を理解できる。
6. ポートフォリオを活用して看護実践を通じて得た学びを共有できる。

授業概要

本実習は急性期・周手術期を対象に健康に急激な変化や身体に大きな侵襲を受けたことで、身体的苦痛や精神的にも不安を抱きやすい患者の全身状態がどのように変動するか予測して、患者の状況に即した看護を実践することを学ぶ。また、術後起こりやすい合併症について、予防と早期発見のための観察を行い、退院を見据えた離床や退院支援の方法を学ぶ。

授業計画(進め方)

1. 日程・実習場所はガイダンス用紙に準じる。
2. 実習ポートフォリオを作成し実習を展開する。
3. 患者を1～2名受け持ち看護を実践する。
4. 日々の状況に即した観察・アセスメント・実践を行い、自らの臨床判断プロセスを振り返る。
5. 手術室事前見学を行い、機会があれば受け持ち患者の手術見学をする。

テキスト

ナーシンググラフィカ 成人看護学④ 周手術期看護 メディカ出版
ナーシンググラフィカＥＸ 疾患と看護③ 消化器 メディカ出版
病気がみえる Vol.1 消化器 第5版 メディックメディア
ナーシンググラフィカＥＸ 疾患と看護⑦ 運動器 メディカ出版
ナーシンググラフィカＥＸ 疾患と看護② 循環器 メディカ出版

参考書・指定図書

山口瑞穂子、関口恵子監修 系統別看護過程の展開 第5版 学研
中島恵美子、伊藤有美監修 これならわかる！ 術前・術後の看護ケア ナツメ社

評価の方法

成人・老年看護学実習Ⅰのルーブリック評価に沿って評価

授業科目	区分	専門分野	
成人・老年看護学実習Ⅱ	教育内容	臨地実習	
	領域		
授業担当者	開講時期	単位	時間数
中川　郁子	中期	2 単位	80 時間

授業の目的

回復期にある対象や慢性疾患を抱える対象に、患者やの状況に即した看護を判断し実践する能力を養う。

授業の目標

1. 回復期にある対象や慢性疾患を抱える対象を多面的に把握し、病態・治療を理解した上で、対象に合った看護の方法がわかる。
2. 対象の状態･状況に応じて適切な観察ができ、情報の意味づけをし、その場に応じた看護を考え行動できる。
3. 自分の看護判断・看護実践を省察し、その人らしい暮らしを支えるために必要な看護を追求できる。
4. 対象の価値観を認め、円滑な人間関係を形成できる。
5. チームにおける看護の専門性を理解できる。
6. ポートフォリオを活用し、看護実践を通して得た学びを共有できる。

授業概要

本実習は、回復期にある対象や慢性疾患を抱える対象の特徴を理解し、その人らしい生活を支える看護について学ぶ。これまでその人が生活していた家庭や社会における役割、生活習慣、価値観や心理的側面を理解することが求められる。回復期にある対象への看護を通して、変化した身体機能に合わせた日常生活行動の獲得やセルフケア獲得に向けたアプローチ方法を学ぶ。慢性疾患を抱える対象への看護を通して、疾病と上手く付き合い、その人らしい生活や生き方を実現していくことを支援するアプローチ方法を学ぶ。また、対象への医療チームアプローチの実際を知ることで、チームにおける看護の役割・機能について理解を深めることができる。

授業計画(進め方)

1. 日程･実習場所はガイダンス用紙に準じる。
2. 回復期にある、または慢性疾患を抱える、成人期または老年期の患者を受け持つ。
3. 看護計画に基づいて毎日の行動目標・行動予定を立て、実践する。
4. 実習内容と学びを日々のカンファレンスで交流する。
5. 受け持ち期間中の看護計画と実践を評価カンファレンスで検討する。
6. 実習ポートフォリオを用いて、実習で獲得したことや学びをプレゼンテーションし合い、知の共有をする。

テキスト

ナーシンググラフィカＥＸ　疾患と看護①　呼吸器　メディカ出版
ナーシンググラフィカＥＸ　疾患と看護⑤　脳・神経　メディカ出版
ナーシンググラフィカＥＸ　疾患と看護⑦　運動器　メディカ出版
ナーシンググラフィカＥＸ　疾患と看護⑧　腎／泌尿器／内分泌・代謝　メディカ出版

参考書・指定図書

山口瑞穂子、関口恵子監修　疾患別看護過程の展開　学研
看護がみえる vol.3　フィジカルアセスメント　第１版　メディックメディア
ナーシンググラフィカ　基礎看護学③　基礎看護技術Ⅱ　メディカ出版
竹尾惠子監修　看護技術プラクティス　第４版　学研

評価の方法

成人・老年看護学実習Ⅱ評価表に沿って評価する。

3学年

2024年度 教育課程（3学年）

区分	教育内容	科目	単位	時間数	備考	掲載ページ
基礎分野	科学的思考の基盤	法学	1	15	試験時間含む	142
	人間と生活、社会の理解	英語	1	30	試験時間含む	143
	小計		2	45		
専門基礎分野	人体の構造と機能	運動生理学	1	15		144
	健康支援と社会保障制度	総合保健医療論	1	15	試験時間含む	145
	小計		2	30		
専門分野	基礎看護学	看護リフレクションⅢ	1	30		146
	看護の統合と実践	看護管理と医療安全	1	30		147
		国際看護	1	15		149
		災害看護	1	15		150
		看護技術の統合	1	30		151
		多職種連携	1	15	試験時間含む	153
	臨地実習	地域・在宅看護論実習	2	80		154
		成人・老年看護学実習Ⅲ	3	120		155
		小児看護学実習	2	80		156
		母性看護学実習	2	80		157
		精神看護学実習	2	80		158
		看護の統合と実践	3	120		159
	小計		20	695		
総合計			24	770		

授業科目	区分	基礎分野	
法学	教育内容	科学的思考の基盤	
	領域	人間の暮らし	
授業担当者	開講時期	単位	時間数
中川　修一	前期	1単位	15時間

授業の目的

これから法学を学ぼうとする受講生に、実質社会において法の役割分担を、入門的な理解を通じて法的な考え方になれるように授業を進める。

授業の目標

社会において、法と日常生活がどのような形でかかわっているのかが分かり、わかりやすくなる。

授業概要

ここでは、従来のような法学の教科書のようなテーマごとに関係するものを全て、何でもかんでも詰め込んで教えるわけではありません。皆さんの日常生活で法とどのように結びついているかを理解していただくこと。また、社会人になった時、「気づくこと」「調べること」「考えること」を授業を通じて理解していただくこと。

授業計画(進め方)

1回目　法とは何か

2・3回目　生活を守る法

(1) 交通事故と法

(2) 売買や賃貸借など契約と暮らしに関する法

(3) ライフスタイルの選択

(4) お金にまつわる問題

4・5回目　法と制度と施策（社会保障と社会福祉・保険法）

(1) 医療封建制度（保障）

(2) 年金制度

(3) 医療と法

(4) 障害者問題

6回目　成人後見制度

7回目　労働者保護法（一連のハラスメント）

8日目　財産の行方（死んでからでは遅い）

テキスト

末川博編　法学入門　有斐閣

参考書・指定図書

授業の時に説明します。

評価の方法

小テスト、期末試験などを含め総合評価します。

授業科目	区分	基礎分野	
英語	教育内容	人間と生活・社会の理解	
	領域	人間の暮らし	
授業担当者	開講時期	単位	時間数
大西　洋一	前期	1 単位	30 時間

授業の目的

国際化が進む日本の医療機関において、看護師として将来活用しうる英語能力の基礎を養う。

授業の目標

1. 医療に関する基本的な英文を正確に理解できる。
2. 医療現場における基本的な英会話表現を使用できる。
3. 医療従事者として学ぶべき、基本的な英語の専門用語を理解できる。

授業概要

この授業では、医療分野の専門用語を体系的に解説しながら、医療現場において使用される基本的な英文や会話表現に関する演習を行う。

授業計画(進め方)

各回の授業においては、以下に示された教科書の各ユニットのテーマに関する英語の口語表現及び医療専門用語の理解を目的として演習を行う。

1 回目 Is this your first visit to this hospital?
2 回目 What's the matter?
3 回目 You need to see a Dermatologist.
4 回目 Let me direct you to Radiology.
5 回目 Let's check your height and weight.
6 回目 I need to ask you some questions.
7 回目 Can you describe the pain?
8 回目 Rest your arm on the armrest.
9 回目 Please make a follow-up appointment.
10 回目 Take this medicine after meals.
11 回目 Your operation will be this afternoon.
12 回目 Are you feeling more comfortable now?
13 回目 This is an emergency.
14 回目 Tests show you have high sugar levels.
15 回目 試験

テキスト

山中マーガレット (Margaret Yamanaka)『看護系学生のための実践英語 (*English for Nurses*) [改訂版]』(朝日出版社, 2021 年)

参考書・指定図書

受講の際には英和辞典 (電子辞書でも紙辞書でも可) を持参すること

評価の方法

各回の授業におけるワークシートと、その学習のまとめとしての期末テストによって評価する。

授業科目	区分	専門基礎分野	
運動生理学	教育内容	人体の構造と機能	
	領域	人間理解	
授業担当者	開講時期	単位	時間数
松下　翔一	前期～中期	1 単位	15 時間

授業の目的

現代人の行動特性から、生活習慣病等への影響を理解する。また、より良い健康行動を再確認することによって QOL の維持及び向上のために必要な方法を学ぶ。そして、看護の側面から、健康の理解と解決のあり方について学ぶ。

授業の目標

1. 「健康」の維持に不可欠な要素を実践及び向上に結びつけて説明することができる。
2. QOL の維持及び向上に向けた日常を実践できる。
3. 患者の健康回復に向け、身体活動をより良い支援に応用することができる。

授業概要

1. 運動生理学の基礎理論を基に、身体活動やスポーツの実際を行う。
2. 理論や実際を通して、自身の生活習慣の改善の一助としてもらいたい。
3. 危険の予測や怪我の予防も踏まえた上で、前に踏み出す勇気を持って取り組んでもらいたい。

授業計画(進め方)

1 回目　運動による身体の変化とスポーツの意義について（講義）
2 回目　バレーボール（実技）
3 回目　バレーボール（実技）
4 回目　バレーボール（実技）
5 回目　ドッヂボール（実技）
6 回目　ドッヂボール（実技）
7 回目　卓球・バドミントン（実技）
8 回目　卓球・バドミントン（実技）

テキスト

特になし

参考書・指定図書

筋力トレーニングの理論と実践　Vladimir Zatsiorsky（大修館書店）

評価の方法

レポート（50 点）及び実技（50 点）の評価による。

授業科目	区分	専門基礎分野	
総合保健医療論	教育内容	健康支援と社会保障制度	
	領域	人間の健康	
授業担当者	開講時期	単位	時間数
小貫　渉	前期～中期	1 単位	15 時間

授業の目的

1. 保健医療福祉体系の中で、看護の役割と仕組みを理解できる能力を養う。
2. 専門職としての倫理的態度を習得し、医療・看護に関わる本質的問題に対する自己の考えを深める。

授業の目標

1. 保健医療福祉体系の中での看護専門職としての役割と機能がわかる。
2. 医療・看護の質向上を図るための組織や患者の権利を擁護する方法がわかる。
3. 医療経済の基礎を理解する。

授業概要

医療に関する様々な問題点と、社会保障制度について理解を深める。

授業計画(進め方)

1 回目　医学・医療の歴史と現代の医療の問題

2 回目　生活環境と疾病構造の変化

3 回目　医療保険制度と医療供給体制

4 回目　社会保障制度における平等とは

5・6 回目　医療における患者の権利（インフォームドコンセントについて）

7 回目　医療統計について

8 回目　試験

テキスト

新体系 看護学全書　専門基礎　現代医療論　メヂカルフレンド社

参考書・指定図書

評価の方法

筆記試験およびレポート

授業科目	区分	専門分野	
看護リフレクションⅢ	教育内容	基礎看護学	
	領域		
授業担当者	開講時期	単位	時間数
渡部暢子	前期～中期	1単位	30時間

授業の目的

臨地実習の場面を通して、看護実践状況の中で生じた、実践知を自覚し、リフレクティブサイクルに応じ、客観的に振り返る思考のプロセスを学ぶ。

授業の目標

1. 臨地実習の場面を通して、実践知を自覚し、リフレクティブサイクルに応じ、自己の看護場面について振り返ることができる
2. ナラティブからリフレクティブな思考を深めることができる。

授業概要

看護におけるリフレクションは、日々の看護実践の中で行われる暗黙知や技を可視化・言語化するプロセスである。リフレクションを学ぶことは、看護実践の質を向上させ、看護専門職として成長し続けていくための有用なスキルである。本科目は、2年次に学んだスキルを活用し、臨地実習の場面をリフレクションする。実習終了後に自らの経験を価値化することで、省察する力を高めることができると考える。ナラティブからリフレクティブな思考や多様性の理解も深めることができる。

授業計画(進め方)

1回目　看護リフレクションⅢとは（講義・演習）

2～13回目までは、小児、母性、地域・在宅、精神の4つの実習科目で3回ずつ行う。

例）2～4回目　小児看護学実習の場面のリフレクション
5～7回目　母性看護学実習の場面のリフレクション
8～10回目　地域・在宅看護論実習の場面のリフレクション
11～13回目　精神看護学実習の場面のリフレクション
14回目　看護の統合と実践実習の場面のリフレクション
15回目　看護の統合と実践実習のリフレクション（再構成したグループで交流）

テキスト

看護の教育・実践にいかすリフレクション　－豊かな看護を拓く鍵－　　南江堂

参考書・指定図書

看護のためのリフレクションスキルトレーニング　　看護の科学社
「シミュレーション教育の効果を高める」ファシリテーターSkills&Tips　　医学書院

評価の方法

各実習場面でリフレクションシート提出、リフレクションアセスメント指標を用いた評価
レポート

授業科目 看護管理と医療安全（1） 看護管理	区分	専門分野	
	教育内容	看護の統合と実践	
	領域		
授業担当者 松岡　淳子　　佐藤　稔	開講時期	単位	時間数
	中期	1 単位	30 時間 （看護管理 16 時間）

授業の目的

1. 保健医療福祉体系の中で、看護の役割とサービス提供の仕組みを学ぶ。
2. 看護を組織として機能させるための看護管理の目的や機能を学ぶ。

授業の目標

1. 保健医療福祉制度の中で看護専門職としての役割と機能がわかる。
2. 医療・看護サービスを提供するための組織の構造や機能がわかる。
3. 医療行為・看護行為の法的責任や倫理、患者の権利を擁護する方法がわかる。

授業概要

我が国は、2035 年には 3 人に 1 人が高齢者になると予測されており、地域包括ケアシステムの推進に伴い、医療の主体が病院から在宅・地域へと移行し、看護師への期待、求められる能力も変化している。その中で、看護師は看護専門職としての役割・機能を正しく認識し、チーム医療において協働性や主体性、倫理性などの能力を発揮すること必要である。

授業を通じて、どんな場所で役割発揮していくのか、どんな看護を提供していきたいのか考えられる機会にしていきたい。

授業計画（進め方）

1 回目：看護制度と看護政策、診療報酬
2 回目：看護管理のシステム
3 回目：組織とリーダーシップ
4 回目：看護サービス
5 回目：看護管理の実際①～働く人を育て活かすマネジメント～
6 回目：看護管理の実際②～モノ・カネ・情報の管理～
7 回目：看護組織の活動と倫理
8 回目：看護専門職としてのキャリア

テキスト

ナーシンググラフィカ　看護の統合と実践①　看護管理　メディカ出版

参考書・指定図書

看護管理学習テキスト　第 3 版　2021 年版　　第 1 巻～第 5 巻　日本看護協会出版会

評価の方法

筆記試験

看護管理と医療安全 100 点満点中の 50 点

授業科目	区分	専門分野	
看護管理と医療安全（2） 医療安全	教育内容	看護の統合と実践	
	領域		
授業担当者	開講時期	単位	時間数
村上 裕子　　齊藤 由美子	前期～中期	1 単位	30 時間 （医療安全 14 時間）

授業の目的

医療の現場に潜む危険を認識し、回避する方策と患者安全上すべき事を理解し、医療従事者として患者および自らの安全を守る事の重要性を学ぶ。

授業の目標

1. 医療安全の重要性を理解する。
2. 医療の中の危険と回避のシステムを知る。
3. 医療従事者として安全を守るために“すべき事”と“してはならない”事を理解する。

授業概要

看護師は医療サービスの最終行為者となることが多く、医療サービス提供の場である病院では様々な危険が存在する。医療事故防止は、組織的な安全のためのシステム作りと看護師が危険を予知し、安全のための対策を実施することが重要である。

リスクマネジメントは、医療事故の未然防止・再発防止、苦情の防止、医療訴訟対応といった連続的な関わりに対して取り組まれるものであり、その目的は人権の尊重と医療の質の確保と質の向上である。日本の医療安全対策の動向や過去の医療事故など具体的事例をもとに参加型授業形式とする。

授業計画(進め方)

1 回目　医療安全と看護の理念、看護学生の実習と安全
2 回目　医療安全への取り組みと医療の質の評価
3 回目　事故発生のメカニズムとリスクマネジメント
4 回目　患者・家族との協同と安全文化の醸成
5 回目　看護業務に関連する医療事故と安全対策
　　在宅看護における医療事故と安全対策
6 回目　医療事故後の対応
　　医療従事者の安全を脅かすリスクと対策①
　　(医療機器の使用に関わるもの・医薬品への暴露・患者、同僚および第三者による暴力)
7 回目　医療従事者の安全を脅かすリスクと対策②
　　(感染の危険を伴う病原体への曝露とその予防策)

テキスト

ナーシンググラフィカ　看護の統合と実践②　医療安全　メディカ出版
新体系統看護学全書　看護の統合と実践①　看護実践マネジメント　医療安全　メヂカルフレンド社

参考書・指定図書

成績評価の方法

授業への参加態度と筆記試験
医療安全と災害看護 100 点満点中の 50 点

授業科目	区分	専門分野	
国際看護	教育内容	看護の統合と実践	
	領域		
授業担当者	開講時期	単位	時間数
夏原　和美	前期	1 単位	15 時間

授業の目的

国際保健・看護に関しての概要を理解するとともに、多様な価値観を受け入れ、文化を考慮したケアを行うのに必要な「固定概念にとらわれない幅広く柔軟な考え方」を身につける

授業の目標

1. 世界的な健康課題とその背景、課題への取り組みについて事例を挙げながら説明できる。
2. 保健医療分野の国際協力活動の目的と方法について機関の特徴と結び付けながら説明できる。
3. 看護を行ううえでの文化的配慮の必要性を理由とともに説明できる。
4. さまざまな文化的背景を持つ対象者への配慮の必要性を認識し、ケアを工夫する姿勢がある。

授業概要

これからの看護師には、文化への理解を持ち個人を深く捉え対応する能力と、地球全体を含めた環境へのグローバルな視点が求められている。私たちが生きている社会の特徴を踏まえ、そこで人権を尊重した看護を行うためには何が必要かを考えていく。授業ではテーマについて知識をインプットするだけでなく、自分の考えをまとめ、それを共有するグループディスカッションの時間を持つことで、多様な考え方に触れる機会とする。

授業計画(進め方)

1 回目　授業の進め方オリエンテーション/ 世界の現状を想像する・知る
2 回目　文化とケア
3 回目　世界の人びとの健康課題・健康に関わる諸要因
4 回目　プライマリ・ヘルスケア
5 回目　国際協力活動・国際医療活動
6 回目　世界のセクシュアル・リプロダクティブヘルス/ライツ
7 回目　世界の看護師
8 回目　学びの俯瞰

テキスト

テキストは特に指定せず、プリントを配布する

参考書・指定図書

Where There Is No Doctor. (20240207 アクセス確認)
http://hesperian.org/books-and-resources/resources-in-japanese/#

評価の方法

毎回の事前事後課題 50%、最終テスト 50%
以上から総合的に評価します。発表協力や良い質問などで加算点あり。

授業科目	区分	専門分野	
災害看護	教育内容	看護の統合と実践	
	領域		
授業担当者	開講時期	単位	時間数
佐藤　玲希	中期	1単位	15時間

授業の目的

災害が人々の健康や生活に影響を及ぼすことを理解し、災害サイクルにおける被災者の健康や生活のニーズに応じた看護の役割について学ぶ。

授業の目標

1. 災害および災害看護に関する基礎的知識を理解する。
2. 災害サイクルにおける看護支援活動を理解する。
3. 災害が人々の健康やこころ・生活に及ぼす影響を理解する。
4. 避難所運営、トリアージについて体験的に理解する。

授業概要

災害が社会の変化や地域の人々の暮らしと密接に関係しながら、人々の健康やこころ・生活に影響することを理解し、災害サイクルにおける被災者の健康や生活のニーズに応じた看護の役割について学ぶ。

授業計画(進め方)

1回目　災害および災害看護に関する基礎的知識
- 災害の歴史と災害・災害看護の定義
- 災害の種類と健康被害・疾病の特徴
- 災害に関する法制度、防災・減災マネジメント

2回目　災害時の支援体制と災害医療活動の特徴
3回目　災害サイクルにおける看護支援活動と配慮を必要とする人への看護
4回目　被災者と支援者の心理の理解と援助、目に見えない災害への対応と課題
5・6回目　【演習】避難所運営の実際　(ペーパーシミュレーション)
7回目　トリアージ
8回目　【演習】トリアージ (DVDの事例を用いて)

テキスト

ナーシンググラフィカ　看護の統合と実践③　災害看護　メディカ出版

参考書・指定図書

小井土雄一　石井恵美子　多職種連携で支える災害看護～身につけるべき知識・スキル・対応力～　医学書院
小原真理子　酒井明子監修　災害看護　心得ておきたい基本的な知識　南山堂
小原真理子監修　演習で学ぶ災害看護　南山堂

評価の方法

授業及び演習への参加姿勢と筆記試験で総合評価 (100点満点)

授業科目	区分	専門分野	
看護技術の統合	教育内容	看護の統合と実践	
	領域		
授業担当者	開講時期	単位	時間数
田安　和	中期	1 単位	30 時間

授業の目的

複数事例に対して看護技術を運用し、評価する方法の基礎を学ぶ。

授業の目標

1. 複数事例の健康上の問題を査定し、看護計画が立案できる。
2. 複数事例の多重課題・複雑性に対し、ベッドサイドで的確に情報獲得し、優先順位の決定、実施・評価ができる。
3. 看護チームにおける連絡・報告・相談の重要性がわかる。

授業概要

健康レベルの異なる複数事例の看護計画を立案し共有することで、アセスメント力の向上につなげる。臨床現場を想定した多重課題のシナリオ作成とロールプレイングを通して、ベッドサイドで的確に情報獲得し優先順位を決定、行動できる力を養う。また、看護チームにおける連絡・報告・相談の重要性について学ぶ。

授業計画(進め方)

1 回目	授業計画ガイダンス、事例提示	講義
2～4 回目	2 事例のアセスメント・看護計画立案	個人ワーク
5 回目	看護計画発表会	グループ学習
6 回目	講義「多重課題への対処」	講義
7～9 回目	シナリオ作成、ロールプレイング準備	プロジェクト学習(グループ学習)
10 回目	講義「記録(実践結果、評価)の仕方」 ロールプレイング準備	講義 プロジェクト学習(グループ学習)
11・12 回目	ロールプレイング発表会 記録(実践結果、評価)	プロジェクト学習(グループ学習) 個人ワーク
13・14 回目	記録指導を受け修正	個人ワーク
15 回目	振り返りレポート、授業のまとめ	講義、個人ワーク

テキスト

ナーシンググラフィカ　看護の統合と実践①　看護管理　メディカ出版
ナーシンググラフィカ　基礎看護学①　看護学概論　メディカ出版

参考書・指定図書

課題に準じる。

評価の方法

①看護計画：35 点　②シナリオ、ロールプレイング：42 点　③振り返りレポート、全体：23 点
教員による評価、グループによる評価、自己評価　　合計 100 点で評価する。

プロジェクト学習・シラバス

科目名(副題)	看護技術の統合 「臨床から的確に情報獲得し優先順位を決定、行動しよう！」プロジェクト
主講師(ﾌｧｼﾘﾃｰﾀ・協力者)	田安　和（秋山・清水・工藤・渡部（絵））
受講対象	3年生　名
学習概要 (社会的意義)	臨床現場での多重課題対応を想定したシナリオを作成し、患者・家族・看護師をリアルに演じる。複数事例の多重課題・複雑性に対し、ベッドサイドで的確に情報獲得する力、優先順位を決定し行動する力を養う。また、看護チームにおける連絡・報告・相談の重要性について理解を深める。
キーワード	臨床多重課題 、 情報獲得、 優先順位、 時間管理、 連絡・報告・相談
身につく力	**専門知** □優先順位を判断し行動する力 □業務量と自己の力量を照合し、事前準備・時間配分する力 □看護チームにおいて、適時に連絡・報告・相談・協力依頼する力 □患者・家族に説明し同意を得る力 **普遍知** □観察する力、状況をつかむ力 □情報を見極める力、目の前の事態に対応する力 □情報を取捨選択する力 □コミュニケーション力、根拠をもとに説明する力、他者のプレゼンから学びとる力 □成長や成果を評価する力、より成長しようとする意欲
学習アウトカム	「臨床多重課題シナリオ」、ロールプレイング
評価方法	評価表に基づく「臨床多重課題シナリオ」とロールプレイングの評価(学生・教員評価)
実施月日 月　日～　月　日	8月～10月 ―――――――――――――――→ 11月 準 備 ｜ ﾋﾞｼﾞｮﾝ・ｺﾞｰﾙ ｜ 計 画 ｜ 情報・解決策 ｜ 制 作 ｜ プレゼン ｜ 再構築 ｜ 成長確認
講義室・場所	教室、図書室、演習室
展開内容 **ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ学習** ビジョン：看護チームの一員として、臨床現場で多重課題・複雑性に対応できるようになりたい。 ゴール：臨床から的確に情報獲得し優先順位を決定、行動できる	**講義・AL**　／　**自学** 事前：8～10月臨地実習場で情報収集(臨床現場で看護師はどのような多重課題に遭遇しやすく、どのように対応しているか。看護師を観察、看護師にインタビュー等)〈個人ワーク〉 1回目／授業全15回：2事例の人物想定(「R10シート」作成)〈グループワーク〉 →看護計画立案〈個人ワーク〉 6回目：〈講義〉臨床多重課題への対応 7・8・9回目：2事例に同時対応する「臨床多重課題シナリオ」を作成〈グループワーク〉 10 回目：ロールプレイングの準備・練習〈グループワーク〉 11・12 回目：ロールプレイング発表会〈全グループ合同〉
ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ学習 e ﾗｰﾆﾝｸﾞ	http://www.mm-miraikyouiku-onlinecourse.com/
テキスト・参考図書	ナーシング・グラフィカ　看護の統合と実践①　看護管理　メディカ出版 ナーシング・グラフィカ　基礎看護学①　看護学概論　メディカ出版
履修要件	老年・小児・母性・精神看護学実習、在宅看護論実習の全単位を修得し、看護の統合と実践実習の履修を控えた学生
他講義との関連	看護の統合と実践実習(複数患者受け持ち、メンバー看護師業務見学、夜間実習)
受講生へのメッセージ	臨床現場で看護師が遭遇しやすい多重課題対応をイメージし模擬体験することで、直後に控えた「看護の統合と実践実習」(初めての複数患者受け持ち)や、数か月後の新人看護師としての業務遂行に活かしてほしい。

©2016 シンクタンク未来教育ビジョン 鈴木敏恵 All Rights Reserved.
一切の無断転載・翻訳等を禁ず。教育機関で使用される場合は、必ず出典『AI 時代の教育と評価　アクティブラーニングからアクティブシンキングへ』を明記してください。

授業科目	区分	専門分野	
多職種連携	教育内容	看護の統合と実践	
	領域		
授業担当者	開講時期	単位	時間数
渡部　暢子	前期	1単位	15時間

授業の目的

地域包括ケア・地域共生社会の実現のために、多様な場で暮らす、さまざまなライフステージ・健康レベルにある対象の健康や生活を守る保健・医療・福祉の提供に向けて、お互いの職種の特性を活かしながら、対象の目標達成、課題解決に向けて、よりよい方法をともに検討し実現をめざす基礎的能力を養う。

授業の目標

1．多職種の役割と責務について、多職種と共有する
2．多職種間のコミュニケーション能力を身につける
3．対象者志向の倫理観をもつ
4．多職種間で対象者の目標を共有する
5．対象者の目標達成、ケアの質向上に向けてともに考える
6．多職種協働・連携に向けての展望をともに語る

授業概要

看護師の役割、チームアプローチについては1．2年次の講義で基礎的知識は学んでいる。臨地実習では、多職種カンファレンスを見学する場面もある。本科目では、複数の職種の学生と共通の事例に取り組み、「専門職連携の実際」を体験し学ぶ機会とする。

多職種の学生と一つのチームになり、対象の目標達成、課題解決に向けてよりよい方法を討議することで、役割の違いや連携の意義と協働にむけて方向性を理解できる力を養って欲しい。

授業計画(進め方)

1回目　・多職種連携とは　・関連職種連携ツールとしてのICF　・多職種の役割機能理解
2・3回目　・専門職連携学習の準備：看護師の役割、事例提示　看護計画、倫理的態度
4回目　【学外演習】協同学習：専門職連携学習の実際「多職種の役割理解、相互理解・尊重」
5回目　・専門職連携の実際の準備：看護計画、カンファレンス内容
6回目　【学外演習】協同学習：専門職連携学習の実際「対象の目標共有」
7回目　・専門職連携学習の成果　リフレクション
8回目　筆記試験

使用のテキスト

ナーシンググラフィカ　基礎看護学①　看護学概論　メディカ出版

参考書・指定図書

現場から学ぼう！看護師のための多職種連携攻略本　著者メディッコ　株式会社シービーアール

成績評価

筆記試験および課題・参加態度により総合的に評価する

授業科目	区分	専門分野	
地域・在宅看護論実習	教育内容	臨地実習	
	領域		
授業担当者	開講時期	単位	時間数
堀井　喜世子	前期～中期	2 単位	80 時間

授業の目的

地域で生活する人々とその家族の健康と暮らしを総合的に理解し、在宅看護を必要とする人々が望んでいる生活や生き方を支援できる看護の実践能力を養う。

授業の目標

1. 地域で生活する障害者、高齢者を支える福祉施設の機能、役割を理解できる
2. 地域包括ケアシステムの実際を理解し、その推進について考えることができる
3. 福祉施設や地域包括ケアシステムにおける多職種の役割を学び、看護職の専門性を理解できる
4. 地域で生活する対象の健康問題・健康要求について捉えることができる
5. 在宅看護の対象である療養者とその家族を理解できる
6. 在宅療養者と家族への援助の実際が理解できる
7. 在宅における看護師の役割を理解できる
8. 実習を通じて自身も地域で生活する在宅ケアシステムの一員としてふさわしい行動ができる
9. ポートフォリオを活用し、目指すゴールに向かい、自身の看護観を高めることができる

授業概要

本実習は、複合老人福祉施設リンデンバウムいずみ（特別養護老人ホーム、デイサービスセンター、地域包括支援センター）、福祉複合施設ウェルビューいずみ（障害福祉サービスセンター）、中通訪問看護ステーション、中通ケアプランセンター、中通健康クリニックで行う。

施設実習では、地域で生活する人々を支える多様な場での見学、実践を通して福祉施設の機能や役割、地域包括ケアシステムの実際を学ぶ。また、多職種の中の看護職の専門性を理解し、地域包括ケアシステムの推進について考える機会とする。訪問看護ステーション実習では訪問看護師、ケアマネジャーとの同行訪問を通し、地域で暮らす人々の実際を学ぶ。在宅看護の特徴や在宅療養者と家族との関わり方を学び、在宅における看護師の役割と機能を理解する。また、健康クリニック実習を通じて、保健活動について考える機会としたい。

実習を通じて、多くの専門職と接する機会がある。多職種とどのように連携・協働を図っているのか、それが何に向かっているのかを考え、看護の専門性とは何かを深めてほしい。

授業計画(進め方)

1. 複合施設実習 4.5 日間、訪問看護ステーション、ケアプランセンター、及び健康クリニック実習を合わせて 4.5 日間とする。
2. 施設実習では、0.5～1 日間ずつグループを数名に分けて各施設を周る。見学が中心となるが、可能な範囲で修得できているケアを実践する。日々の記録に、実践記録とともに、各施設の役割や看護職の役割についてまとめる。更に、各専門職の講義を受け学びを深める。施設実習のまとめとして、5 日目にカンファレンスを行う。
3. 訪問看護実習では複数の療養者に訪問し、ケースごとに臨床判断プロセスを用いて訪問記録をまとめ、訪問看護職の役割を考えられるようにする。1 ケースで在宅看護過程関連図を作成し、療養者の全体像を捉えられるようにする。ケアプランセンターでは、ケアマネジャーとの同行訪問場面を臨床判断プロセスを用いて記録し、その役割や多職種連携の在り方や地域包括ケアシステムについて考えられるようにする。健康クリニックでは見学を通じて、その機能について学びと考察を記録する。
4. 実習最終日に、実習ポートフォリオを用いて、成長報告を行う。

テキスト

ナーシンググラフィカ　地域療養を支えるケア　メディカ出版
ナーシンググラフィカ　在宅療養を支える技術　メディカ出版

参考書・指定図書

公衆衛生がみえる 2022-2023　メディックメディア

評価の方法

ルーブリックに基づいて評価（教員・臨地実習指導者 80%、学生自己評価 20%）

授業科目	区分	専門分野	
成人・老年看護学実習Ⅲ	教育内容	臨地実習	
	領域		
授業担当者	開講時期	単位	時間数
田安　和	前期～中期	3 単位	120 時間

授業の目的

成人期・老年期にある対象を総合的に理解し、機能障害を抱える対象の生活の維持・向上に向けての看護を実践できる能力を養う

授業の目標

1. 対象の生活背景を捉え、身体的・精神的・社会的側面から総合的に把握することができる
2. 対象の生活機能の維持・向上に向け、科学的根拠に基づいた看護を展開できる
3. 対象の価値観を認め、円滑な人間関係を形成できる
4. 医療チームにおける看護の専門性を理解できる
5. 看護実践を通じて、自己の看護観を高めることができる

授業概要

本実習は疾患や加齢による機能障害を抱えた患者を受け持ち、科学的根拠に基づいて必要な看護を実践できる基礎能力(知識・技術・態度)を養う総合的な学習である。様々な機能低下が日常生活にどのような影響をもたらすのかを捉え、患者の強み、願いを考慮した目標を設定し、セルフケアの自立に向けた支援の方法を学ぶ。臨地実習要綱の学習内容を意識し、行動目標を達成できるように主体的に学習を進めて欲しい。本実習では、3 年次の実習の中で比較的技術経験ができる実習でもある。積極的に経験し自信を持ってできる技術を増やす機会として欲しい。

授業計画(進め方)

中通リハビリテーション病院　3 階病棟または 4 階病棟にて実習を行う

1. 患者を 1 名受け持ち、患者の個別性を考慮した看護過程を展開し実践する
2. 見学や実践を通し、成人期・老年期にある患者の日常生活援助の方法を学ぶ
3. 実践・カンファレンス等を通し、患者理解を深め看護アプローチについて考える
4. 実践や評価会議を通して、チーム医療の在り方や連携と協働、リハビリテーションに関わる各専門職種の役割、およびチームの中の看護師の役割について考えを深める

テキスト

ナーシンググラフィカ　老年看護学①　高齢者の健康と障害　メディカ出版
ナーシンググラフィカ　老年看護学②　高齢者看護の実践　メディカ出版
ナーシンググラフィカ　成人看護学⑤　リハビリテーション看護　メディカ出版
ナーシンググラフィカ　成人看護学②　健康危機状況/セルフケアの再獲得　メディカ出版

参考書・指定図書

評価の方法

成人・老年看護学実習Ⅲのルーブリック評価表に基づいて評価する。

授業科目	区分	専門分野	
小児看護学実習	教育内容	臨地実習	
	領域		
授業担当者	開講時期	単位	時間数
秋山　祥子	前期～中期	2 単位	80 時間

授業の目的

子どもの成長発達を理解し、子どもと家族がその人らしく健康な社会生活を営んでいくために必要な看護を実践する基礎的能力を養う。

授業の目標

1. 保育所に通う健康な乳幼児の成長発達の特徴と日常生活の実際を理解する。
2. 対象の子どもおよび家族の価値観を認め、円滑な人間関係を形成できる
3. 対象の子どもと家族を多面的にとらえ、病気・入院・治療が及ぼす影響を理解できる。
4. 対象の子どもの状況に応じた健康の維持・回復のための支援方法がわかる。
5. 子どもの安全管理における責任と事故防止がわかる。
6. 小児看護の役割と保健医療福祉チームの連携が理解できる。
7. 子どもや家族との関りを通して、自己の看護観を深め、今後の課題を明らかにする。

授業概要

保育所実習では保育活動に参加することで、成長発達は個別的であることに気付き、その子に合わせた関わりの重要性を学ぶ機会となります。また、子どもとの遊びの中でコミュニケーションや子どもの権利を守るとはどういうことかを実践的に学びましょう。

病院実習では、主に健康障害を持つ子どもと家族に関わり看護を展開します。健康障害が子どもや家族にどのような影響を及ぼすのかを多面的に捉え、どのような支援が必要かを考えます。

また、子どもにとって馴染みのない環境や医療行為は健康回復のために必要であるとともに、恐怖や不安を感じる体験でもあります。子どもの心理的影響を最小限にするための、プレパレーションやインフォームド・アセントについて考え実践してみて下さい。

少子化・多様化する社会の中で次世代を担う子どもへの関心が高い一方、育児不安や児童虐待などの社会的な問題も耳にします。全ての子どもがその子なりにしあわせに調和した成長発達を遂げるには、医療・福祉・教育の連携が不可欠です。社会情勢にも目を向けながら関係機関や職種の役割を考えてみましょう。

授業計画（進め方）

○保育所実習
- ならやま認定こども園またはウェルビューいずみこども園のいずれかで 3 日間行う。
- 園の活動や遊びに参加し、乳幼児の成長発達の特徴や関り方を実践的に学ぶ。

○病院実習
- 入院中の子どもを受持ち、看護過程を展開する。
- 見学や実践を通し、小児看護技術を学ぶ。
- カンファレンスで見学や実践したことを交流し、様々な発達段階や疾患に対する看護を学ぶ。さらに、子ども観や子どもの看護について考える。

○小児科外来・乳幼児健康診査・病児保育室の見学実習
- 看護師が活動する小児科外来・乳児健診・病児保育室の見学実習をする。
- 見学後、情報の共有とともに子ども・家族が地域・社会の中で健やかに成長発達することを支える看護について意見交換をさせる。

テキスト

ナーシンググラフィカ　小児看護学①　小児の発達と看護　メディカ出版
ナーシンググラフィカ　小児看護学②　小児看護技術　　メディカ出版
ナーシンググラフィカ　小児看護額 3　小児の疾患と看護　メディカ出版

参考書・指定図書

筒井真優美　小児看護学～子どもと家族の示す行動への判断とケア～　日総研
浅野みどり他　発達段階からみた小児看護過程＋病態関連図　医学書院
山元恵子　写真でわかる小児看護技術～小児看護に必要な臨床技術を中心に～　インターメディカ

評価の方法

小児看護学実習ルーブリック評価表に基づき評価する。

授業科目	区分	専門分野	
母性看護学実習	教育内容	臨地実習	
	領域		
授業担当者	開講時期	単位	時間数
齊藤　豊子	前期～中期	2 単位	80 時間

授業の目的

1. 妊娠・分娩・褥婦・新生児期の心身の変化を理解し、健康を保持・増進していくために必要な知識・技術・態度を学習する。

授業の目標

1. 妊娠・分娩・産褥各期の生理的変化と援助内容がわかる。
2. 新生児の経過と身体的・生理的変化がわかる。
3. 母子の情報の意味づけ、対象の状況にあわせた看護実践・省察することで母子の生活に必要な看護を追求できる。
4. 母性看護における役割を理解し、看護の専門性を追求できる。
5. ポートフォリオを活用して看護実践を通して得た学びを共有できる。

授業概要

実習では、妊娠・分娩・産褥・新生児の生理的な変化を対象との関わりから実際的に学ぶ機会となる。少子化の影響で出生数が減少していることから、学生 2 人で 1 組の褥婦と新生児を受け持ち、対象の経過に応じた看護の実践を学ぶ。また、退院後の生活を見据えた指導や母子を支える医療チームアプローチの実際を知り、看護の専門性について理解を深める。実習終了カンファレンスで自身の成長を確認・交流する。短期間での看護展開になるため、主体的に実践することを期待したい。

生命誕生と親になる過程における看護者の役割を認識し、生命の尊厳についての考えを深めるとともに、自己の母性・父性意識を発展させる機会としたい。

授業計画(進め方)

1. 日程・実習場所はガイダンス用紙に準じる。
2. 妊娠経過に伴う生理的変化やマタニティビクスを通し、妊娠期の看護と運動療法を学ぶ。
3. 臨床判断モデルに沿って母子をアセスメントし、日々の状況に即した看護を実践、評価する。
4. 看護実践・カンファレンスを通し、母性・父性意識を発展させる。
5. 実習ポートフォリオを用いて、実習中に獲得した看護の学びをプレゼンテーションしあい、知の共有を図る。
6. 機会があれば分娩に立ち会い、分娩時及び出征直後の新生児の看護について学ぶ。

テキスト

ナーシンググラフィカ　母性看護学①　概論・リプロダクティブヘルスと看護　メディカ出版
ナーシンググラフィカ　母性看護学②　母性看護の実践　メディカ出版
ナーシンググラフィカ　母性看護学③　母性看護技術　　メディカ出版

参考書・指定図書

病気が見える vol.10　産科　第 4 版　メディックメディア
母性看護技術　第 3 版　医学書院
系統看護学講座　専門　母性看護学各論　医学書院

評価の方法

母性看護学実習のルーブリック評価表に添って評価する。

授業科目	区分	専門分野	
精神看護学実習	教育内容	臨地実習	
	領域		
授業担当者	開講時期	単位	時間数
渡部　暢子	前期～中期	2単位	80時間

授業の目的

精神に障害をもつ対象を理解し、その人らしい暮らしを支える看護を実践する能力を養う。

授業の目標

1. 精神保健看護の特殊性が理解できる
2. 対象の全体像を把握し、状況に合わせた看護実践ができる
3. 対象を尊重し、円滑な人間関係が築ける
4. 精神科におけるチーム医療と多職種連携について理解できる
5. ポートフォリオを活用し、看護実践を通して得た学びを共有できる

授業概要

精神障害のある対象に、1 人の尊厳ある人間として全人的に関わることを学ぶ場であり、患者―看護者関係を構築するための技術が重要である。実習では言語的・非言語的コミュニケーションを用いてコミュニケーションの基本的な姿勢である傾聴や共感について深く考える機会となる。また、すべての看護に共通するコミュニケーション技術を再確認する実習としたい。

授業計画(進め方)

秋田回生会病院、県立リハビリテーション･精神医療センターのいずれかで実習する。

実習日程	実習内容	
1日目	午前：学内オリエンテーション 午後：病院案内　受け持ち患者紹介　情報収集・アセスメント	同行・見学 ・作業療法 ・レクリエーション ・SST ・電気けいれん療法 ・デイケア ・生活訓練事業所 など
2日目	↓	
3日目	看護の方向性　確認　（個別面接）	
4日目	患者紹介プレゼンテーション　患者目標に沿った実践	
5日目	↓	
6日目	テーマカンファレンス	
7日目		
8日目	成長報告書②（成長エントリー）のコーチング（個別指導）	
9日目	成長確認プレゼンテーション	

テキスト

ナーシンググラフィカ　精神看護学②　精神障害と看護の実践　メディカ出版
ナーシンググラフィカ　精神看護学①　情緒発達と精神看護の基本　メディカ出版

参考書・指定図書

評価の方法

ルーブリック評価、教員の評価 80 点+自己評価（実習ポートフォリオ）20 点分とする。

授業科目	区分	専門分野	
看護の統合と実践実習	教育内容	臨地実習	
	領域		
授業担当者	開講時期	単位	時間数
中川　郁子	中期	3 単位	120 時間

授業の目的

医療・看護チームの一員として看護を実践できる能力を養う。

授業の目標

1. 看護管理の概要を理解できる。
2. 看護チームの一員として、援助の優先順位の考え方と時間管理の必要性を理解できる。
3. 保健医療福祉チームにおける多職種連携・協働について理解を深め、看護専門職として行動できる。
4. 自己の看護観を高め、専門職業人としての展望が持てる。

授業概要

本実習は、これまでの専門分野・統合分野の知識・技術を統合して実務に即した実習を行い、看護管理とチームでの看護の仕事を学ぶ実習である。看護管理、チームで協働する看護、複数患者受け持ち、夜間実習といった看護活動の見学・実践を通し、臨床実践の中で必要となる基礎的な知識と技術を総合的に体験できる機会となる。患者ケアに優先順位をつけることの大変さや大切さを体験し、またスタッフ同士の情報共有の重要性を学ぶことができる。受け持ち患者中心の実習を終え、間もなく看護師として働く者として、看護のさまざまな業務場面を身近にしながら、自分自身が行動レベルで看護実践力を育む機会としてほしい。

授業計画(進め方)

1. グループを 3 班に分け、複数患者受け持ち、看護管理・夜間実習・多職種連携等をローテートする。
2. 看護師長・リーダー看護師・メンバー看護師・夜勤看護師の業務の見学、多職種との連携場面の見学を通し、看護師の役割について学ぶ。
3. 患者を 2 名同時に受け持つ。患者ゴール（目標）を設定し、実践の中で援助の優先順位の決定や多重課題に対応できるようにする。
4. 受け持ち患者に必要なケアの実施、一人で実践可能なケアの拡大、メンバーの協力を得て実践可能なケア、今まで経験したケアの深化、経験項目を増やすなど看護技術の向上を図る。
5. 成長報告プレゼンテーションを通し自己の看護観を深め、専門職業人として従事することへの展望を持てるようにする。

テキスト

ナーシンググラフィカ　看護の統合と実践①　看護管理　メディカ出版
ナーシンググラフィカ　基礎看護学①　看護学概論　　メディカ出版

参考書・指定図書

評価の方法

ルーブリック評価表に沿って評価する。